

履修の手引

女子美術大学大学院美術研究科

2024

目次

□建学の精神	3	(学位授与の方針)	47
□教育理念	3	博士前期課程 学位論文・作品審査基準	47
□大学院美術研究科博士後期課程の教育目標	3	博士前期課程 研究指導及び学位審査要綱	48
□大学院美術研究科博士前期課程の教育目標	3	博士前期課程 2 年次 学位申請スケジュール	53
□主要日程	4	□博士後期課程	
本学ポータルサイト「Active Academy」	6	博士後期課程の特色および教育課程	57
授業	6	博士後期課程カリキュラム・ポリシー	
気象警報等による授業の休講	7	(教育課程編成・実施の方針)	60
単位の基準	8	博士後期課程 教育課程の構成	61
単位修得の流れ	8	博士後期課程の教育課程および教員組織	62
履修科目の登録	8	博士後期課程 履修登録	63
試験	9	「研究指導計画書」の作成	64
学習の評価と GPA 制度	11	博士後期課程 ディプロマ・ポリシー	
単位の授与	12	(学位授与の方針)	66
成績通知	13	博士後期課程 学位論文・作品審査基準	66
科目等履修生	13	博士後期課程 学位審査要綱	67
単位互換制度	13	博士後期課程 3 年次 学位申請スケジュール	73
□博士前期課程		□規 則	
大学院博士前期課程の趣旨と特色	17	女子美術大学大学院学則	77
博士前期課程 カリキュラム・ポリシー		女子美術大学学位規程	83
(教育課程編成・実施の方針)	22	□学生生活	
修了条件 (博士前期課程)	23	図書館の利用	89
博士前期課程 教育課程の構成	25	メールアドレスの付与	90
美術研究科博士前期課程の教育課程及び教員組織	26	大学院生の実技教室使用	91
博士前期課程 履修登録	29	作品及び荷物の搬出入についての取り扱い	91
「研究指導計画書」の作成	31	□本学ポータルサイト「Active Academy」	
教員免許状の資格取得	33	Web 履修登録の手順について	95
教員免許状の申請手続等	33	Web レポート提出の手順について	107
教員採用試験	33	Web 出欠登録の手順について	110
学芸員養成課程 (相模原キャンパス)	43	Q & A	112
学芸員養成課程 (杉並キャンパス)	45		
博士前期課程 ディプロマ・ポリシー			

本書に記載されたスケジュールは変更になる場合があります。(2024年3月10日時点)

表紙デザイン：DESIGN ROOM 所属

関 華蓮

〈CONCEPT〉

回り道、遠回り、近道など、大学での学びを深める中で、女子美生がそれぞれの道を見つけ、進んでいく様子をイメージしてデザインしました。大学生活は自分の道を模索し、最初に選んだ道から変わったり、時には途中で迷子になることもある時期です。皆さんが自分らしい道を見つけ、未来に向けて歩み続けることを心から願っています。

建学の精神

「女子美」の名で知られる本学園は、女性に対して高等教育機関における美術教育への門戸が開かれていなかった明治33（1900）年に、「**芸術による女性の自立**」、「**女性の社会的地位の向上**」、「**専門の技術家・美術教師の養成**」を目指して、美術教育をおこなう学校として創立しました。

以後、今日までの120年余にわたる長い歴史の間に、画壇・デザイン界をはじめ、教育界などあらゆる分野に優れた人材を輩出するとともに、社会で自立できる女性たちを送り出してきました。

現代においても、知性と感性と技能を併せもち、美術の専門を活かして社会的、経済的に自立できる人材の育成を、下記の教育理念のもとにおこなっています。

教育理念

高い教育力を通して、学生一人一人に、社会・世界について広く深い見識（教養・理論）と、精神的・経済的に自立できる能力（技術・芸術的創造力）を修得させることにより、女性をはじめ多様な人々が活躍する世界の実現に向けた担い手を育成する。

大学院美術研究科博士後期課程の教育目標

専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを教育目標とする。

このことにより、グローバル化の進む社会において直ちに指導的役割を果たし得る、高度な方法論をもつ造形理論研究者、作品制作と理論との融合による新たな視点を持つ表現者、教育者及び極めて高度な専門家として社会に貢献できる人材を養成する。

大学院美術研究科博士前期課程の教育目標

広い視野に立って精深な学識と技術を修得し、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な卓越した能力を養うことを教育目標とする。

このことにより、芸術の新しい動向に対応し、芸術研究の新分野の開拓や新しい視点からの創作研究をなし得る、確かな技術と理論を体得した制作者、研究者、教育者及び高度な専門家として社会に貢献できる人材を養成する。

美術専攻

芸術における高度な専門的知識・技術・表現力を理解・修得し、さらに多様化するメディアやテーマも視野に入れ、現代の美術において独自の創作と研究の方法論を確立します。新しい表現力で社会活動・創作活動を主体的かつ論理的に行うことのできる人材の育成を目標とします。

デザイン専攻

多岐にわたるデザイン分野において、各研究領域とも、デザイン本来の意味を充分理解し、自己能力・意識の向上を努めると共に、広い視野でデザインを捉えられるように、自ら、研究・探求・創造をおこない、感性とクリエイティブな発想、独創的な表現力の向上、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識やコミュニケーション能力を兼ね備え国際社会においても活躍出来る人材の育成を目標とします。

芸術文化専攻

美術における高度で広範囲の専門知識・技術を身に付け、社会の各領域において広く活躍出来る専門的技能・知識を修得した専門家を育成します。

主要日程

4月	
1	月
2	火
3	水
4	木
5	金 入学式
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月 前期授業開始
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月 ※ (昭和の日)
30	火

5月	
1	水
2	木
3	金 ※ (憲法記念日)
4	土 ※ (みどりの日)
5	日 (こどもの日)
6	月 ※ (振替休日)
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木
31	金

6月	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水 学生総会
27	木
28	金
29	土
30	日

7月	
1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月 (海の日)
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火 集中補講日
31	水 集中補講日

8月	
1	木 集中補講日
2	金 夏期休業 (~9月8日)
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日 (山の日)
12	月 (振替休日)
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金
31	土

9月	
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月 後期授業開始
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月 (敬老の日)
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月 (秋分の日)
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月

※ 4月29日(月)、5月3日(金)~5月4日(土)、祝日と5月6日(月)の振替休日について、講義時間帯開設科目は通常授業日とします。実技時間帯開設科目は所属研究室に確認してください。

10月	
1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土
27	日
28	月
29	火
30	水
31	木

(スポーツの日)

女子
美祭
週間

展示
期間

創立記念日

11月	
1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土

(文化の日)

(振替休日)

(勤労感謝の日)

12月	
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月
31	火

冬期休業 (～1月5日)

1月	
1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木
31	金

(元日)

授業再開

(成人の日)

月曜授業

集中補講日

集中補講日

月曜授業・後期授業終了

集中補講日

春期休業開始

2月	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金

(建国記念の日)

(天皇誕生日)

(振替休日)

3月	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土
30	日
31	月

合同学位・修了証書授与式(予定)

(春分の日)

大学・短大卒制展(予定)

本学ポータルサイト「Active Academy」

本学は履修登録やシラバス閲覧、休講連絡、大学・研究室・授業担当教員から皆さんへの諸連絡のため、本学ポータルサイト「Active Academy」（以後、「ポータルサイト」と記載）を用意しています。ポータルサイトは学内外を問わず、アクセス・利用することが可能です。利用方法については、P.95以降に記載しています。

授 業

1. 授業時間は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:20～10:50	11:00～12:30	13:20～14:50	15:00～16:30	16:40～18:10

2. オンライン授業

一部の授業では、インターネットを利用した遠隔授業（オンライン授業）の形式で実施する場合があります。遠隔授業の実施にあたっては、通信環境等の整備が不可欠になります。学生の皆さまには受講環境の整備（通信および端末）をお願いいたします。

オンライン授業に際してのマニュアル等は、随時「学生用オンライン授業サポートページ」（ガイダンス時に案内）にて公開致します。

3. 休講－授業担当教員の都合により休講する場合は、休講掲示板に掲示するとともに、履修者にポータルサイトとメールにて告知します。休講掲示・告知がなく30分経過しても授業担当教員が来ない場合は、休講措置をとることがありますので教育支援センターに問い合わせてください。

4. 補講－原則、休講分の授業については、補講期間に補講を実施します。補講の日程についてはポータルサイトにて告知します。

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。

集中補講日の時間割については、必ず別途ポータルサイトを確認してください。

5. 欠席の扱い

欠席理由により、公欠扱いとなる場合、公欠扱いとならない場合があります。以下の表を参照し、手続きを行ってください。なお、表に記載された以外の理由については全て「欠席」となります。

公欠…該当する授業の回数と欠席回数を公欠回数分減らす措置です。

欠席を出席扱いにするものではありません。

例：半期15回の授業で教育実習で3回欠席し、それ以外は全て出席した場合、12/12回（出席回数/出席すべき授業回数）となります。

欠席理由	公欠扱い	手続き方法
①教育実習	○	掲示や事前指導の指示に従ってください。
②介護等体験	○	
③博物館実習	○	
④古美術研究 (芸術文化専攻のみ)	○ ^{注1}	
⑤裁判员制度に伴う裁判参加	○	「裁判员等選任手続期日のお知らせ(呼出状)」の発行日から14日以内に、コピーを持参の上、教育支援センターに申し出てください。また、事後手続きとして、公判終了日から7日以内に、裁判所が発行する証明書を教育支援センターに提出してください。
⑥インターンシップ	△ ^{注2}	
⑦学校保健安全法 感染症の 予防に関する規則 第19条 により出席停止	○ ^{注3}	※下記【「学校保健安全法施行規則(感染症の種類)第18条」第一・二・三種疾患について】参照の上、手続きを行ってください。

(その他)

- ・公欠回については、授業担当教員から当該授業に相当する学修の指示を受けること。
- ・忌引は公欠対象外です。
- ・大規模な自然災害で欠席が5日間以上に及ぶ場合は、交通機関の証明書等を持って教育支援センターに申し出てください。

注1) 授業期間に実施した場合のみ。

- 注2) 教務部長が特別に認めたもの(大学が認めた海外インターンシップ等)のみ公欠の対象とします。
 注3) 【「学校保健安全法施行規則(感染症の種類)第18条」第一・二・三種疾患について】
 以下の疾患に該当するとの医師の診断を受けた場合は、手続きが必要になります。

対象疾患：

第一種	治癒するまで入院治療が必要。 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウィルス)、中東呼吸器症候群(MERSコロナウィルス)、特定鳥インフルエンザ
第二種	飛沫感染する感染症で、生徒の罹患が多く、学校で流行しやすい。 インフルエンザ、麻疹(はしか)、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳、咽頭結膜熱(プール熱)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第三種	経口感染症とその他学校で流行しやすい感染症。 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症(O157等)、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症[溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑、マイコプラズマ異型肺炎、流行性嘔吐下痢症(ウイルス性胃腸炎)、ウイルス性肝炎、伝染性眼疾患、伝染性皮膚疾患]

(手続き方法)

1. 医務室に連絡
 相模原キャンパス医務室：電話 042-778-6734
 杉並キャンパス 医務室：電話 03-5340-4571
 ※登校支障期間中に試験やレポート提出がある場合、追試験、追レポート対象となる科目もありますので、以下にお問い合わせください。
 教育支援センター相模原グループ：電話 042-778-6613
 教育支援センター杉並グループ：電話 03-5340-4508
2. 「登校許可書」提出
 治癒して登校する場合には、本学所定書式「登校許可書」を担当医に記入いただき、医務室へ提出してください。受診先の文書書式(感染症が治癒し感染の可能性の無い事、及び登校支障期間を明示した文書)でもかまいません。
 「登校許可書」は本学ホームページからダウンロードしてください。
 ※欠席の証明についてはこの登校許可書で行いますので、それ以外の診断書等は不要です。
3. 「公欠願」提出
 対象疾患に該当の場合は公欠となります。「公欠願」は教育支援センターにて手続きしてください。用紙は本学ホームページからダウンロードできます。
6. 授業内容の録音・撮影について
 本学では著作権保護等の観点より、あらかじめ許可されている場合を除いては、授業内容の録音・撮影を原則禁止しております。
7. 特別な配慮・支援を希望する学生へ
 入学後、障がいや疾病で授業に関する特別な配慮・支援の必要が新たに発生した場合は、教育支援センター、学生相談室、医務室に申し出てください。
 関係部署との事前相談や面談を経て、正式な申請を行うことで、配慮・支援が可能となる場合があります。なお、正式な申請の際には障がい者であることを証する書類や医師による診断書が必要になります。
 ただし、本人の希望する配慮・支援内容全てには対応できない場合があることや出席回数、成績評価基準の変更等は授業等における評価基準の本質的変更にあたるため一切行わないことについては、あらかじめご了承ください。

気象警報等による授業の休講

〔相模原キャンパス〕

気象庁より、神奈川県西部相模原に「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」の気象警報が発表された場合は以下のように取扱います(注意報は該当しません)。

- ・午前6時の時点で発表されている場合は、午前の授業を休講とする。
- ・午前10時の時点で発表されている場合は、午後の授業を休講とする。

【杉並キャンパス】

気象庁より、23区西部に「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」の気象警報が発表された場合は以下のように取り扱います（注意報は該当しません）。

- ・午前6時の時点で発表されている場合は、午前の授業を休講とする。
- ・午前10時の時点で発表されている場合は、午後の授業を休講とする。

【休講の確認方法】

上記やその他の事由により授業を休講する場合は、以下にて告知しますので確認してください。

- ・学内掲示板
- ・本学ホームページ
- ・ポータルサイト
- ・本学代表電話 <相模原キャンパス> 042-778-6111 <杉並キャンパス> 03-5340-4500

単位の基準

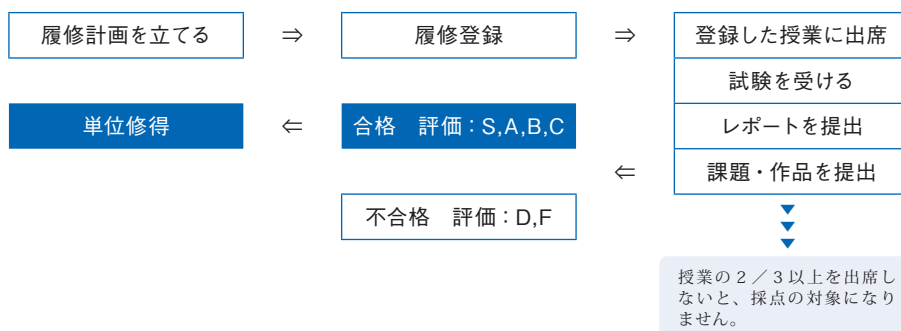
各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準により計算されます。なお、授業は前期15週、後期15週の通年30週とし、時間割の1時限は正味90分ですが単位計算上は2時間として計算しています。

講義	15時間の授業をもって1単位とする
演習	15～30時間の授業をもって1単位とする
実技・実習	30～45時間の授業をもって1単位とする

<単位のしくみ>

単位 (1単位=45時間の学修)	=	授業	+	自学自習 (予習・復習・課題等)
(例) 4単位の講義 (180時間)	=	30コマの授業 (60時間)	+	60コマ分の自学自習 (120時間)
2単位の講義 (90時間)	=	15コマの授業 (30時間)	+	30コマ分の自学自習 (60時間)
2単位の演習 (90時間)	=	15～30コマの授業 (30～60時間)	+	15～30コマ分の自学自習 (30～60時間)
2単位の实技 (90時間)	=	30～45コマの授業 (60～90時間)	+	0～15コマ分の自学自習 (0～30時間)

単位修得の流れ



履修科目の登録

年度始めに配布された「時間割表」にもとづき、その年度に履修する授業科目すべて（一部の科目を除く）を、定められた期日までにポータルサイトで履修登録してください。

試 験

1. 試験の方法

試験には筆記試験、レポート（Web 提出を含む）・作品の提出などがあります。

2. 試験の時期

筆記試験は担当教員の指示に基づいて実施します。

レポートの提出による試験は、授業担当教員の指示で各授業内に提出する場合と、各学期末に指定された日時・場所に提出する場合があります。

作品の提出による試験はレポートの提出による試験に準じて実施します。

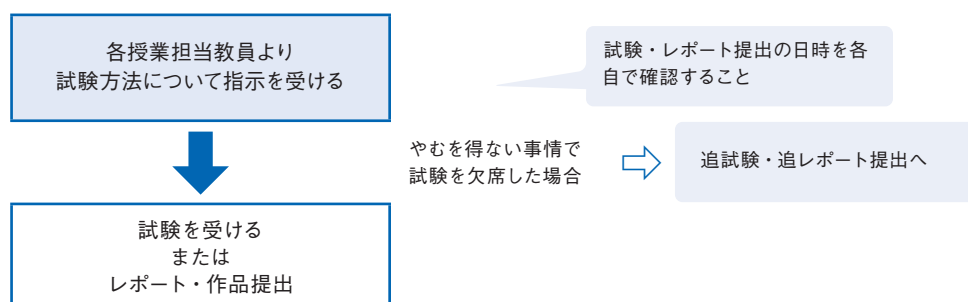
試験（筆記試験、レポート・作品提出）、補講、教室変更、その他試験に関する必要事項はポータルサイトにて告知します。

3. 受験の資格

次に該当する学生は原則として受験資格がありません。

- ・無登録者（授業科目の履修登録をしなかった者）
- ・出席が授業回数の3分の2に満たない者
- ・授業料を無断で滞納している者

4. 試験の流れ



5. 追試験・追レポート

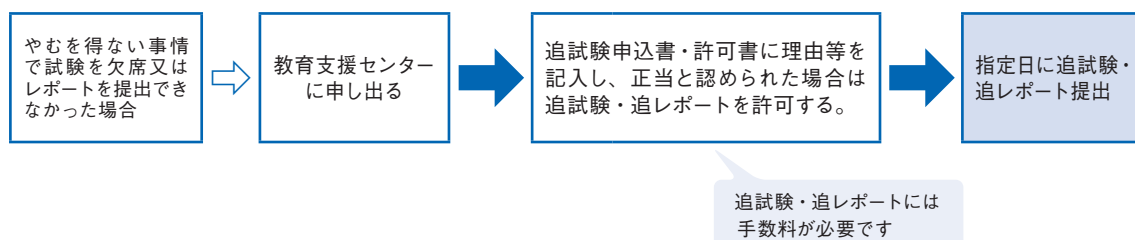
- ・次の①～⑦の理由またはその他のやむを得ない事情により、筆記試験を欠席した場合やレポート・作品提出日に提出できなかった場合、教育支援センターに追試験・追レポートを願い出ることができます。願い出が承認された場合、追試験を受験すること、レポート・作品を追レポートとして提出することができます。

追試験・追レポート受験のための理由

- ① 病気（診断書・医療機関の領収書を要する）
- ② 交通事故・遅延（相当証明書を要する）
- ③ 冠婚葬祭（該当する催しの招待状等を要する）
- ④ 就職試験（企業の証明を要する）
- ⑤ 教員採用試験（教職課程の承認を要する）
- ⑥ 公欠扱いとなるもの（教育実習・介護等体験・博物館実習など） P.6 参照
- ⑦ 天災

追試験受験・追レポート提出が認められるか否かは、前もって教育支援センターで確認してください。試験日時の勘違い、寝坊等の本人の不注意や、アルバイト、旅行等の試験放棄は対象になりません。

- ・ 追試験・追レポートの申込み期間は掲示にて告知します。願い出る時は、試験を欠席した理由、レポート・作品を提出できなかった理由を確認できる証明書（上記①～⑦参照）が必要です。期間終了後は、一切受け付けません。
- ・ 追試験・追レポートの願い出が承認された場合は、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。公欠扱いとなる理由の場合、手数料は不要です。
- ・ 追試験の日時と試験場、追レポートの提出期限・提出場所についてはポータルサイトにて告知します。
- ・ Web提出でのレポートの場合は時間を問わず提出が可能なおことから、追試験・追レポートの実施はいたしません。



6. 再試験

- ・ 卒業年次の試験で、卒業に必要な科目・資格関連科目が不合格（D）の場合は、再試験を受けることができます。ただし、評価が採点不可（F）の場合は受験資格がありません。
- ・ 再試験の願い出は、8月初旬・2月初旬の一定期間に行うとともに、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。期間終了後は一切受け付けません。
- ・ 再試験の日時と試験場はポータルサイトにて告知します。

7. 試験（筆記試験、レポート・作品提出）に関する注意事項

〔筆記試験〕

- ・ 試験開始前に、「学生証」を机上に提示してください。紛失したり忘れた場合は教育支援センターで「受験許可証」の発行を受け、受験してください。
- ・ 試験場では、筆記用具、許可された物品以外を机上に置いてはいけません。ノートや参考書の使用を許可された場合も各自持参のものを使用し、互いの貸借は禁じます。
- ・ 遅刻者の扱いは、授業担当教員（試験監督者）の指示に従ってください。
- ・ 試験中に不正行為が認められた時は、研究科委員会にはかり厳重に処分します。当該科目は採点不可（F）とし、保証人に通知します。また教員免許状取得のための大学からの一括申請は行いません。悪質と判断された場合、さらに懲戒処分を下す場合があります。

〔レポート・作品提出〕

- ・ レポートや作品を許可なく直接授業担当教員に郵送することは禁止です。
- ・ ポータルサイトで提出するレポート・作品の提出方法については、ポータルサイトのトップ画面に掲載されている「Webレポート提出マニュアル」を参照してください。
- ・ 教育支援センターではレポート・作品は所定の日時以外は受け付けません。提出期限に遅れた場合は5. 追試験・追レポートを参照し、手続きをしてください。
- ・ 生成AIについては、技術の進展や社会での活用状況を踏まえ、今後も継続して指針等の見直しを行います。使用のルールなど、大学からのお知らせを必ず確認してください。

他人の文章や作品（Webページを含む）を全部または一部でも出典を明示せずそのまま無断で借用することは剽窃（盗用）にあたります。Webページの文章を単にコピー・アンド・ペーストしてレポート作成しないよう注意してください。剽窃は、カンニング同様の不正行為とみなし、厳重に処分の上、当該科目は採点不可（F）になる場合があります。作品の剽窃（盗用）に関しても同様です。

学習の評価と GPA 制度

履修登録した科目の成績を5段階で評価し、それぞれに対して4～0のグレード・ポイント（以下、GPと表記）が付きます。GPA(Grade Point Average)とは、これらのポイントの1単位あたりの平均値になります。

評価	評価基準	合否	GP
S	100～90点	合格	4
A	89～80点		3
B	79～70点		2
C	69～60点		1
D	59点以下	不合格	0
F	採点対象外(出席不良等)	採点不可	0

評価の基準・方法は試験の点数だけでなく、課題・レポート内容や受講態度等を含めた評価によります。評価基準は各授業科目ごとに異なるので、ポータルサイトの「シラバス」に掲載されている「評価方法」欄を十分確認してください。

※不合格(D)、採点不可(F)は、「成績通知」には表示されませんが、「成績証明書」には表示されません。

GPAの種類は以下の通りになります。

学期GPA

- ・当該学期に成績評価された単位を対象として計算したGPA
- ・通年科目は後期に算出されます

通算GPA

- ・入学時から当該学期までに成績評価された単位を対象として計算したGPA

GPA計算方法（D・F評価も含めて計算します。）

学期GPA	=	$\frac{\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}}{\text{当該学期履修登録単位数}}$
通算GPA	=	$\frac{[\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}] \text{の総計}}{\text{総履修登録単位数}}$ ※入学時から当該学期まで計算

前期 (前期開設科目のみで計算)					後期 (後期・通年開設科目のみで計算)					
科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	
●●ゼミ	2	S	4	2単位×4= 8	●●語I	2	B	2	2単位×2= 4	
○○論	2	A	3	2単位×3= 6	○○学	4	C	1	4単位×1= 4	
□□概論	2	D	0	2単位×0= 0	□□論	2	D	0	2単位×0= 0	
△△演習	1	F	0	1単位×0= 0	△△実技	1	F	0	1単位×0= 0	
①前期履修登録単位数→	7			②単位数×GPの合計→	14	③後期履修登録単位数→	9		④単位数×GPの合計→	8
前期GPA	$\frac{\text{②(前期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 14}{\text{①前期履修登録単位数} = 7} = 2.00$				後期GPA	$\frac{\text{④(後期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 8}{\text{③後期履修登録単位数} = 9} = 0.89$				
通算GPA (入学時から当該学期まで計算)										
通算GPA	$= \frac{\text{入学時から当該学期までに履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計} \text{ ② } 14 + \text{④ } 8}{\text{総履修登録単位数} \text{ ① } 7 + \text{③ } 9} = 1.38$									
成績通知書 例										
	前期	後期	通算							
	2.00	0.89	1.38							

GPA対象外科目

- ・認定科目（既修得単位認定）
 - ・芸術学部よりの科目等履修提供科目
 - ・修了要件に含まれない科目（教職に関する科目、博物館に関する科目）
 - ・博士後期課程研究指導
- 一部の科目を除き、単位修得した科目を再履修する事はできません。
不合格・採点不可科目を再履修し単位修得した場合、当該科目の不合格、採点不可の際の単位については、総履修登録単位数から減算します。

単位の授与

授業回数の3分の2以上出席し、試験等の評価がC以上だった科目は合格とし、所定の単位を与えます。一部の科目を除き、単位修得した科目を再度履修することはできません（P.30〔複数履修可能な科目〕参照）。

不合格（D）・採点不可（F）だった場合は、次期以降に再履修することができます。

留学中の本学開設科目学修について

遠隔授業による履修が可能となる場合でも、学籍「留学」中は認定できません。

成績通知

1. 成績通知

今年度履修科目の成績通知（成績・修得単位）は以下の時期に通知します。

	成績通知（前期科目）	成績通知（通年・後期科目）
1年次	9月後期授業開始日に配付	春期休業中（3月中旬）にポータルサイトにて通知
2年次	9月後期授業開始日に配付	2月中旬に配付
保証人	保護者ポータルサイトで成績を確認できます。	

2. 成績照会

成績はポータルサイトで確認できます。

3. 採点調査願

「成績通知」に疑問がある場合は、成績評価が「D」または「F」の科目に限り、所定の期間に「採点調査願」を教育支援センターで受け付けます。（期間を過ぎたものは受け付けません）申請方法はポータルサイトにて告知します。

科目等履修生

本学の授業科目の履修を希望する者は、本学学生の修学に支障のない限りにおいて選考の上、科目等履修生となることが出来ます。申込期間は前期・通年科目は3月中旬、後期科目は7月初旬になります。

単位互換制度

本学大学院では沖縄県立芸術大学大学院および神奈川県内の各大学大学院と単位互換制度を行っています。提供科目、申請の時期等、詳細については別途告知します。

博士前期課程

大学院美術研究科博士前期課程の趣旨と特色

趣 旨

a. 芸術の新しい動向に対応し得る、確かな原理を体得した専門家・作家・研究者の養成

技術革新、社会の国際化、情報化、人々の欲求や価値観の多様化などの社会的動向を反映して、美術・工芸・デザインの諸領域は拡大し多様化するとともに、伝統的なジャンルの境界が消滅しつつあり、したがって、美術に関する知識・技術そして体験には、高度な水準とともに幅の広さも求められるようになりました。美術における研鑽は伝統的に個人の制作体験、時として職人的な作業の繰り返しが中心となってきました。これに対して本研究科は、体系的なカリキュラムを編成して、理論的・技術的な基礎と、幅広い知識、普遍的な認識をもった高度な専門家の養成を主眼とするとともに作家、研究者としての基礎を与えることを目標としています。

b. 芸術研究の新分野の開拓

本研究科は、芸術研究領域の拡大と論理研究の向上に資するとともに、社会的要請に応えるためにいくつかの新しい分野に開設しました。

c. 新しい視点からの創作研究

実技制作は、作家個人の創作活動の積み重ねを主な研究手段としてきました。しかし、創作活動のうちある種の部分、たとえば造形素材とその加工技術、各種用具・機材の利用、表現技法等には、実験的・論理的考察から一般原理の成立が見込まれます。本研究科は、これらの部分についての理解を深めるカリキュラムを編成しました。従来、個人的研鑽と模索に委ねられていた創作研究を、一貫した教育システムにのせて継承発展させてることにより、美術の多様化・領域の拡大に対応して芸術的発想と表現とに広がりや厚みが増えると考えてのことです。

教育研究上の特色

構成の特色

美術研究科を美術専攻・デザイン専攻・芸術文化専攻に分け、それぞれに理論研究の科目を配し、合わせて16研究領域から構成しました。

① 美術専攻

美術専攻は、伝統的な分野を含むファインアート系として実技制作を中心とした「洋画」「日本画」「版画」「工芸」「立体芸術」の5つの領域があります。美術における研鑽は、伝統的に個人の主体性に基づいて創作するものですが、時として職人的な制作活動の繰り返しにより、表現者としての自己確立を目指すものでもあります。

この領域では美術の新しい動向に対応するとともに、境界を越えた表現領域の拡大、多様化に応えられるような効率的かつ整合性のあるカリキュラム編成をしています。芸術学部から一貫した専門性の追求ができると同時に、多角的なアプローチからなるジャンルを越えた視点を通じた実践によって本来の専門へと集約します。

個人の手による表現に客観的評価を加味する素材や手法の演習を通じて実証的、分析的、系統的に研究する独自のシステムによって次のような成果が期待できます。

1. 発想の幅を広げ、ジャンルの境界を越えた創作研究が進められる。
2. 新たな表現の可能性を容易にする。
3. 作品制作における十分な論理的補強を行う機会を得て、論理的思考を養成できる。

② デザイン専攻

21世紀のデザインの包括する領域はますます拡大かつ多様化しつつあります。デザイン界の様々な社会的ニーズと学生の将来的発展の可能性を求め、デザイン専攻は、相模原校地と杉並校地において7つのデザイン領域を設置しています。

相模原校地では、「ヴィジュアルデザイン」、「プロダクトデザイン」、「環境デザイン」の3領域が、それぞれ研究を進めています。

また、杉並校地では、「メディア」、「ヒーリング」、「ファッションテキスタイル」、「アートプロデュース」の4領域が、理論と創作表現の研究を進めています。

以上、多岐にわたるデザイン分野において、各研究領域とも、デザイン本来の意味を充分理解し、自己能力・意識の向上を努めると共に、広い視野でデザインを捉えられるように、自ら、研究・探求・創造をおこない、感性とクリエイティブな発想、独創的な表現力の向上、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識やコミュニケーション能力を兼ね備え国際社会においても活躍出来る人材の育成をおこないます。

③ 芸術文化専攻

過去から現在、そして未来へと創造を続ける美術は、人間の永遠の表象行為として多義性に満ちています。多様な表現世界が展開する今日、社会的な美術の構造分析に対する求めに応じ、芸術文化専攻は「色彩学」「美術史」「芸術表象」「美術教育」の4研究領域により美術の色・歴史・表現・教育に関する高度で多面的な美術理論研究の構築を目指します。

「色彩学」は、色彩の心理学的側面と光学的側面の2つの立場から色彩の実相に迫ります。「美術史」は西洋美術史、日本・東洋美術史の分野において、作品や作家、制作状況等に関する歴史的解析を行います。また「芸術表象」では、現代アートの表現や活動を中心に、映像や文学、パフォーマンスなども視野に入れつつ、背景となる社会動向や思想哲学を深める研究に取り組みます。さらに「美術教育」では、美術の教育的意義や効果的な美術教育の方法論について研究します。

いずれの研究領域とも、制作と鑑賞の双方に立脚した美術大学にふさわしいカリキュラムを編成し、将来の研究・教育・言論等の各ジャンルで活躍が期待される人材の育成を図ります。

研究領域の特色

美術専攻

【洋画】

今日ほど、真に芸術が求められている時代はありません。諸科学の進歩は人間の生活に飛躍的な便宜性をもたらしてくれましたが、その反面、紛争や環境破壊といった負の文明も引き受けてしまいました。各個人に広がる、「心の闇」の不安にも計り知れないものがあります。洋画研究領域では、このような現代社会の中であって、絵を描く喜び、物を創る楽しさを実感することで社会に「希望」のメッセージを発信したいと考えています。絵画は精神の設計図でもありプログラムでもあります。今日を生きる精神の在り方、態度といった芸術の本質的問題を多くのメディアの総合として提示できるのが絵画です。研究領域では国際的視野に立って、現代アートの表現はどうあるべきか、学部で身につけた技術や知識の上に、さらに多様な手法を追求し、各自のテーマを深めます。自然、文化、物質、その他関心の深いテーマを視座に置き、柔軟な発想で展開していくには材料や技法についても固定的な考えに縛られずにより創意ある表現に向けて大胆な実験を繰り返すことが不可欠です。そのような高度な訓練によって大学で体験した表現の質とスケールをさらに魅力あるものに高めていきます。本領域では、自由闊達なゼミと創作研究に没頭できる制作現場、研究環境を整え、世界に通用する個性とオリジナリティーのある新しい表現力を持った美術作家のみならず、研究者、教育者の育成をも目指します。

【日本画】

日本画の歴史と伝統を踏まえた、真の個性を磨くことで、創造の本質を蔵した日本画を創出できる作家及び、研究者の育成を目指します。「日本画表現技法演習」では、古典作品の模写研究を通じて古来より受け継がれる専門技法や知識を習得し、過去作品の鑑賞眼と洞察力を養い、日本絵画の歴史に通底する絵画表現における普遍性を学びます。「日本画材料・技法演習」及び「絵画材料・技法演習」では、日々変化する日本画材料や日本画技法に迅速に対応すべく、電子顕微鏡や粉体工学技術を応用した機器の利用と、現代日本画家の技法実演を通じて、科学的、多角的に日本画を捉えられる視点を身につけ、多様化する絵画表現分野における立脚地を各自が見出すことを促します。

【版 画】

版画創作研究は、研究の基幹として入学時に専攻の版種を決めます。研究科においては基本的に学部における4版種の研究に立脚し、銅版画とリトグラフを軸としてシルクスクリーン・木版画さらに版表現に類する表現も含め各自の主体性に基づき継続的に専門性を追求します。

版画は印刷媒体として派生し、その時代の社会に敏感に反応し表現や技術を発展させました。今日では絵画の一領域として、現代の多様化するメディアも視野にいれ版表現としての造形思考を模索する事が重要となっています。そのために、時代の要求として生まれた表現がいかに普遍的表現に変わったか、史学的、科学的な要素も含めた検証を試みながら変遷をたどるとともに、具体的検証法として、特定の作家を題材にイメージの解明、創作コンセプト、素材と技術との相互の影響を分析研究し、今日のメディアを考慮しながら現代の美術において独自の創作の方法論を確立します。

版画表現における技術偏重が批判され、個人の創造性が期待されて久しいものの、一方、見方を変えるとその技術、素材などの研究、教育も不十分であり個人的研鑽と模索に委ねられていることも事実です。版画表現技術も創作研究の新たな視点として一貫した教育システムのうちに継承発展させる必要があります。実際の技法と材料の研究を目的として、既存の材料、技法のみにこだわらず必要となる材料を各自で考案・開発する基礎力をつける事を目指します。

【工 芸】

工芸研究領域では、日本のものづくりの伝統に根ざしたこれからの工芸の可能性を見出し、独自の表現を発見し、新しい創作研究を目指します。

大学院では多角的な視点を持ち、多様化する現代に対応した造形表現を追究し、自らの独創性を深める創作につなげることが出来る作家を育成していきます。

創作テーマを確立し、その実現のために学部で学んだ技術を基に更なる技術の習得と素材の探求を行い、染、織、刺繍、陶、ガラスの5領域の専門性を高めます。

創作研究を追究していくことは現代社会の様々な問題と向き合うことにも繋がります。今後は持続可能な素材や技術の研究も必要な課題となるでしょう。時代の変化を捉えながら、社会との関わりの中でオリジナリティある作品を創作し、発信できる人材を育てます。

【立体芸術】

表現手段が多様化した現代において、当研究領域では時代の流行に左右されることなく、本質的な表現を求め、しなやかに自由に創作活動を探求していくことを中心に置いています。人間の根底にある美的感性に響く表現を求め研究し、専門性をより深め、時代に翻ろうされない自己の表現性を確立していく事を目指します。

世界に無数にある物や事を素材とし、頭の中のイメージに質量を与えて具現化していく立体芸術表現は、世界と自己との対話を形にしたものとも言えます。従来彫刻の枠を超え、多種多様な素材を自由に応用し、自己の感性を信じ、自分の世界を展開していきます。

立体芸術の専門的な経験や知識だけでなく、歴史や多様な知識も学び、時代感覚を身につける事や、様々な文化や表現に触れる事、作品を通じて自己と他者との接点や、制作の必要性、社会との関わり等を考える事で、世界の認識の解像度を上げ、より説得力のある立体芸術表現へと昇華させます。

デザイン専攻

【メディア】

メディア研究領域では、情報とコミュニケーションをキーワードに、アート・デザインなど造形表現とメディア研究の立場から情報先端技術を取扱い、クリエイティブで人間性豊かな技術活用や表現を追求します。技術と芸術を高度なレベルで融合させ、表現者・研究者として社会に様々な提案を行なうことを目標とします。

具体的な研究領域として

- ・映像 (映像、アニメーション、3DCG、デジタルフォト)
- ・インタラクティブ (ゲーム、インタラクティブアート、ロボット)
- ・仮想現実 (Virtual Reality)、拡張現実 (Augmented Reality)

・コミュニケーションデザイン（ポスター、Webデザイン、イラストレーション、スマホアプリ開発）などを含みます。

この領域では、平面的な視覚表現だけでなく、時間的・空間的要素を加え融合させ、人と人のコミュニケーションをテーマとした総合的な表現と研究を行ないます。さらに実社会との連携を重視し、企業や研究機関とも協同しながら、次世代のコミュニケーションや技術活用について制作研究を行ないます。

【ヒーリング】

われわれが日常生活において、心地よい空間、潤いのある空間で生活を営むことは、精神衛生上不可欠な問題である。精神の安静とストレスの溜まりにくい、リラックスした環境作りについて考えると、そこにはデザインやアートが存在が重要な役割を果たす要素として関わっている。

現代社会におけるヒーリング（癒し）について、アートとデザインの領域から個々のテーマを設定し、研究していくことで、社会との関わりや必要性を探る。ヒーリング表現を、創作と理論を通して考えて行くことにより、自己の可能性を広げるとともに社会性のある新たな発見を目指す。また、社会の様々な現場で活用されているワークショップ型体験学習によって、個人や集団のコミュニケーションを高め、社会に横たわる様々な問題の改善方法を探ることも視野に入れていく。加えて、医療空間や福祉施設、様々な公共空間、日常生活空間に至るまで、人の暮らしとヒーリングの関係を考察し、ヒーリングを目的とした表現、手段、媒体について、視覚伝達デザイン、住環境デザイン、映像表現、絵画表現、などの作品制作や理論研究によって探求していく。

さらに、身体と向き合うボディーワークを通してアートや環境から得られた「気づき」を、各人の創作や研究に結びつけていく。同時に研究テーマに対して、医学的な調査と検証、色彩心理の調査と検証に基づくデータ分析などから理論的な研究を推し進めていく。これらにより各自の研究を社会にどのように還元し、活用させていくのかといった方法についても探っていく。

【ファッションテキスタイル】

人は何のために衣服を身につけてきたのか？

そして、衣服は何のためにあるのか？

衣服は、身体保護、装飾性、身分の証、そして自己のアイデンティティを示すなど、様々な役割を果たしています。このことを踏まえながら、日常における自然な行為を再認識し、身体や社会が提起する問いに対する答えとしての衣服や、その多様性、さらには身体や衣服に対する概念について、多様な視点から考察を深め、研究し、社会への還元を目を向ける必要があります。

本領域では、自己の存在と向き合いながら、人と空間、人と環境について考察し、衣服と身体の関係が、社会の中でいかにあるべきかを思索し、作品制作と論理的な研究へと繋がります。具体的な活動として、日本の伝統繊維の地域プロジェクトは、日本の風土や文化の調査研究を基に、ワークショップや新しい発想から作品制作、発表へとつながります。美術やデザインの他領域・分野の人や物との交流を積極的にいながら衣服造形（コンセプチュアルクローズ）の表現者、また、衣服デザイン（リアルクローズ）の表現者、企画者の育成を目指します。

【アートプロデュース】

「アートプロデュース研究領域」はキュレーター（学芸員）、アートプロデューサー、ファシリテーター養成の形式的な教育だけでなく、アーティストックな感性や視点を大切に、いかにしてより良い社会を創出することができるか、その社会のアート化、デザイン化に関する研究と実践を展開する「感性の研究室」です。

私たちが創り出すべき作品や研究は、人間の喜怒哀楽を受止める、人間中心の「社会」そのものであるという視点に立ち、視覚芸術、音楽、演劇といった芸術世界のみならず、広く政治、経済、教育、福祉、医療などを射程に入れ、人間性を肯定する社会創造のためのアドボカシーを、それぞれの作品や研究を通して発信、プロデュースしていきます。

【ヴィジュアルデザイン】

人類の発生と同時に人間はコミュニケーションを通じて様々な文化の発展と継承を行ってきました。人

間社会の中でテクノロジーの発展に伴い情報は多様化し、コミュニケーションの媒体は、複雑化しています。情報発信は、膨大な情報の渦から選択され、迅速に、正確に必要な情報を伝えなければなりません。時には双方向で伝えあうことが必要とされるようになりました。高度情報化社会の中で、視覚デザインの持つ意義はますます大きくなり、加えてグローバルデザイン、ユニバーサルデザインの視点も求められています。

ヴィジュアルデザインでは、主観的に捉えるイメージーションを、言語でいうならば標準語としての造形言語を基礎にし、自己の独創性がさまざまな視覚伝達機能と共存させられるかを、ひとつの問題提起として実験研究するものです。

制作研究のテーマについては、各自が設定したテーマによって、視覚造形として多角的に研究していきますが、グラフィック表現をはじめ、出版、タイポグラフィ、イラストレーション、ブランディング、アドタイピング、写真、映像、それらのアートディレクション、そして視覚造形表現の可能性を追求する純粋なビジュアルアート研究までを含め制作研究の領域とします。

【プロダクトデザイン】

プロダクトデザイン領域は、モノと人の関係性、それを取り巻く環境、社会が抱える課題解決のデザインを研究する場です。モノと人の普遍的な価値、時代により変化する価値を見極め、デザインが果たす役割を見出すことが研究の本質であると考えます。社会に貢献するデザインの役割を問い、次時代に適合する視点で解決する創造・研究を指導します。

【環境デザイン】

環境デザイン領域は、人と空間・環境の相互関係をデザインし、21世紀の新しい生活環境を研究する場です。

20世紀の近代デザインは、人々が共に健康で豊かな生活ができる社会の実現を目指しましたが、科学技術や社会構造の急激な変化が引き起こした資源浪費や環境破壊などのマイナス面に十分な対応ができませんでした。その解決と新たな価値観の創造が求められているのが現代であると言えます。

本専攻では、インテリアデザインと建築・都市デザインを通して、人にやさしい生活空間と自然と共生し持続可能な都市環境への提案を行います。そのために手と目から思考する自由で高度な研究・創造活動を支援します。

芸術文化専攻

【美術史】

本研究領域には、西洋美術史、日本・東洋美術史の研究分野があります。美術史研究は、美術作品が制作された当時の歴史的文脈を明らかにするとともに、人間の営みとしての美術の役割、その今日的な意義を検証するものです。

長年にわたって構築されてきた人文科学・社会科学の方法論を踏まえることはもとより、近年の隣接領域のさまざまな研究方法や成果を柔軟に採り入れながら、美術史を構成する基本的な問題としての時代様式や作品の分析、作家論、受容史などにアプローチします。

本研究領域の研究指導科目である「美術史研究」や「美術文化特殊研究」、共通理論科目の中の美術史系科目のほか、共通実技科目である「芸術創作応用」を選択することにより、素材の研究や表現技法の研究など美術大学ならではの科目を履修することができ、それによって芸術家のより具体的な創造の源に近づき、多角的な美術史研究が可能になるでしょう。

また、様々な素材からなる美術品や文化財に対する光学等の先端技術を取り入れた自然科学的分析研究や、とくに油彩画ならびに彫刻文化財に関する保存修復の諸問題を扱う科目なども用意し、美術史をいわば理論と応用の双方から学ぶことができます。

【美術教育】

美術教育研究領域では、実技制作と理論研究の両面から、美術の教育的意義や美的な人間形成、あるいはさまざまな美術教育の方法論について研究します。そのためのカリキュラムは、美術教育に関する科目を始めとして、実技制作に関する科目、美術理論に関する科目から構成されます。

まず実技制作は、共通実技科目である「芸術創作応用」を選択することにより、学部の段階で自分が専攻した分野以外のさまざまな分野の実技制作を行います。たとえば、学部で絵画を専攻したとしたら、大学院では絵画以外の彫刻、デザイン、工芸など、専門的な技術を幅広く習得し、それによって広い視野で美術を見つめる能力、表現する能力を身につけます。また美術理論では、共通理論科目からさまざまな美術史、美術理論・造形理論を学習する機会が準備されています。

そして、美術教育研究領域の中核である美術教育に関する科目では、学校教育における美術教育のみならず社会教育・生涯学習における美術教育まで含めて、表現することの根源にある思想や人間形成における美術の本質的意義、美術教育の方法論などについて学習します。すなわち、学校教育場面で必要な絵画・彫刻・デザイン・工芸などの指導法の研究はもとより、教育活動やワークショップを実践研究し、さらに美術教育で養う「情操」や「感性」など人間形成への関与について、人文科学的なアプローチから研究します。「美術の力」を学問的に探求していくことで、理論的基礎と実践的指導力を併せもつ美術教育者の育成を目指します。

博士前期課程 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

大学院 美術研究科 博士前期課程（共通）

大学院美術研究科博士前期課程（共通）は芸術の新しい動向に対応し得る、確かな原理を体得した作家・研究者・教育者・高度な専門家を養成することを目的にカリキュラムを編成します。

- ・専攻・研究領域の枠を超えて、各研究領域の基本となる技法と分析方法、美術・デザインに関する理論に取り組むことで、学生各々の研究テーマに自由な発想と分野横断的かつ複合的視野を養う。
- ・研究課題に応じて他研究領域の実技に取り組み、新しい芸術感性と発想力、幅広い視野を培う。

美術専攻

美術の新しい動向に対応するとともに、個々の表現を追求しながら、客観的評価を加味する素材や手法の演習を通じて、実証的、分析的、系統的に創作研究するカリキュラムを編成します。

- ・発想の幅を広げ、伝統的に固定されてきたジャンルの境界を越えた表現の創作研究を可能とする。
- ・作品制作における十分な理論的補強を行う機会を設け、論理的思考を養成する。

デザイン専攻

拡大かつ多様化し続けるデザインに対して、個々の研究テーマを定め、研究テーマの裏付けとなる調査やデータ分析などの論理的な分析を行いながら、表現・手法の専門的技術の追求と作品制作に取り組み、独自の視点の創作表現を探究するカリキュラムを構築します。

- ・豊かな発想と表現力を育む制作環境と指導体制を整え、作品制作と論理的な研究の両面から、学生の将来的発展の可能性を追求する。

芸術文化専攻

美術における伝統と創造の価値を統合する理論的な枠組みを構築し、多様な今日的視点から美術についての理論的な分析による高度で多面的な研究を行うためのカリキュラムを編成します。

- ・色彩研究領域では、色彩学における理論と方法論を会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るよう指導する。
- ・美術史研究領域では、隣接領域の研究手法や成果をも柔軟に採り入れながら、美術史における理論と方法論を会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るよう指導する。
- ・芸術表象研究領域では、理論と実践をふまえて、芸術表象における理論と方法論を会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るよう指導する。
- ・美術教育研究領域では、隣接諸科学の方法論や研究成果を取り入れながら、美術教育における理論と方法を会得し、自らのテーマに沿った研究を構築することが出来るように指導する。

修了条件（博士前期課程）

大学院博士前期課程を修了するためには各研究領域・コースに定められた必修・選択必修科目を含めて32単位以上を修得し、美術専攻は修士作品、デザイン専攻は修士論文または修士作品、芸術文化専攻は修士論文を提出し、審査に合格する必要があります。

美術専攻

研究領域・コース 科目	洋画・日本画・ 版画・立体芸術	工芸（染）・工芸（織）・ 工芸（陶）・工芸（ガラス）	工芸（刺繍）
研究指導科目	16（注1）	16（注1）	16
共通実技科目	4（注2） 8 }	2（注2） 8 }	6（注2） 8 }
研究関連科目			
共通理論科目			
合計	32 単位	32 単位	32 単位

注1. 1 研究領域・コースを選択すること。

注2. 各研究領域・コースが指定する研究関連科目を修得すること。

- ・洋画「洋画表現技法演習」、「洋画材料・技法演習」
- ・日本画「日本画表現技法演習」、「日本画材料・技法演習」
- ・版画「版画表現技法演習」、「版画材料・技法演習」
- ・工芸（染）「染織素材・技法演習」
- ・工芸（織）「染織素材・技法演習」
- ・工芸（刺繍）「染織素材・技法演習」「染織品保存修復演習Ⅰ」、「染織品保存修復演習Ⅱ」
- ・工芸（陶）「陶素材・技法演習」
- ・工芸（ガラス）「ガラス表現素材演習」
- ・立体芸術「立体芸術表現技法演習」、「立体芸術材料・技法演習」

注3. 修士作品を提出すること。

デザイン専攻

研究領域 科目	メディア・ヒーリング・ ファッションテキストスタイル・ アートプロデュース・ヴィジュアルデザイン	プロダクトデザイン・環境デザイン
研究指導科目	16（注1）	16
共通実技科目	4（注2） 8 }	6（注2） 8 }
研究関連科目		
共通理論科目		
合計	32 単位	32 単位

注1. 1 研究領域を選択すること。

注2. 各研究領域が指定する研究関連科目を修得すること。

- ・メディア「インタラクティブ空間演習」、「情報メディア演習」
- ・ヒーリング「アウェアネス演習」、「ヒーリングデザイン演習」
- ・ファッションテキストスタイル「繊維衣服表現演習Ⅰ」「繊維衣服表現演習Ⅱ」
- ・アートプロデュース「アートプロデュース演習Ⅰ」「アートプロデュース演習Ⅱ」
- ・ヴィジュアルデザイン「画像研究演習」、「コミュニケーションデザイン演習」
- ・プロダクトデザイン・環境デザイン「デザイン素材演習」、「形態研究演習」、「空間構造演習」

注3. 修士論文または修士作品を提出すること。

芸術文化専攻

研究領域 科目	色彩学	美術史・芸術表象	美術教育			
研究指導科目	16	16 (注1)	16			
共通実技科目	} 16	} 16	} 16			
研究関連科目				6 (注2)	2 (注2)	8 (注2)
共通理論科目				8	8 (注3)	8
合計	32 単位	32 単位	32 単位			

注1. 1 研究領域を選択すること。

注2. 各研究領域が指定する研究関連科目を修得すること。

- ・色彩学「色彩管理演習」、「色彩実験・調査演習」、「視覚工学演習」または「視覚デザイン演習」
- ・美術史「保存修復論A」、「保存修復論B」、「鑑定分析論」、「文化創作演習」、「芸術表象特講Ⅰ」、「芸術表象特講Ⅱ」の中から2単位以上
- ・芸術表象「保存修復論A」、「保存修復論B」、「鑑定分析論」、「文芸創作演習」、「芸術表象特講Ⅰ」、「芸術表象特講Ⅱ」の中から2単位以上
- ・美術教育「美術教育基礎演習」、「デザイン教育基礎演習」、「美術教育論特講A」、「美術教育論特講B」

注3. 各研究領域が指定する共通理論科目を修得すること。

- ・美術史「日本美術史特講A」、「日本美術史特講B」、「アジア美術史特講」、「西洋美術史特講A」、「西洋美術史特講B」、「近現代日本美術史特講」、「現代芸術特講A」、「現代芸術特講B」の中から4単位以上
- ・芸術表象「伝統と創造」、「言語とアートA」、「言語とアートB」、「図とアート」、「現代文化論」の中から4単位以上

注4. 修士論文を提出すること。

■授業の開講キャンパス

研究指導科目、共通実技科目、研究関連科目は研究領域・コースのキャンパスにて開講します。

美術専攻、デザイン専攻ヴィジュアルデザイン研究領域、プロダクトデザイン研究領域、環境デザイン研究領域、芸術文化専攻に関する科目は相模原キャンパスにて、その他の研究領域・コースに関する科目は杉並キャンパスにて開講します。

共通理論科目は両キャンパスにて開講します。

■研究指導

美術専攻

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士作品を作成する。

デザイン専攻

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文または修士作品を作成する。

芸術文化専攻

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文を作成する。

■修士論文・修士作品の提出

2年次の初めに各研究テーマにそって、指導教員を決定するので、その研究指導に従い、修士論文・修士作品を作成し、学位申請書とともに所定の期日までに提出すること。(P.48 学位審査要綱参照)

博士前期課程 教育課程の構成

博士前期課程は、次の4つの科目区分によってカリキュラムを構成している。

(1) 研究指導科目

各学生の研究制作、研究テーマに基づいて、指導教員による研究指導を受け、修士作品または修士論文を作成していく科目。

(2) 共通実技科目

研究課題に応じて他の研究領域について実技を通して研究し、新しい芸術感性と幅広い視野でアプローチできる作家・研究者を養成することを目的にした実技科目。

(3) 研究関連科目

各研究領域の基本となる知識、技法、分析方法等に関する授業科目を開設し、多様なアプローチを習得し、専門領域に関する知識を深め、各自の研究テーマへと関連づけていく科目。

(4) 共通理論科目

全専攻にわたって美術・デザインに関する理論的基礎を習得させるとともに、各研究領域を越えて自由な発想と分野横断的かつ複合的視野の養成を図ることを目的とした科目。

美術研究科博士前期課程の教育課程及び教員組織

美術専攻

授業科目名	単位数	授業を行う年次	担当教員	開講キャンパス	備考		
					修了のためには1研究領域を選択の上、必修・選択必修を含めて32単位以上修得すること。さらに修士作品を提出し、審査に合格すること。		
研究指導科目	洋画創作研究Ⅰ	8	1	大森 悟 福士 朋子 山内 隆 鴻崎 正武	相模原	研究領域 洋画は必修	16単位必修 (1研究領域を選択すること)
	洋画創作研究Ⅱ	8	2	堀込 幸枝			
	日本画創作研究Ⅰ	8	1	岸野 香 宮島 弘道 稲田 亜紀子	相模原	研究領域 日本画は必修	
	日本画創作研究Ⅱ	8	2				
	版画創作研究Ⅰ	8	1	清水 美三子 阿部 大介	相模原	研究領域 版画は必修	
	版画創作研究Ⅱ	8	2				
	工芸創作研究Ⅰ	8	1	工藤 聖美 荒 姿寿 大崎 綾子 加藤 尚子	相模原	研究領域 工芸は必修	
	工芸創作研究Ⅱ	8	2				
	立体芸術創作研究Ⅰ	8	1	帆足 枝里子 山本 桂輔	相模原	研究領域 立体芸術は必修	
立体芸術創作研究Ⅱ	8	2					
共通美術科目	芸術創作応用Ⅰ	2	1・2	P.30参照			
	芸術創作応用Ⅱ	2	1・2				
	海外芸術プログラム	2	1・2				
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	1・2	福士 朋子 大森 悟 山内 隆 鴻崎 正武	相模原	研究領域 洋画は必修	
	洋画材料・技法演習	2	1・2	堀込 幸枝 坂口 寛敏			
	日本画表現技法演習	2	1・2	岸野 香 渋谷 雅司 藤井 聡子	相模原	研究領域 日本画は必修	
	日本画材料・技法演習	2	1・2	稲田 亜紀子 村岡 貴美男 藤井 聡子			
	絵画材料・技法演習	2	1・2	宮島 弘道 尾藤 衛己	相模原	研究領域 版画は必修	
	版画表現技法演習	2	1・2	滝沢 恭司 中尾 拓哉			
	版画材料・技法演習	2	1・2	作田 富幸	相模原	研究領域 工芸(染・織・刺繍)は必修	
	染織素材・技法演習	2	1・2	工藤 聖美 荒 姿寿 大崎 綾子 山下ちかこ			
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	1・2	大崎 綾子 深津 裕子 田中 淑江	相模原	研究領域 工芸(刺繍)は必修	
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	1・2	大崎 綾子 深津 裕子 米倉 乙世 田中 淑江			
	陶素材・技法演習	2	1・2	鈴木 寿一	相模原	研究領域 工芸(陶)は必修	
	ガラス表現素材演習	2	1・2	加藤 尚子			
	立体芸術表現技法演習	2	1・2	中村 義孝 帆足 枝里子 山本 桂輔	相模原	研究領域 立体芸術は必修	
立体芸術材料・技法演習	2	1・2	中村 義孝 山本 桂輔				
共通理論科目	造形芸術原論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並	
	アート&ビジネス論特講	2	1・2	2025年度開講	相模原		
		2	1・2	彦根 延代		杉並	
	デザイン原論特講Ⅰ	2	1・2	野見山 桜	相模原	杉並	
	デザイン原論特講Ⅱ	2	1・2	野見山 桜	相模原	杉並	
	デザイン史特講	2	1・2	阿部 宏史	相模原	杉並	
	色彩文化論特講	2	1・2	本吉 勇	相模原		
		2	1・2	島倉 瞳		杉並	
	色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	吉澤 達也	相模原		
		2	1・2	2025年度開講		杉並	
	色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	吉澤 達也	相模原		
		2	1・2	2025年度開講		杉並	
	日本美術史特講A	2	1・2	齊藤 全人	相模原		
		2	1・2	2025年度開講		杉並	
	日本美術史特講B	2	1・2	新江 京子	相模原		
		2	1・2	新江 京子		杉並	
	アジア美術史特講	2	1・2	檜山 満照	相模原		
		2	1・2	2025年度開講		杉並	
	西洋美術史特講A	2	1・2	カマチョ・クルス・ハビエル	相模原		
		2	1・2	2025年度開講		杉並	
	西洋美術史特講B	2	1・2	三谷 理華	相模原		
		2	1・2	カマチョ・クルス・ハビエル		杉並	
	近現代日本美術史特講	2	1・2	戸張 泰子 藤田 百合	相模原		
		2	1・2	戸張 泰子		杉並	
	現代芸術特講A	2	1・2	中野 仁詞	相模原		
		2	1・2	2025年度開講		杉並	
	現代芸術特講B	2	1・2	中野 仁詞	相模原		
	2	1・2	中野 仁詞		杉並		
伝統と創造	2	1・2	2024年度休講	相模原			
	2	1・2	菅原 伸也		杉並		
言語とアートA	2	1・2	2024年度休講	相模原			
	2	1・2	仲俣 暁生		杉並		
言語とアートB	2	1・2	2024年度休講	相模原			
	2	1・2	長 チノリ		杉並		
図とアート	2	1・2	佐藤 紀子	相模原	杉並		
現代文化論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並		

※デザイン専攻及び芸術文化専攻の研究関連科目を履修し、修了のために必要な単位を修得することができる。

デザイン専攻

授業科目名	単位数	授業を行う年次	担当教員	開講キャンパス	備考		
					修了のためには1研究領域を選択の上、必修・選択必修を含めて32単位以上修得すること。さらに修士論文または修士作品を提出し、審査に合格すること。		
研究指導科目	メディア研究Ⅰ	8	1	小笠原 たけし 壇上 誠 金 多賢 首藤 圭介	杉並	研究領域 メディアは必修	(1) 研究領域を選択すること 16単位必修
	メディア研究Ⅱ	8	2	小笠原 たけし 壇上 誠 金 多賢 首藤 圭介			
	ヒーリング研究Ⅰ	8	1	保高 一仁 野呂田 理恵子	杉並	研究領域 ヒーリングは必修	
	ヒーリング研究Ⅱ	8	2	保高 一仁 野呂田 理恵子			
	ファッションテキスタイル研究Ⅰ	8	1	眞田 岳彦 山村 美紀	杉並	研究領域 ファッションテキスタイルは必修	
	ファッションテキスタイル研究Ⅱ	8	2	眞田 岳彦 山村 美紀			
	アートプロデュース研究Ⅰ	4	1	日沼 禎子 潘 逸舟	杉並	研究領域 アートプロデュースは必修	
	アートプロデュース研究Ⅱ	4	2	日沼 禎子 潘 逸舟			
	キュレーション研究Ⅰ	4	1・2	日沼 禎子	杉並		
	キュレーション研究Ⅱ	4	1・2				
	ヴィジュアルデザイン研究Ⅰ	8	1	林 規章 浅野 晃成 能見 英子 粟辻 美早 長崎 訓子	相模原	研究領域 ヴィジュアルデザインは必修	
	ヴィジュアルデザイン研究Ⅱ	8	2	林 規章 浅野 晃成 能見 英子 粟辻 美早 長崎 訓子	相模原		
	プロダクトデザイン研究Ⅰ	8	1	廣田 尚子 春日亀 美智雄 紺野 弘通	相模原	研究領域 プロダクトデザインは必修	
	プロダクトデザイン研究Ⅱ	8	2	廣田 尚子 春日亀 美智雄 紺野 弘通	相模原		
	環境デザイン研究Ⅰ	8	1	横山 勝樹 吉田 貴子 後藤 浩介 伊勢 克也	相模原	研究領域 環境デザインは必修	
	環境デザイン研究Ⅱ	8	2	横山 勝樹 吉田 貴子	相模原		
共通実技科目	芸術創作応用Ⅰ	2	1・2	P.30参照			
	芸術創作応用Ⅱ	2	1・2				
	海外芸術プログラム	2	1・2				
研究関連科目	アウェアネス演習	2	1・2	ヤマザキ ミノリ 喜多尾 浩代 栗野 ユミト	杉並	研究領域 ヒーリングは必修	
	ヒーリングデザイン演習	2	1・2	山野 雅之 保高 一仁 野呂田 理恵子 宮坂 真紀子	杉並		
	インタラクティブ空間演習	2	1・2	柴崎 美奈 岡本 晃樹	杉並	研究領域 メディアは必修	
	情報メディア演習	2	1・2	金箱 淳一	杉並		
	メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	1・2	植木 淳朗	杉並	研究領域 ファッションテキスタイルは必修	
	メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	1・2	小笠原 たけし 金 多賢 首藤 圭介	杉並		
	繊維衣服表現演習Ⅰ	2	1・2	眞田 岳彦 山村 美紀	杉並	研究領域 ファッションテキスタイルは必修	
	繊維衣服表現演習Ⅱ	2	1・2				
	アートプロデュース演習Ⅰ	2	1	日沼 禎子 潘 逸舟	杉並	研究領域 アートプロデュースは必修	
	アートプロデュース演習Ⅱ	2	2				
	画像研究演習	2	1・2	能見 英子	相模原	研究領域 ヴィジュアルデザインは必修	
	コミュニケーションデザイン演習	2	1・2	粟辻 美早	相模原		
	デザイン素材演習	2	1・2	田村 俊明 山下 玲奈	相模原	研究領域 プロダクトデザイン、 環境デザインは必修	
	形態研究演習	2	1・2	後藤 浩介 田村 俊明	相模原		
空間構造演習	2	1・2	伊勢 克也 飯村 和道	相模原			
造形芸術原論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原 杉並			
共通理論科目	アート&ビジネス論特講	2	1・2	2025年度開講	相模原	16単位以上選択必修 8単位以上選択必修	
	デザイン原論特講Ⅰ	2	1・2	野見山 桜	相模原 杉並		
	デザイン原論特講Ⅱ	2	1・2	野見山 桜	相模原 杉並		
	デザイン史特講	2	1・2	阿部 宏史	相模原 杉並		
	色彩文化論特講	2	1・2	本吉 勇	相模原		
	色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	吉澤 達也	相模原		
	色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	2025年度開講	相模原		
	日本美術史特講A	2	1・2	齊藤 全人	相模原		
	日本美術史特講B	2	1・2	2025年度開講	相模原		
	アジア美術史特講	2	1・2	新江 京子	相模原 杉並		
	西洋美術史特講A	2	1・2	榎山 満照	相模原		
	西洋美術史特講B	2	1・2	2025年度開講	相模原		
	近現代日本美術史特講	2	1・2	カマチョ・クルス・ハビエル	相模原		
	現代芸術特講A	2	1・2	2025年度開講	相模原		
	現代芸術特講B	2	1・2	三谷 理華	相模原		
	伝統と創造	2	1・2	カマチョ・クルス・ハビエル	相模原		
	言語とアートA	2	1・2	戸張 泰子 藤田 百合	相模原		
	言語とアートB	2	1・2	戸張 泰子	相模原		
	図とアート	2	1・2	中野 仁詞	相模原		
	現代文化論	2	1・2	2025年度開講	相模原		
		2	1・2	中野 仁詞	相模原		
		2	1・2	中野 仁詞	相模原		
		2	1・2	2024年度休講	相模原		
		2	1・2	菅原 伸也	相模原		
		2	1・2	2024年度休講	相模原		
		2	1・2	仲俣 暁生	相模原		
		2	1・2	2024年度休講	相模原		
		2	1・2	長 チノリ	相模原		
		2	1・2	佐藤 紀子	相模原 杉並		
		2	1・2	藤原 えりみ	相模原 杉並		

※美術専攻及び芸術文化専攻の研究関連科目を履修し、修了のために必要な単位を修得することができる。

芸術文化専攻

授 業 科 目 名		単 位 数	授 業 を 行 う 年 次	担 当 教 員	開 講 キャンパス	備 考		
研究指導科目	色彩学研究Ⅰ	4	1	2024年度休講	相模原	修了のためには1研究領域を選択の上、必修・選択必修を含めて32単位以上修得すること。さらに修士論文を提出し、審査に合格すること。	(1研究領域を選択すること)	
	色彩学研究Ⅱ	4	2		相模原			
	色彩学特殊研究A	4	1・2		相模原			
	色彩学特殊研究B	4	1・2	2024年度休講	相模原			研究領域 色彩学は必修
	美術史研究Ⅰ	4	1	三谷 理華 檜山 満照 藤田 百合	相模原			研究領域 美術史は必修
	美術史研究Ⅱ	4	2		相模原			
	芸術表象研究Ⅰ	4	1	2024年度休講	相模原			研究領域 芸術表象は必修
	芸術表象研究Ⅱ	4	2		相模原			
	美術文化特殊研究A	4	1・2		相模原			
	美術文化特殊研究B	4	1・2	奥山 亜喜子	相模原			研究領域 美術史又は芸術表象は必修
	美術教育研究Ⅰ	4	1	鈴木 淳子	相模原			研究領域 美術教育は必修
	美術教育研究Ⅱ	4	2	2024年度休講	相模原			
	美術教育特殊研究A	4	1・2	2024年度休講	相模原			
美術教育特殊研究B	4	1・2	2024年度休講	相模原				
共通 美術科目	芸術創作応用Ⅰ	2	1・2	P.30参照				
芸術創作応用Ⅱ	2	1・2						
海外芸術プログラム	2	1・2						
研究 関 連 科 目	色彩管理演習	2	1・2	2024年度休講	相模原	研究領域 色彩学は必修		
	色彩実験・調査演習	2	1・2	吉澤 達也	相模原			
	視覚工学演習	2	1・2	2024年度休講	相模原			
	視覚デザイン演習	2	1・2	2024年度休講	相模原	研究領域 色彩学は2単位以上選択必修		
	保存修復論A	2	1・2	内呂 博之	相模原	研究領域 美術史又は芸術表象は2単位以上選択必修		
	保存修復論B	2	1・2	信太 司	相模原			
	鑑定分析論	2	1・2	星 恵理子	相模原			
	文芸創作演習	2	1・2	羽鳥 嘉郎 城戸 朱理	相模原			
	芸術表象特講Ⅰ	2	1・2	粟田 大輔	相模原			
	芸術表象特講Ⅱ	2	1・2		相模原			
	社会芸術プログラム	2	1・2	大崎 綾子 三谷 理華 飯村 和道 西井 美佐子	相模原			
	美術教育基礎演習	2	1・2	2024年度休講	相模原	研究領域 美術教育は必修		
	デザイン教育基礎演習	2	1・2	2024年度休講	相模原			
美術教育論特講A	2	1・2	前田 基成	相模原				
美術教育論特講B	2	1・2		相模原				
映像メディア教育特論	2	1・2	後藤 富美子	相模原				
共通 理 論 科 目	造形芸術原論	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	研究領域 美術史は4単位以上 選択必修		
	アート&ビジネス論特講	2	1・2	2025年度開講	相模原			
	デザイン原論特講Ⅰ	2	1・2	野見山 桜	相模原		杉並	
	デザイン原論特講Ⅱ	2	1・2	野見山 桜	相模原		杉並	
	デザイン史特講	2	1・2	阿部 宏史	相模原		杉並	
	色彩文化論特講	2	1・2	本吉 勇	相模原		杉並	
	色彩工学特講Ⅰ	2	1・2	吉澤 達也	相模原		杉並	
	色彩工学特講Ⅱ	2	1・2	2025年度開講	相模原		杉並	
	日本美術史特講A	2	1・2	齊藤 全人	相模原		杉並	
	日本美術史特講B	2	1・2	2025年度開講	相模原		杉並	
	アジア美術史特講	2	1・2	新江 京子	相模原		杉並	
	西洋美術史特講A	2	1・2	檜山 満照	相模原		杉並	
	西洋美術史特講B	2	1・2	2025年度開講	相模原		杉並	
	近現代日本美術史特講	2	1・2	カマチョ・クルス・ハビエル	相模原		杉並	
	現代芸術特講A	2	1・2	2025年度開講	相模原		杉並	
	現代芸術特講B	2	1・2	戸張 泰子 藤田 百合	相模原		杉並	
	伝統と創造	2	1・2	戸張 泰子	相模原		杉並	
	言語とアートA	2	1・2	中野 仁詞	相模原		杉並	
	言語とアートB	2	1・2	2025年度開講	相模原		杉並	
	図とアート	2	1・2	中野 仁詞	相模原		杉並	
	現代文化論	2	1・2	2024年度休講	相模原		杉並	
		2	1・2	菅原 伸也	相模原		杉並	
		2	1・2	2024年度休講	相模原		杉並	
	2	1・2	仲俣 暁生	相模原	杉並			
	2	1・2	2024年度休講	相模原	杉並			
	2	1・2	長 チノリ	相模原	杉並			
	2	1・2	藤原 紀子	相模原	杉並			
	2	1・2	藤原 えりみ	相模原	杉並			

※ 美術専攻及びデザイン専攻の研究関連科目を履修し、修了のために必要な単位を修得することができる。

博士前期課程 履修登録

授業科目を履修するためには、その年度に履修する科目の全てについて、履修登録をしなければなりません。履修登録が完了しないと、授業を受講できないとともに単位が修得できません。履修登録はポータルサイトでの手続きとなります。必ずWeb履修登録締切までに完了してください。

※ Web履修登録については、Web履修説明会に必ず参加し、使用方法を確認してください。ポータルサイトのログインページは「<https://aa.joshibi.net/>」です。

I 履修関係書類の交付

- ① 1・2年次とも4月の履修ガイダンス（相模原）・研究領域別オリエンテーション（杉並）の際に「履修の手引」「時間割表」を配布します。2年次生は「前年度の成績通知書」も併せて配布します。
- ② 「時間割表」の訂正、教室の変更等は掲示板にて告知します。掲示には十分注意してください。

II 履修計画の立案、決定

「履修の手引」「時間割表」およびポータルサイト「シラバス」、2年次生は「前年度の成績通知書」の単位修得状況を確認しながら今年度の履修計画を立ててください。

授業科目の授業内容については、ポータルサイト「シラバス」を参照してください。

III Web履修登録

Web 履修登録締切 4月13日（土）13:00

- ① ポータルサイトの「履修登録」にて今年度に履修する全授業科目（後期科目も含む）を登録してください。ただし、「海外芸術プログラム」「社会芸術プログラム」については別途履修登録を行うので、ここでは登録する必要はありません。
- ② 必修科目等の登録漏れがないかを各自で十分に確認の上、登録してください。特に、2年次生はその際に科目区分ごとの修了所要単位も必ず確認してください。

※ Web履修登録締切を過ぎると、作業途中であっても、履修登録が出来なくなりますのでご注意ください。

IV 履修登録完了後

〔履修訂正〕

- ① Web履修登録締切後、4月22日（月）に履修届を所属の研究室より受け取り、必修科目や修了必要科目等の確認とともに、今年度履修する全授業科目を各自で再確認してください。訂正の必要がある場合は、履修訂正期間に所定の手続きを行ってください。
- ② 履修訂正の確認が終了した時点で今年度の履修科目が確定します。その後の履修科目の変更は、原則として受け付けません。

〔履修科目の中止〕

科目の履修にあたっては、十分検討のうえ決定するとともに途中で放棄するようなことがないように努めてください。科目の履修を中止する場合は「履修変更申請書」を教育支援センターに提出してください。「履修変更申請書」の提出がなく一方的に科目の履修を放棄した場合には、成績通知表に「F」（採点不可）と表示されます。

D・F評価も含めてGPAを計算するため、履修中止科目がある場合は、必ず所定の期間内に履修中止手続きをしてください。

提出締切日：前期5月31日（水） 後期10月31日（火）

〔後期追加登録〕

追加・変更の登録を受け付けます。希望する学生は定められた期間内に手続きをしてください。

〔共通実技科目〕

■芸術創作応用

自分の研究領域・コースとは別の実技系領域を経験して、創作活動や研究活動の幅と深みを増せるように設けられた科目です。

2領域、計4単位まで履修可能です。

同じ領域を2回履修することはできません。

1領域目がⅠ、2領域目がⅡと表記されます。

授業内容	単位	授業を行う年次	開講 キャンパス	担当教員
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(洋画)	2	1・2	相模原	福士朋子、大森 悟 山内 隆、鴻崎正武 堀込幸枝
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(日本画)	2	1・2	相模原	稲田亜紀子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(版画)	2	1・2	相模原	清水美三子、阿部大介
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(染)	2	1・2	相模原	荒 姿寿
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(織)	2	1・2	相模原	工藤聖美
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(陶)	2	1・2	相模原	加藤尚子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ガラス)	2	1・2	相模原	加藤尚子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(刺繍)	2	1・2	相模原	大崎綾子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(立体芸術)	2	1・2	相模原	帆足枝里子
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(メディア)	2	1・2		杉並 小笠原たけし
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ヒーリング)	2	1・2		杉並 保高一仁
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ファッションテキスタイル)	2	1・2		杉並 山村美紀
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(ヴィジュアルデザイン)	2	1・2	相模原	林 規章
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(プロダクトデザイン)	2	1・2	相模原	春日亀美智雄、紺野弘通
芸術創作応用Ⅰ・Ⅱ(環境デザイン)	2	1・2	相模原	飯村和道

内容等はポータルサイト「シラバス」を参照し、履修を希望する場合は、Web履修登録する前に、授業の時期・内容などについて担当教員・研究領域に必ず事前相談してください。

■海外芸術プログラム

一定の条件を満たした海外大学における研修または留学に対する学修に対して単位を認定する科目です。内容・履修についてはポータルサイト「シラバス」を参照してください。

〔複数履修可能な科目〕

以下の科目は、同一科目名でも複数履修することが可能です。また過去に単位修得した科目でも年度が変わって再度履修することが可能です。

共通実技科目「海外芸術プログラム」

研究関連科目「社会芸術プログラム」

〔受講するために単位修得前提科目がある科目〕

以下の科目は、受講のためには同じ科目名の「Ⅰ」の科目を単位修得していなければ受講することができません(履修登録は同時にすることが可能です)。

研究関連科目「染織品保存修復演習Ⅱ」、「メディアコミュニケーション特論Ⅱ」、

「繊維衣服表現演習Ⅱ」、「アートプロデュース演習Ⅱ」、「芸術表象特講Ⅱ」

共通理論科目「デザイン原論特講Ⅱ」、「色彩工学特講Ⅱ」

〔大学院生の学部科目履修〕

学芸員課程や教職課程履修を希望し学部科目の履修が必要な場合と、留学生で学部科目「日本語Ⅰ・Ⅱ」の履修を希望する場合(国際センター4月実施のテスト結果により履修指導があった場合を含む)は履修ガイダンスで配布される履修願を期日までに提出してください。なお、修得単位は修了要件単位には含まれません。

「研究指導計画書」の作成

「研究指導計画書」の作成手順は以下の通りです。指導教員と十分相談の上、学位授与までの研究計画を立案し、提出してください。

1. 1年次前期は入学試験時に提出している研究計画書に基づき研究を進める。その間に指導教員と学位授与までの研究計画に対する打合せ等を十分に行い、次ページ「研究指導計画書」について、学生自身が研究計画欄に記入のうえ、指導教員に提出する。
2. 提出後、指導教員によって記入された研究指導計画欄を確認し、学生・指導教員の双方でコピーを保管する。
3. 指導教員は完成した「研究指導計画書」の原本を、当該学生の1年次10月末までに、教育支援センターに提出する。

(留意事項)

※最低限、各年次について、前期・後期ごとに計画を記入すること。

※計画が変更となった場合は、その都度、修正した計画書を指導教員に提出すること。

※様式については、各専攻・研究領域において指定様式と同じ内容、またはより詳細な内容で対応している場合には、当該専攻・研究領域の様式に代えることができる。

研究指導計画概要／博士前期課程（年間スケジュールの例）

1年次

- ・4月 主指導教員の決定、研究テーマの検討
- ・5月 研究能力・手法の育成と習得、研究指導計画書の作成
- ・6月 研究テーマに関する調査研究／研究関連の調査研究、研究倫理 著作権 eラーニング等の受講
- ・1月 成果報告会、修士論文・作品研究テーマの発表

2年次

- ・4月 指導教員と協議して修士研究テーマの設定
- ・5月 研究テーマに関する調査研究
- ・7月 研究・作品制作進捗報告の実施
- ・1月 修士作品・論文提出、審査と最終試験
- ・3月 修了制作展、学外展示、学位認定

研究科長	教務部長	運営委員	受付

博士前期課程 研究指導計画書

大学院美術研究科長 殿

年 月 日

学籍番号		氏名		研究領域	
研究テーマ				入学年度	

1 年次	研究 計画	(学生が記入)
	指導 計画	(指導教員が記入)
2 年次	研究 計画	
	指導 計画	

*計画が変更となった場合は、その都度、修正した計画書を教育支援センターに提出すること。

主指導教員	Ⓜ
-------	---

教員免許状の資格取得

本学大学院では次のとおり教員免許状を取得することができます。

研究科・専攻	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
美術研究科	美術専攻	美術 工芸
	デザイン専攻	美術 工芸
	芸術文化専攻	美術 工芸

専修免許状を取得するためには、「教育職員免許法」、「同法施行規制」により基礎となる一種免許状を有するとともに、さらに大学院において教職に関する科目又は教科に関する科目を24単位以上修得しなければなりません。

専攻・研究領域毎に履修方法が異なるので、次ページ以降の研究領域別履修表を熟読して履修計画を立ててください。

教員免許状の申請手続等

教員職員免許法に定められた科目・単位を修得した者には、免許状が授与されます。

教員免許状の申請は本来申請者が免許法に定める「基礎資格」および「所要単位」を修得した後、各自で居住地の都道府県教育委員会（授与権者）に申請手続をすることとなっています。

事務処理の都合から、県内に所在する大学院を修了する者が大学を通して一括申請する場合に限り、修了時に免許状を授与する制度をとっています（一括申請）。したがって、一括申請をしなかった場合はすべて大学院修了後各自で、居住地の教育委員会に申請することになります（個人申請）。個人申請の場合、免許状の交付が遅れ、4月から教員採用が決まっている者は、就職に支障をきたすことになるので注意してください。

一括申請の申込みは大学院の2年次に受付けます。受付日等は5月頃掲示で発表します。

免許状取得後

免許状取得後、免許状に係る事務はすべて授与権者である都道府県教育委員会が行うこととなります。したがって、下記の事項については直接授与権者に申請してください。

- 免許状の書きかえ（改姓、本籍変更等）
- 免許状再交付（盗難、火災などの場合に限られる ※証明書が必要）
- 免許状授与証明書

教員採用試験

大学院修了後、公立学校の教員を希望する場合は、都道府県および市の教育委員会で実施する公立学校教育職員採用試験を受験しなければなりません。

試験日は一定していませんが、多くは7月～8月に実施されています。詳細は本学キャリア支援センターで実施要項等を参照してください。

【美術専攻】

教員免許状取得を希望する者は、以下の表により履修すること。なお、デザイン専攻および芸術文化専攻の関連演習科目を履修して修得した単位は修了のために必要な単位として認められるが、教員免許状取得のために必要な単位とは認められないので、注意すること。

授業科目名		単位数	洋画			日本画		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	洋画創作研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)				
	洋画創作研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)				
	日本画創作研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	
	日本画創作研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●		△	●		△
	陶素材・技法演習	2	●		△	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●		△
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

【美術専攻】

授業科目名		単位数	版画			工芸（染・織）		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	版画創作研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)				
	版画創作研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)				
	工芸創作研究Ⅰ	8				●(必修)		△(必修)
	工芸創作研究Ⅱ	8				●(必修)		△(必修)
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●(必修)	◎(必修)		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●		△	●(必修)		△(必修)
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●		△	●		△
	陶素材・技法演習	2	●		△	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●		△
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△	
現代文化論	2	●	◎		●	◎		

【美術専攻】

授業科目名	単位数	工芸（陶）			工芸（ガラス）			
		中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	
		●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	
研究指導科目	工芸創作研究Ⅰ	8	●（必修）		△（必修）	●（必修）		△（必修）
	工芸創作研究Ⅱ	8	●（必修）		△（必修）	●（必修）		△（必修）
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●		△	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●		△	●		△
	陶素材・技法演習	2	●（必修）		△（必修）	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●（必修）		△（必修）
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△
立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●	◎	△	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

【美術専攻】

授業科目名		単位数	工芸（刺繍）			立体芸術		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	工芸創作研究Ⅰ	8	●(必修)		△(必修)			
	工芸創作研究Ⅱ	8	●(必修)		△(必修)			
	立体芸術創作研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	立体芸術創作研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
研究関連科目	洋画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	洋画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	日本画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	絵画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画表現技法演習	2	●	◎		●	◎	
	版画材料・技法演習	2	●	◎		●	◎	
	染織素材・技法演習	2	●(必修)		△(必修)	●		△
	染織品保存修復演習Ⅰ	2	●(必修)		△(必修)	●		△
	染織品保存修復演習Ⅱ	2	●(必修)		△(必修)	●		△
	陶素材・技法演習	2	●		△	●		△
	ガラス表現素材演習	2	●		△	●		△
	立体芸術表現技法演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
立体芸術材料・技法演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
言語とアートB	2	●	◎		●	◎		
図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△	
現代文化論	2	●	◎		●	◎		

【デザイン専攻】

教員免許状取得を希望する者は、以下の表により履修すること。なお、美術専攻および芸術文化専攻の関連演習科目を履修して修得した単位は修了のために必要な単位として認められるが、教員免許状取得のために必要な単位とは認められないので、注意すること。

授業科目名		単位数	メディア			ヒーリング		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	メディア研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	メディア研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	ヒーリング研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	ヒーリング研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)
研究関連科目	メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	●	◎		●	◎	
	メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	●	◎		●	◎	
	ヒーリングデザイン演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	インタラクティブ空間演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	情報メディア演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅰ	2	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅱ	2	●	◎	△	●	◎	△
	アートプロデュース演習Ⅰ	2	●	◎		●	◎	
	アートプロデュース演習Ⅱ	2	●	◎		●	◎	
	画像研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	コミュニケーションデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	デザイン素材演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	形態研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
空間構造演習	2	●	◎	△	●	◎	△	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

【デザイン専攻】

授業科目名		単位数	ファッションテキスタイル			アートプロデュース		
			中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸	中学専修 美術	高校専修 美術	高校専修 工芸
			●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	ファッションテキスタイル研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	ファッションテキスタイル研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	アートプロデュース研究Ⅰ	4				●(必修)	◎(必修)	
	アートプロデュース研究Ⅱ	4				●(必修)	◎(必修)	
	キュレーション研究Ⅰ	4				●(必修)	◎(必修)	
	キュレーション研究Ⅱ	4				●(必修)	◎(必修)	
研究関連科目	メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	●	◎		●	◎	
	メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	●	◎		●	◎	
	ヒーリングデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	インタラクティブ空間演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	情報メディア演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅰ	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅱ	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△
	アートプロデュース演習Ⅰ	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	アートプロデュース演習Ⅱ	2	●	◎		●(必修)	◎(必修)	
	画像研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	コミュニケーションデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	デザイン素材演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	形態研究演習	2	●	◎	△	●	◎	△
空間構造演習	2	●	◎	△	●	◎	△	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

【デザイン専攻】

授業科目名	単位数	ヴィジュアルデザイン			プロダクトデザイン			環境デザイン			
		中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	
		●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	◎から 24単位以上	△から 24単位以上	
研究指導科目	ヴィジュアルデザイン研究Ⅰ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)						
	ヴィジュアルデザイン研究Ⅱ	8	●(必修)	◎(必修)	△(必修)						
	プロダクトデザイン研究Ⅰ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	プロダクトデザイン研究Ⅱ	8				●(必修)	◎(必修)	△(必修)			
	環境デザイン研究Ⅰ	8							●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	環境デザイン研究Ⅱ	8							●(必修)	◎(必修)	△(必修)
研究関連科目	メディアコミュニケーション特論Ⅰ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	メディアコミュニケーション特論Ⅱ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	ヒーリングデザイン演習	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	インタラクティブ空間演習	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	情報メディア演習	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅰ	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	繊維衣服表現演習Ⅱ	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	アートプロデュース演習Ⅰ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	アートプロデュース演習Ⅱ	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	画像研究演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△	●	◎	△
	コミュニケーションデザイン演習	2	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●	◎	△	●	◎	△
	デザイン素材演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
	形態研究演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●(必修)	◎(必修)	△(必修)
空間構造演習	2	●	◎	△	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	●(必修)	◎(必修)	△(必修)	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△			△
	デザイン史特講	2			△			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△			△
	日本美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講A	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講B	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講A	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	現代芸術特講B	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	言語とアートA	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	言語とアートB	2	●	◎		●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△	●	◎	△
現代文化論	2	●	◎		●	◎		●	◎		

【芸術文化専攻】

教員免許状取得を希望する者は、以下の表により履修すること。なお、美術専攻およびデザイン専攻の関連演習科目を履修して修得した単位は修了の為に必要な単位として認められるが、教員免許状取得のために必要な単位とは認められないので、注意すること。

授業科目名		単位数	色彩学			美術史		
			中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸
			●から 24単位以上	○から 24単位以上	△から 24単位以上	●から 24単位以上	○から 24単位以上	△から 24単位以上
研究指導科目	色彩学研究Ⅰ	4	●(必修)	○(必修)	△(必修)			
	色彩学研究Ⅱ	4	●(必修)	○(必修)	△(必修)			
	美術史研究Ⅰ	4				●(必修)	○(必修)	△(必修)
	美術史研究Ⅱ	4				●(必修)	○(必修)	△(必修)
	色彩学特殊研究A	4	●(必修)	○(必修)	△(必修)			
	色彩学特殊研究B	4	●(必修)	○(必修)	△(必修)			
	美術文化特殊研究A	4				●(必修)	○(必修)	△(必修)
	美術文化特殊研究B	4				●(必修)	○(必修)	
研究関連科目	色彩管理演習	2	●(必修)	○(必修)	△(必修)	●	○	△
	色彩実験・調査演習	2	●(必修)	○(必修)	△(必修)	●	○	△
	視覚工学演習	2	●	○		●	○	
	視覚デザイン演習	2	●	○		●	○	
	保存修復論A	2	●	○		●	○	
	保存修復論B	2	●	○		●	○	
	鑑定分析論	2	●	○		●	○	
	文芸創作演習	2	●	○		●	○	
	芸術表象特講Ⅰ	2	●	○		●	○	
	芸術表象特講Ⅱ	2	●	○		●	○	
	美術教育基礎演習	2	●	○		●	○	
	デザイン教育基礎演習	2	●	○	△	●	○	△
	美術教育論特講A	2	●	○		●	○	
	美術教育論特講B	2	●	○		●	○	
	映像メディア教育特論	2	●	○		●	○	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	○		●	○	
	デザイン原論特講Ⅰ	2			△			△
	デザイン原論特講Ⅱ	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講Ⅰ	2			△			△
	色彩工学特講Ⅱ	2			△			△
	日本美術史特講A	2	●	○	△	●	○	△
	日本美術史特講B	2	●	○	△	●	○	△
	アジア美術史特講	2	●	○	△	●	○	△
	西洋美術史特講A	2	●	○	△	●	○	△
	西洋美術史特講B	2	●	○	△	●	○	△
	近現代日本美術史特講	2	●	○	△	●	○	△
	現代芸術特講A	2	●	○		●	○	
	現代芸術特講B	2	●	○		●	○	
	伝統と創造	2	●	○		●	○	
	言語とアートA	2	●	○		●	○	
	言語とアートB	2	●	○		●	○	
	図とアート	2	●	○	△	●	○	△
	現代文化論	2	●	○		●	○	

【芸術文化専攻】

授業科目名	単位数	芸術表象			美術教育			
		中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	中学専修美術	高校専修美術	高校専修工芸	
		●から 24 単位以上	◎から 24 単位以上	△から 24 単位以上	●から 24 単位以上	◎から 24 単位以上	△から 24 単位以上	
研究指導科目	芸術表象研究 I	4	● (必修)	◎ (必修)				
	芸術表象研究 II	4	● (必修)	◎ (必修)				
	美術教育研究 I	4				● (必修)	◎ (必修)	
	美術教育研究 II	4				● (必修)	◎ (必修)	
	美術文化特殊研究 A	4	● (必修)	◎ (必修)	△ (必修)			
	美術文化特殊研究 B	4	● (必修)	◎ (必修)				
	美術教育特殊研究 A	4				● (必修)	◎ (必修)	
	美術教育特殊研究 B	4				● (必修)	◎ (必修)	
研究関連科目	色彩管理演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	色彩実験・調査演習	2	●	◎	△	●	◎	△
	視覚工学演習	2	●	◎		●	◎	
	視覚デザイン演習	2	●	◎		●	◎	
	保存修復論 A	2	●	◎		●	◎	
	保存修復論 B	2	●	◎		●	◎	
	鑑定分析論	2	●	◎		●	◎	
	文芸創作演習	2	●	◎		●	◎	
	芸術表象特講 I	2	●	◎		●	◎	
	芸術表象特講 II	2	●	◎		●	◎	
	美術教育基礎演習	2	●	◎		● (必修)	◎ (必修)	
	デザイン教育基礎演習	2	●	◎	△	● (必修)	◎ (必修)	△ (必修)
	美術教育論特講 A	2	●	◎		● (必修)	◎ (必修)	
	美術教育論特講 B	2	●	◎		● (必修)	◎ (必修)	
	映像メディア教育特論	2	●	◎		●	◎	
共通理論科目	造形芸術原論	2	●	◎		●	◎	
	デザイン原論特講 I	2			△			△
	デザイン原論特講 II	2			△			△
	デザイン史特講	2			△			△
	色彩文化論特講	2			△			△
	色彩工学特講 I	2			△			△
	色彩工学特講 II	2			△			△
	日本美術史特講 A	2	●	◎	△	●	◎	△
	日本美術史特講 B	2	●	◎	△	●	◎	△
	アジア美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講 A	2	●	◎	△	●	◎	△
	西洋美術史特講 B	2	●	◎	△	●	◎	△
	近現代日本美術史特講	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代芸術特講 A	2	●	◎		●	◎	
	現代芸術特講 B	2	●	◎		●	◎	
	伝統と創造	2	●	◎		●	◎	
	言語とアート A	2	●	◎		●	◎	
	言語とアート B	2	●	◎		●	◎	
	図とアート	2	●	◎	△	●	◎	△
	現代文化論	2	●	◎		●	◎	

美術専攻、デザイン専攻（ヴィジュアルデザイン・プロダクトデザイン・環境デザイン）・芸術文化専攻
学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では日本の学士の学位を有していることを条件とし、芸術学部開設されている博物館法施行規則に基づく所定の科目・単位を修得した方へ、大学院修了時に学芸員資格証明書を授与しています。学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	授 業 科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	博物館概論	2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	1	半期・必修
	博物館展示論	2	2	1	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	2	半期・必修
	博物館経営論	2	2	1	半期・必修
	博物館情報・メディア論	2	2	1	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	2	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～2	2単位 選択必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～2	8単位 選択必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2			

注1. 「博物館実習」は、「博物館実習」を履修する年度の4月時点で、博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることを履修の条件とする。ただし、必修科目の重複（研究関連科目、研究指導科目、他の博物館に関する必修科目）で事前の修得が困難な場合に限り「博物館実習」との同時履修を認める。

注2. 本学芸術学部で修得した科目については履修を免除する。

注3. 他大学で修得した上記表に該当する科目を単位修得している場合は、4月の説明会で配付される願出書とシラバスを教育支援センターに提出すること。

美術専攻・デザイン専攻（ヴィジュアルデザイン・プロダクトデザイン・環境デザイン）・芸術文化専攻
学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では、日本の学士の学位を有していることを条件とし、芸術学部開設されている博物館法施行規則に基づく所定の科目・単位を修得した方へ、大学院修了時に学芸員資格証明書を授与しています。

学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	科目	博物館法施行規則による 必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	博物館概論	2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	1	半期・必修
	博物館展示論	2	2	1	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	1	半期・必修
	博物館経営論	2	2	1	半期・必修
	博物館情報・メディア論	2	2	1	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	2	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～2	2単位 選択必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術全史		4	1～2	8単位 選択必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	日本美術全史		4		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	東洋美術史概論		2		
	東洋美術史特論		2		
	日本近代美術論		2		
現代美術論		2			
古美術研究		2			

注1. 「博物館実習」は、「博物館実習」を履修する年度の4月時点で、博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることを履修の条件とする。ただし、必修科目の重複（研究関連科目、研究指導科目、他の博物館に関する必修科目）で事前の修得が困難な場合に限り「博物館実習」との同時履修を認める。

注2. 本学芸術学部で修得した科目については履修を免除する。

注3. 他大学で修得した上記表に該当する科目を単位修得している場合は、4月の説明会で配付される願出書とシラバスを教育支援センターに提出すること。

デザイン専攻（メディア・ヒーリング・ファッションテキスタイル・アートプロデュース）

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では日本の学士の学位を有していることを条件とし、芸術学部開設されている博物館法施行規則に基づく所定の科目・単位を修得した方へ、大学院修了時に学芸員資格証明書を授与しています。

学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	科 目	博物館法施行規則による 必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論	博物館概論 2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	1	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	1	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	1	半期・必修
	クリエイティブ・プロデュース概論	博物館経営論 2	2	1	半期・必修
	ミュージアムメディア概論	博物館情報・ メディア論 2	2	1	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	2	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～2	2単位 選択必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～2	8単位 選択必修
	西洋美術史特論 A		2		
	西洋美術史特論 B		2		
	西洋美術史特論 C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論 A		2		
	日本美術史特論 B		2		
	日本美術史特論 C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論 A		2		
	東洋美術史特論 B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2			

注1. 「博物館実習」は、「博物館実習」を履修する年度の4月時点で、博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることを履修の条件とする。ただし、必修科目の重複（研究関連科目、研究指導科目、他の博物館に関する必修科目）で事前の修得が困難な場合に限り「博物館実習」との同時履修を認める。

注2. 本学芸術学部で修得した科目については履修を免除する。

注3. 他大学で修得した上記表に該当する科目を単位修得している場合は、4月の説明会で配付される願出書とシラバスを教育支援センターに提出すること。

デザイン専攻 (メディア・ヒーリング・ファッションテキスタイル・アートプロデュース)

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館 (美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む) には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では、日本の学士の学位を有していることを条件とし、芸術学部開設されている博物館法施行規則に基づく所定の科目・単位を修得した方へ、大学院修了時に学芸員資格証明書を授与しています。

学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	科 目	博物館法施行規則による 必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論	博物館概論 2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	1	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	1	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	1	半期・必修
	アートプロデュース概論	博物館経営論 2	2	1	半期・必修
	映像文化概論	博物館情報・ メディア論 2	2	1	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	2	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～2	2単位 選択必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術全史		4	1～2	8単位 選択必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	日本美術全史		4		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	東洋美術史概論		2		
	東洋美術史特論		2		
	日本近代美術論		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2			

注1. 「博物館実習」は、「博物館実習」を履修する年度の4月時点で、博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることを履修の条件とする。ただし、必修科目の重複 (研究関連科目、研究指導科目、他の博物館に関する必修科目) で事前の修得が困難な場合に限り「博物館実習」との同時履修を認める。

注2. 本学芸術学部で修得した科目については履修を免除する。

注3. 他大学で修得した上記表に該当する科目を単位修得している場合は、4月の説明会で配付される願出書とシラバスを教育支援センターに提出すること。

博士前期課程 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

以下を身に付けたものに対して、学位を授与します。

大学院 美術研究科 博士前期課程（共通）

- ・芸術に関する深く幅広い学識と技術を有しているか。
- ・幅広い視野と芸術的発想力を持ち、問題意識を持って課題に対して柔軟・積極的に取り組めるか。
- ・豊かな表現力を持つとともに知識への深い探究心を備えているか。
- ・作家、研究者、教育者、企業人等高度な専門家として社会に貢献できるか。

美術専攻

- ・創作研究のテーマが確立しているか。
- ・創作研究においてテーマに即した構成力、技術・素材の使用方法、表現方法を習得したか。
- ・段階的思考がテーマに対して積み重ねられ、その思考法を習得したか。
- ・学内・学外への作品発表に意欲的に取り組んだか。

デザイン専攻

- ・デザイン研究のテーマが確立されているか。
- ・研究テーマに論理的な分析が行われ、デザイン理論の構築、実技の専門性を深めているか。
- ・デザインの目的や対象が多様化する現代社会において、独自の視点からデザインを創作しているか。

芸術文化専攻

- ・美術における伝統と創造の価値を統合する理論的な枠組みを構築することができたか。
- ・多様な今日的視点から美術についての理論的な分析を行うことができたか。
- ・色彩・美術史・芸術表象・美術教育に関する高度で多面的な研究を行うことができたか。

博士前期課程 学位論文・作品審査基準

博士前期課程における学位論文・作品の審査は、ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の基準により評価を行う。

論文審査

- ①研究テーマ設定の適切性
- ②先行研究の明示と研究テーマとの関連性
- ③研究方法・プロセスの具体性（分析の枠組）
- ④情報の処理・分析・解釈の十分さ
- ⑤結論に至るまでの論理性
- ⑥社会貢献可能性
- ⑦研究に関する倫理性

作品審査

- ①制作テーマ設定の適切性
- ②制作テーマに即した構成、表現方法
- ③段階的な思考
- ④独自の視点・世界観
- ⑤学外に通用する水準の完成度
- ⑥社会貢献可能性

博士前期課程 研究指導及び学位審査要綱

本要綱は本学大学院学生の修士論文又は修士作品制作に係る研究指導及び学位審査等について学則及び学位規程に基づき必要事項を定める。

1. 研究指導

美術専攻

<洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術>

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士作品を作成する。

デザイン専攻

<メディア・ヒーリング・ファッションテキスタイル・アートプロデュース>

<ヴィジュアルデザイン・プロダクトデザイン・環境デザイン>

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文又は修士作品を作成する。

芸術文化専攻

<色彩学・美術史・芸術表象・美術教育>

各自の研究テーマにそった指導教員による研究指導をうけ、修士論文を作成する。

2. 修士論文又は修士作品は指定された期日までに所定の学位申請書(様式1)とともに提出すること。修士論文には表紙(様式2)をつけるとともに論文要旨(A4・400字詰5枚、ワープロの場合40字×30行・2,000字程度)(様式3)を同時に提出することとする。修士作品は、修士作品要旨(A4・400字詰2枚、ワープロの場合40字×20行・800字程度)(様式3)を同時に提出することとする。修士論文・論文要旨・修士作品要旨等は日本語とする。主査の特別な許可がある場合は、修士論文を英語で作成することを許可する。主査の指示に従うこと。
3. 研究科委員会は、提出のあった修士論文又は修士作品ごとに審査を行うために3名以上の審査委員を選定する。
4. 審査委員は1名を主査、その他を副査として審査及び最終試験を行い、その結果を文書をもって研究科委員会に報告するものとする。最終試験は修士論文又は修士作品を提出した者に対し、論文あるいは作品を中心として口頭又は筆記により行う。
5. 研究科委員会は、前項の報告に基づき、課程の修了の合格又は不合格を決定する。
6. 課程を修了した者の修士論文あるいは修士作品は、論文にあっては正本、作品にあってはその要旨及び写真を本学において保存する。

(様式1)

年 月 日

女子美術大学大学院
美術研究科長殿

研究科長	教育支援 センター

学 位 申 請 書

本学 学位規程により修士論文（作品）を添えて学位を申請します。

論文名
作品名

専 攻		研究領域	
氏 名		出席番号	

指導教員名

(注) 指導教員は主たる指導教員名を記入すること。

(様式2)

年度 学位請求修士論文

指導教員名 _____

論文名

(英文表記)

女子美術大学大学院

美術研究科 博士前期課程

専攻

研究領域

出席番号

氏名

(英文表記

)

(注) 指導教員は主たる指導教員名を記入すること。

修 士 論 文 要 旨

論文名

(英文表記)

女子美術大学大学院
美術研究科 博士前期課程

専攻

研究領域

出席番号

氏 名

(英文表記

)

修 士 作 品 要 旨

作 品 名 _____

(英文表記) _____

女子美術大学大学院
美術研究科 博士前期課程

専攻

研究領域

出席番号

氏 名

(英文表記)

博士前期課程 2 年次 学位申請スケジュール

博士前期課程修了年次における学位授与までの流れは以下のとおりです。
(網掛け部分は教員・事務側の作業です。)

時 期		内 容	提出先・担当
5 月	下旬	第 1 回学位申請説明会	担当 教育支援センター 図書美術館グループ
9 月	初旬	運営委員より主査 1 名、副査 2 名の候補者推薦	担当 各研究領域
10 月	中旬	大学院研究科委員会にて審査委員 (3 名以上) を選定 (主査・副査審査体制確定)	
11 月	中旬	第 2 回学位申請説明会	担当 教育支援センター 図書美術館グループ
12 月	—	2 年次生は作品要旨・論文要旨の文章指導を受けること	担当 各研究領域
1 月	上旬	学位申請 修士作品・修士論文の提出	提出先 教育支援センター
	下旬	科目担当教員は修了年次生の採点登録完了	担当 科目担当教員
2 月	中旬	運営委員は審査結果報告書を提出	提出先 教育支援センター
3 月	初旬	大学院研究科委員会にて学位授与者決定	
	中旬	学位授与式	

博士後期課程

大学院美術研究科博士後期課程の特色および教育課程

現代社会は、技術革新、情報化、国際化、そしてそれに伴う社会意識の多様化など変容を続けています。美術の世界もまた、情報技術の高度化と普及とに象徴される科学技術の進歩を背景として、伝統的なジャンルの境界は希薄になり、「美術」と称される領域は拡大し続けています。このような社会構造の変化と美術自体の内包の変化とが相俟って、社会における美術への期待は今後ますます高まっていくものと思われれます。

こうした動向に対応して、美術大学はいかなる研究・教育を展開すべきかを考え、以下に掲げる人材養成の目標をもって、博士後期課程美術専攻内に「美術研究領域(洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術)」「デザイン研究領域(ヒーリング造形・視覚造形・環境造形)」「芸術文化研究領域(色彩学・美術史・芸術表象・美術教育)」の3研究領域を設置しています。

■作品制作と理論との融合による新たな制作者・教育者の養成

従来、実技と理論研究は相容れないものとして対置されてきたきらいがあります。たしかに創造の成果を、前者は実体的なかたちを通して、後者は文章や数式など主に抽象的な記号を通して、それぞれ表現します。しかし表現の方法は異なっても、両者の間には創造の原理やメカニズムに関して強い共通性が認められます。したがって、制作体験を積んだうえでの理論研究という視点は十分成立しうると考えられ、そこには互いに補い合う価値の創造とともに、新しい理論構築の可能性すら予見されます。

制作の過程はとかく個人的な体験の範囲内に据え置かれる感がありますが、上述の考えにしたがえば、制作の実践を客観化し一般化することによって、社会的に共有し継承していくことが可能になるのです。またこうした研究を通じて、制作者は理論的・体系的哲学を有する制作者となるにとどまらず、制作者と享受者とを結ぶ媒介者となることも期待されます。

作品を見る深く確かな目を持ち、かつ美術の教育普及活動に情熱を持つ人材の養成をも目指したいと考えます。

■社会において直ちに指導的役割を果たし得る高度な専門知識・技術をもつ人材の養成

今日の学問領域は、現代社会の動向とも密接に関係しており、従来のアカデミズムの枠組みにとどまることなく、社会情勢から現出する問題意識に、即座に立ち向かう柔軟性と積極性を有する人材も必要とされています。そして、このような要請にこたえることのできる能力は、さまざまな社会活動への参画と実践を通して、研究と制作を行っていくことから育成されます。

企業や公共機関などにおいて、さまざまな変化に柔軟に対応できる専門職、民間の小組織やNPOなどにおいて、新たな価値観を創出できる専門家や起業家、あるいは高等教育機関の教員として活躍する人材を輩出することを目指して、企画立案力や他分野の専門家との協働能力をもあわせもつ、高度な専門知識・技術を有する人材の育成を行いたいと考えます。

■幅広くかつ堅実な方法論をもつ造形理論研究者の養成

社会、芸術、そして学問の世界に大きな変革がもたらされている時代にあって、とりわけ冷静で幅広い視野からの理論研究、理論構築、法則性の追求などが必要となります。造形理論研究のいずれの分野においても、近年、研究の対象は変容しつつ拡大しており、研究方法もますます学際的・超域的になっています。

これからの理論研究者には、堅実な方法論を土台にした沈着冷静さとともに、従来の学問領域にとらわれることなく、人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの成果を採り入れることのできる柔軟さと大胆さが求められます。人文科学に軸足を置くにせよ自然科学に軸足を置くにせよ、基本的な思考法を異にした専門家が協働して研究と指導を展開することにより、さらには美術大学の利点と特性を最大限に生かすことにより、広範な方法論と思想、そして実践を導入した造形理論の研究が可能になると思われます。異質の分野で醸成される多様なものの共存から、技術革新、社会変化、表現の拡大に十分対応しうる新たな理論研究者を養成したいと考えます。

美術研究領域（洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術）

これまで美術教育においては、実技と学科の区分けがなされ、二極的な構造で進められてきました。しかし、「新たな価値の創造」が求められている今日、創造の原理に両者の違いはなく、相互に補いながらその刺激を共有することこそが必要だと考えられます。そこで、制作体験を積んだ上での理論研究が重要になってきます。また、美術における伝統的なジャンルの境界がなくなりつつある状況のもとでは、理論的・体系的な「哲学」をもつ制作が期待されます。こうした背景のもとに、美術研究領域では新たな造形表現のあり方を追求し、理論と制作の双方から実践的作家の養成を目標にした指導を行います。洋画では、芸術の本質的問題としての描く喜び、創る楽しさを根源的精神行為と捉えて、現代世界に向き合おうとしています。日本画では、伝統を含蓄した新しい日本画を目指すなかで、真の個性を磨き、創造の本質に迫ります。版画では、版表現とそれにかかわる技術を軸として研究し、各自の主体性に基づき現代の版画独自の専門性を追求します。工芸では、創作研究をさらに明確化し、我々を取り囲む工芸の多様性と可能性について比較検証し工芸造形の本質を見極めるための制作活動を確立します。立体芸術では、自らが自己の表現の為に選択した素材に対する研究を深め、新しい表現への果敢な挑戦を試み、立体芸術の可能性を探ります。美術研究領域の5分野のいずれにおいても、博士前期課程での結実を基にしてこの博士後期課程でさらなる深化を計り、美術界に新しい価値の発信ができる作家を育成指導するという視点は同一です。

デザイン研究領域（ヒーリング造形・視覚造形・環境造形）

デザインは古今東西のあらゆる時代、社会との関わりの中で形成されています。それゆえ現代社会のニーズに対応した創造的作品制作と理論研究との融合による高度な論理的背景を持ったデザイナー、クリエイター、研究者、教育者などの指導的な立場となる人材育成を目指します。デザイン領域は、インターフェイスの視覚造形、インタラクティブ、インタリレイションの環境造形、インターマインドのヒーリング造形の3領域に分かれています。それぞれの領域において実践的デザイン、創作活動を通じて最先端の分野から基礎的分野にいたる様々な分野における新しい理論と方法論の構築を試みさせ、論文作成に結びつけます。

プロセスとしては以下の項目を最短3年の課程で計画し、指導を行います。

1. 研究テーマ設定
2. 既往研究（既存の関連するデザイン作品、研究論文など）
3. 仮説構築
4. 作品創作
5. 理論、方法論の検証（データ収集）
6. 新理論、方法論の構築と実証
7. 論文作成（査読付学会発表）
8. 論文審査
9. 論文公表

研究方法は、専門領域の複数の教員が、各学生の特性に対応し、密度の高いコミュニケーションを取りつつ適切に指導します。

芸術文化研究領域（色彩学・美術史・芸術表象・美術教育）

芸術文化研究領域には、色彩学、美術史、芸術表象、美術教育の研究分野があります。いずれも超域的研究を志向しており、堅実な方法論を基礎としながら、様々な領域とのコラボレーションが可能となるような柔軟な思考力を備えた研究者の養成を目指します。

色彩学は造形研究の主要な一部門ですが、物理学・化学・生理学・心理学・美学等からアプローチすることができる研究分野であると同時に、色彩研究の成果は製品の開発や環境の設計などにも不可欠な技術として発達してきました。したがって、幅広い視野と基礎的な知識を前提にして、高度に専門的な研究が行われます。指導内容としては、表色・測色など物理的立場からの研究、色彩感情・色知覚・色カテゴリーなど心理的立場からの研究、色彩概念・色彩発達史など文化論的立場からの研究、色彩計画などデザイン理論的立場からの研究があります。

美術史では、東西にわたる美術史学の長年の研究成果を継承するとともに、近年進展しつつある新たな研究の視点・方法を取り入れた指導を行います。したがって、一方では記録・文献類の正確な読解・批判、作品の実証的な考察によって厳密な研究姿勢を養います。また他方では、社会史・思想史・文芸批評等隣接領域の方法論や成果を積極的に取り上げ、幅広い視野と認識から美術史に対する研究の多様な可能性を探っていきます。さらに、自然科学的調査の結果を有効に活用できる人材の養成をも目指します。芸術表象では、同時代の先端的な表現を基軸にしながら、それを支える社会思想、哲学、分析理論について研究を行います。カルチュラル・スタディーズ、ポスト・コロニアル思想、フェミニズム・ジェンダー・ゲイ研究、コミュニケーション理論、地域・コミュニティ学、利他行動など、現代の重要な思想的切り

口を学び深めるだけでなく、その積極的な活用を試みます。また、必要に応じて種々の実践にも取り組み、机上の構想・分析だけでなく、実践への応用に柔軟に対応できる理論家の養成を目指します。美術教育では、美術の教育的意義や美術教育の方法論について研究します。これまで美術教育は「実践」であり体系的な「学問」とはいいがたい面がありました。また、美術教育に関する理論的研究も、どちらかというとなり哲学的な考察が中心で、データに基づく実証的・客観的な研究手法はとられていませんでしたが、本研究分野ではこれまでの人間学的・教育学的研究に加えて認知心理学的なアプローチも加味し、美術のもつ「力」を実証的に研究します。

大学院 美術研究科 博士後期課程 美術専攻

博士後期課程は「作品制作と理論との融合による新たな制作者・教育者」「社会において直ちに指導的役割を果たし得る高度な専門知識・技術を持つ人材」「幅広くかつ堅実な造形理論研究者」を養成することを目的としてカリキュラムを編成します。

- ・円滑な研究活動を行うため、「造形研究計画演習」において、学生の研究計画の立案に取組み、主任指導教員と理論系教員が関わり指導を行う。「造形理論特別研究」にて、理論研究の方法論を会得するとともに、「特殊研究」により深く体系的な研究に取り組む。
- ・研究の集大成として、博士論文と修了制作（実技系分野のみ）に取り組む。研究を通して、自立して研究活動を継続展開できる能力を身につける。

「美術研究領域」

- ・専門的な作品制作と理論を統合した研究を行う。それに伴い、指導的役割を果たし得る情熱を持った制作者・教育者の養成のために洋画・日本画・版画・工芸・立体芸術の研究分野での研究指導を行う。

「デザイン研究領域」

- ・デザインに対する幅広い視点とより高い専門性を探求しそれらを養う為に、学位を保持する複数分野の教員による指導を行う。
- ・学生が既存のデザインの研究を踏まえ新しい知見の発見や理論構築を積極的に取り組む指導を行う。
- ・「人と人のコミュニケーション」「人とモノのインタラクティブ」「人と空間のインタリレーション」などのデザイン分野の専門性と相関性を考慮し、系統だった研究指導を行う。

「芸術文化研究領域」

- ・従来の堅実な研究方法論を基礎としながら、様々な周辺領域の研究とのコラボレーションが可能な柔軟な思考力を備えた研究者の養成を目指す。
- ・基礎から応用まで幅広い視点を持ち、高度に専門的な研究の行える人材の育成を目指す。
- ・長年の研究を継承するとともに新たな研究の視点・方法を採用入れ、厳密な研究姿勢とともに新しい研究の多様性にも対応する指導を行う。

博士後期課程 教育課程の構成

博士後期課程は、次の4つのカテゴリーによってカリキュラムを構成している。

(1) 造形研究計画演習

学生が、自らの研究計画の基本的枠組みを立案することを目的とする科目である。主任指導教員を中心として複数教員が担当し、個々の学生のそれまでの研究成果に応じて計画の立案を指導する。主任指導教員以外の構成については、それまで実技を中心として習得してきた学生については、理論系教員が加わり、理論的研究の進め方について指導するよう配慮する。また、理論研究を中心として行ってきた学生については、必要に応じて実技系教員が加わり、制作者の発想方法・制作過程・芸術界の最新動向などについて深い理解がもてるように配慮する。

(2) 造形理論特別研究

理論研究の方法論を会得することを目的とした科目群である。国内外の文献研究や実証研究の方法論について、美術・デザイン・芸術文化の3分野において基本となる内容を研究する。分野や方法論ごとの複数科目群で構成し、研究における新たな発想や課題を得るために、複数科目を履修することを求める。

(3) 特殊研究

特定分野について、より深く体系的に研究することを目的とする科目である。主任指導教員の研究に参画することによって、その分野における最先端の事例や動向について理解する。研究分野によって、美術特殊研究、デザイン特殊研究、芸術文化特殊研究の3科目から選択する。

(4) 研究指導

各学生の研究テーマに応じて博士論文作成と修了制作（実技系分野のみ）を行う科目である。自立した創造性豊かな研究者・制作者・指導的専門家として研究活動を継続展開させていく能力を身につけることを目的とする。研究分野によって、美術研究指導、デザイン研究指導、芸術文化研究指導の3科目から選択する。

博士後期課程の教育課程および教員組織

美術専攻

授業科目名		授業を 行年次	単位数		担当教員	備考
			必修	選択		
造形 研究 計画 演習	造形研究計画演習	1	4		全教員で担当	
造形 理論 特別 研究	造形理論特別研究Ⅰ	1・2		2	三谷 理華 檜山 満照	2科目4単位選択必修
	造形理論特別研究Ⅱ	1・2		2	横山 勝樹 大崎 綾子	
	造形理論特別研究Ⅲ	1・2		2		
特殊 研究	美術特殊研究	1・2		2	大森 悟 福士 朋子	2単位選択必修
	デザイン特殊研究	1・2		2	横山 勝樹	
	芸術文化特殊研究	1・2		2		
研 究 指 導	美術研究指導	1～3			大森 悟 福士 朋子 岸野 香 宮島 弘道 清水美三子 大崎 綾子	
	デザイン研究指導	1～3			横山 勝樹 川口 吾妻	
	芸術文化研究指導	1～3			三谷 理華 前田 基成 檜山 満照	

修了の条件

修了のためには必修および選択必修科目をあわせて10単位以上修得し、かつ研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。

I 履修関係書類の交付

1～3年次とも4月の各領域別オリエンテーションの際に「履修の手引」等を配布します。2・3年次生は「前年度の成績通知書」も併せて配布します。なお、「履修科目申請書」はⅢ履修科目の登録に示す日時・場所で配布します。

II 履修計画の立案、決定

「履修の手引」等により、今年度の履修計画を立ててください。授業科目の授業内容についてはポータルサイトの「シラバス」を参照してください。

III 履修科目の登録（履修科目申請書提出）

次の日時に「履修科目申請書」を交付しますので、期日までに必ず提出してください。

（相模原キャンパス）

○1年次 …… 4月5日（金）履修ガイダンス説明会場

○2・3年次 …… 個別に連絡します

（杉並キャンパス）

○1～3年次 …… 個別に連絡します

提出場所：教育支援センター

提出期間：4月5日（金）～19日（金）

記入上の注意

- ① 申請は担当教員と授業の科目・内容等を十分確認の上、曜日・時限を記入し確認印をもらってください。
- ② 各研究領域1年次必修「造形研究計画演習」の担当教員欄は原則、主指導・副指導教員を記入してください。
- ③ 各研究領域必修の「研究指導」科目の履修年次については、指導教員に確認してください。また、履修する場合は必ず登録してください。
- ④ 「履修科目申請書」は、十分確認した上で提出してください。

IV 履修登録完了後

〔履修訂正〕

- ① 履修届を教育支援センターにて受け取り、「履修科目申請書」に記入した全科目が表示されているか、科目等の登録漏れがないかを各自で十分確認してください。
- ② 受け取った履修届に、訂正の必要がある場合は、履修訂正期間に所定の手続きを行ってください。
- ③ 履修訂正の確認が終了した時点で今年度の履修科目が確定します。その後の履修科目の変更は、原則として受け付けません。

「研究指導計画書」の作成

「研究指導計画書」の作成手順は以下の通りです。指導教員と十分相談の上、学位授与までの研究計画を立案し、提出してください。

1. 1年次前期は入学試験時に提出している研究計画書に基づき研究を進める。その間に指導教員と学位授与までの研究計画に対する打合せ等を十分に行い、次ページ「研究指導計画書」について、学生自身が研究計画欄に記入のうえ、指導教員に提出する。
2. 提出後、指導教員によって記入された研究指導計画欄を確認し、学生・指導教員の双方でコピーを保管する。
3. 指導教員は完成した「研究指導計画書」の原本を、当該学生の1年次10月末までに、教育支援センターに提出する。

(留意事項)

※最低限、各年次について、前期・後期ごとに計画を記入すること。

※計画が変更となった場合は、その都度、修正した計画書を指導教員に提出すること。

※博士後期課程について、学位申請の条件となる公表された査読付き論文3本以上がない場合は、論文執筆計画についても必ず記入すること。(その内の2本を研究作品に代える場合も、その制作計画を記入する。)

※様式については、各専攻・研究領域において指定様式と同じ内容、またはより詳細な内容で対応している場合には、当該専攻・研究領域の様式に代えることができる。

研究科長	教務部長	運営委員	受付

博士後期課程 研究指導計画書

大学院美術研究科長 殿

年 月 日

学籍番号		氏名		研究領域	
研究テーマ				入学年度	

1 年次	研究計画	(学生が記入)
	指導計画	(指導教員が記入)
2 年次	研究計画	
	指導計画	
3 年次	研究計画	
	指導計画	

*計画が変更となった場合は、その都度、修正した計画書を教育支援センターに提出すること。

*美術・デザイン研究領域においても、論文に関する計画（申請の前提（査読付3本）及び本論）について、主指導教員が必ず記載すること

主指導教員	④	副指導教員	
論文指導教員		特別研究指導教員	

(主指導教員以外は氏名の入力のみで署名・捺印は不要)

博士後期課程 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

以下を身に付けた者に対して、学位を授与します。

大学院 美術研究科 博士後期課程 美術専攻

- ・研究テーマと内容に独創性と社会的意義があり、新たな理論・表現を構築したか。
- ・研究成果を国内外のコンクールや個展、学会等を通して社会に還元し、高い評価を得たか。
- ・国際的な視点に立ち、芸術に関する学識や技術を自立して探求し続けられるか。
- ・作家、研究者、教育者、企業人等極めて高度な専門家として社会に貢献できるか。

博士後期課程 学位論文・作品審査基準

博士後期課程における学位論文・作品の審査は、ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の基準により評価を行う。

論文審査

- ①研究テーマ設定の適切性
- ②先行研究の明示と研究テーマとの関連性
- ③研究方法・プロセスの具体性(分析の枠組)
- ④情報の処理・分析・解釈の十分さ
- ⑤結論に至るまでの論理性
- ⑥社会貢献可能性
- ⑦研究に関する倫理性
- ⑧新規性、独創性、応用可能性など、当該分野の研究を発展させるに足る知見・学術的価値
- ⑨国際通用性
- ⑩自立した研究者としての能力・学識

作品審査

- ①制作テーマ設定の適切性
- ②制作テーマに即した構成、表現方法
- ③段階的な思考
- ④独自の視点・世界観
- ⑤学外に通用する水準の完成度
- ⑥社会貢献可能性
- ⑦新規性、独創性、応用可能性など、当該分野の研究を発展させるに足る知見・芸術的価値
- ⑧国際通用性
- ⑨自立した制作者としての能力・学識

博士後期課程 学位審査要綱

女子美術大学学位規程第5条に基づく博士論文の審査については、学位規程によるほか、この要綱の定めるところによる。

1. 課程博士の学位を申請することのできる者は、博士後期課程に在学し、必要な研究指導を受け、かつ所定の単位を修得見込み又は修得した学生とする。論文博士の学位を申請することができる者は大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有する者とする。
2. 前項の申請にあたっては、課程博士は所属する又はしていた研究領域の研究指導教員、論文博士は関連する本学の研究領域の研究指導教員の承認をあらかじめ得ているものとする。
また、申請時に3点以上の公表された査読付き論文(本申請までに公表が確定予定のものを含む)があること。ただし、研究領域「美術」及び「デザイン」については学位申請に係わる研究作品の審査を受けて認められた場合は1点以上とする。
3. 課程博士の学位申請は、予備申請と本申請とし、申請にあたっては指導教員から学位論文の内容、体裁などについて検討を受けた上で、当該研究科長の指定する期日までに行うものとする。
予備申請による予備審査を経て、審査委員に認められた者が本申請を行うものとする。
4. 課程博士の学位を申請しようとする者は、所定の期日までに学位申請書とともに次の(1)～(4)号について日本語で作成し各3通当該研究科長に提出すること。主査の特別な許可がある場合は、(1)を主査の指示に従って英語で作成することを許可する。また、論文博士の学位を申請しようとする者は、学長に提出すること。
 - (1) 博士論文等
 - (2) 博士論文要旨(4,000字程度)
 - (3) 業績目録
 - (4) 履歴書
 - (5) 学位申請誓約書
 - (6) 博士論文・博士論文要旨等の指定形式データ
 - (7) 学位論文審査手数料(論文博士のみ)

博士論文等とは研究領域「芸術文化」においては博士論文をいう。研究領域「美術」及び「デザイン」においては博士論文及び研究作品をいう。
公表された査読付き論文(本申請までに公表が確定予定のものを含む)のうち5点以内を添付すること。
5. 研究科委員会は提出のあった博士論文ごとに審査を行うために3名以上の審査委員を選定する。
ただし、研究領域「美術」及び「デザイン」においては、審査委員に研究領域「芸術文化」から1名副査を選定する。
6. 審査委員は1名を主査、その他を副査として審査及び最終試験を行う。
課程博士の最終試験は論文等を中心として口述又は筆記により行う。論文博士申請者に対しては口述試験及び外国語試験を課すこととする。
なお、この外国語試験は、4.(1)～(4)号の必要書類に加え、英文の博士論文要旨(1,200ワード程度)を提出することに替えることができる。
公開の論文発表会を行う。研究領域「美術」及び「デザイン」は学位申請に係わる研究作品の公表を本学美術館で行う。
審査委員は、その結果を文書にて研究科委員会に報告するものとする。
学位論文は合格の内示後、縦覧を行うものとする。
7. 研究科委員会は前項の報告に基づき、合格又は不合格を決定する。
合格の議決を行う場合は、研究科構成員(出張中の者及び休職中の者を除く)の3分の2以上が出席し、かつ出席者の4分の3以上が賛成しなければならない。
8. この要綱の改廃は、研究科委員会が決定する。
この要綱は、令和5年4月1日入学者より適用する

前期 ・ 後期

研究科長	教育支援センター

指導教員	印
承認印	印

年 月 日

女子美術大学大学院
美術研究科長 殿

申請者
入学年度 年度
出席番号
美術研究科 美術専攻

氏 名 印

学 位 申 請 書

本学学位規程により下記のとおり博士論文に関係書類を添えて学位を申請します。

論 文 題 目	

記

- 1 博士論文等 (A4版)
- 2 博士論文要旨 (4000字程度)
- 3 業績目録
- 4 履歴書

注) (1) 既に発表された自著論文は別刷りで代えることができる。

(2) 論文の題名が外国語の場合は日本語で訳文 () を付して記入すること。

博 士 論 文 要 旨

(4000字以内)

報 告 番 号	甲第	号	氏 名	
---------	----	---	-----	--

(題 目)

(要 旨)

業 績 目 録

女子美術大学

報 告 番 号	甲 第 号	氏 名	
論文等名、刊行物の名称、巻、号、発行所、発行年月			

備考 (1) 印刷公表の方法及び時期については、公表予定の場合も記入すること。
(2) 論文の題名が外国語の場合、和訳を () で付記すること。

履 歴 書

報告番号	甲第 号
ふりがな 氏 名	男 女
生年月日	年 月 日
本 籍	
現 住 所	
最終学歴 年月日	年 月 日 女子美術大学大学院美術研究科 美術専攻博士後期課程
研 究 歴 年月日	
職 歴 年月日	

女子美術大学大学院
美術研究科長 殿

学位申請 誓約書

私は学位申請に伴い、下記を誓約いたします。

記

1. 学位申請に虚実や詐称のないこと。
2. 学位申請に関する手続き等について、指導・指示に従い、円滑に取り組むこと
3. 博士論文等※は個人情報保護、著作権保護等の観点から適切に作成しており、定められた記載方法で引用し、写真や図表について著作権者の許諾を得た上で掲載していること。
4. 博士論文を女子美術大学図書館に保存することを承諾していること。
5. 博士論文を教育、研究を目的とした閲覧、複写に供することを承諾していること。
6. 博士論文要旨の公表は研究科委員会の定める方法でインターネット公表されることを承諾していること。
7. 前項の公表データは、個人情報保護、著作権保護等の観点から適切に作成しており、引用や転載については「公衆送信権」「送信可能化権」を侵害しないよう著作権者の承諾を得た上で掲載していること。
8. 博士の学位が授与された者が1年以内に行う博士論文の公表については、研究科委員会の定める方法に従って自ら準備し、インターネット公表されることを承諾していること。
9. 前項の公表データは、個人情報保護、著作権保護等の観点から適切に作成、引用や転載については「公衆送信権」「送信可能化権」を侵害しないよう著作権者の承諾を得た上で掲載すること。
10. 学位申請に係わる博士論文等や公表データ等において、個人情報、著作権等での問題・訴訟等が発生した際、自らの著作物として責任と自覚を持って対処すること。大学および指導者に責任・補償等を求めないこと。
11. 本誓約書を違約した場合、学位審査の中止される場合があることを承諾していること。また、女子美術大学学位規則第13条に基づき学位の取消しとなった際は、学位記を返付すること。

※研究領域「芸術文化」においては博士論文、研究領域「美術」及び「デザイン」においては博士論文及び研究作品。

博士後期課程 美術専攻

研究領域	
学籍番号	
氏名	(自著)

博士後期課程 3 年次 学位申請スケジュール

博士後期課程修了年次における学位授与までの流れは以下のとおりです。
(網掛け部分は教員・事務側の作業です。)

月	期日・期限	内 容	提出先・担当
5 月	下旬	申請意思の確認、確認書の提出 (指導教員と学生で確認のうえ研究科長宛書類に署名)	担当・提出先 教育支援センター
6 月	中旬	大学院研究科委員会にて学位申請者確定	
9 月	中旬	申請者は審査委員選定のための提出予定論文の概要 または要旨(2000字)を指導教員に提出すること	提出先 指導教員
	下旬	大学院研究科委員会にて審査委員(3名以上)を選定 (主査・副査審査体制確定)	
	下旬	学位審査申込 申請者は論文要旨(2000字)を提出	提出先 教育支援センター
10 月	月上旬	学位申請に係わる研究作品の審査 (研究領域「美術」「デザイン」のみ)	担当 審査委員
	下旬	主査は学位申請に係わる研究作品の審査結果を提出 (研究領域「美術」「デザイン」のみ)	提出先 教育支援センター
11 月	月上旬	予備申請 (申請者より博士論文等必要書類提出)	提出先 教育支援センター
11 月～1 月	—	第1回予備審査 第2回予備審査(口頭試問など)	担当 審査委員
2 月	月上旬	本申請(予備審査を経て、審査委員に本申請を認められた者のみ)	提出先 教育支援センター
	中旬	女子美術大学大学院博士後期課程 学位論文審査会・最終試験	担当 審査委員
	下旬	主査は論文審査の要旨、最終試験の結果の要旨等を書類で提出	提出先 教育支援センター
	下旬	論文審査及び最終試験の結果が合格の場合、学位論文の閲覧	担当 教育支援センター
3 月	初旬	大学院研究科委員会にて学位授与者決定	
	中旬	学位授与式	
5 月	中旬	学位論文要旨および審査結果の要旨の印刷およびホームページ公表	担当 教育支援センター
	下旬	学位論文と学位論文の要約データの提出	提出先 教育支援センター
6 月	初旬	学位論文・要旨の公表(文部科学省報告)	担当 教育支援センター
	中旬	学位論文及び要約データの本学ホームページの公表	担当 教育支援センター
学位授与後1年以内		学位論文全文のリポジトリによる公表(国会図書館に提出)	担当 教育支援センター

規 則

女子美術大学大学院学則

第1章 総則

(目的)

第1条 女子美術大学大学院（以下「本大学院」という）は芸術及びその理論を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行う。これについては別に定める。

第2章 組織

(研究科)

第3条 本大学院に美術研究科を置く。

(課程)

第4条 研究科における課程は博士課程とする。

2 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は、修士課程として取扱うものとする。

3 博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識と技術を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

このことにより、芸術の新しい動向に対応し得る、確かな原理を体得した専門家、作家、研究者及び教育者を養成する。

4 博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。このことにより、幅広くかつ堅実な方法論をもつ造形理論研究者、作品制作と理論との融合による新たな制作者・教育者及び社会において直ちに指導的役割を果たし得る高度な専門知識・技術を持つ人材を養成する。

(専攻及び学生定員)

第5条 研究科の専攻及び学生定員は次のとおりとする。

研究科名	博士前期課程			博士後期課程		
	専攻名	入学定員	収容定員	専攻名	入学定員	収容定員
美術研究科	美術専攻	35	70	美術専攻	3	9
	デザイン専攻	15	30			
	芸術文化専攻	7	14			
合計		57	114		3	9

第3章 職員組織

(職員組織)

第6条 本大学院に教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

(研究科長)

第7条 研究科に科長を置く。

第4章 研究科委員会

(研究科委員会)

第8条 研究科に研究科委員会を置く。

2 研究科委員会は、学長及び研究科の授業を担当する専任の教授、准教授、助教をもって組織する。

3 研究科委員会が必要と認めた場合は、前項に掲げる者以外の者を研究科委員会に出席させて意見を述べさせることができる。

4 研究科委員会の招集は学長が行い、研究科長が議長となる。

5 研究科委員会に関する規則は別に定める。

(審議事項)

第9条 研究科委員会は次の事項を審議する。

一 教授及び研究に関すること

- 二 教育課程及び履修方法に関する事
- 三 主要年中行事及び日程に関する事
- 四 学生の指導及び賞罰に関する事
- 五 入学試験に関する事
- 六 入学、退学、休学、転学、留学、復学及び課程の修了に関する事
- 七 学位に関する事
- 八 各種奨学生に関する事
- 九 学則その他制規に関する事
- 十 教員の人事に関する事
- 十一 その他研究科の運営に関し、重要な事

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第10条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第11条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第12条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

創立記念日（10月30日）

春期休業（4月1日から4月15日まで）

夏期休業（7月11日から9月10日まで）

冬期休業（12月25日から翌年1月7日まで）

2 学長は研究科委員会の議を経て、前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第13条 博士前期課程の標準修業年限は2年とする。

2 博士後期課程の標準修業年限は3年とする。

(在学年限)

第14条 学生は、博士前期課程にあつては4年、博士後期課程にあつては6年を超えて在学することはできない。ただし、第20条および第21条の規定により入学した者は同条第2項により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第7章 入学

(入学の時期)

第15条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第16条 博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。ただし、女子に限らないものとする。

- 一 学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者
- 二 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又はこれに準ずる者
- 四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- 五 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされる者に限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

- 六 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - 七 文部科学大臣の指定した者
 - 八 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - 九 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - 十 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
- 2 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。ただし、女子に限らないものとする。
- 一 修士の学位又は専門職学位を有する者
 - 二 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 四 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
 - 五 文部科学大臣の指定した者
 - 六 本大学院において、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- （入学の出願）
- 第17条 入学を志願する者は、入学願書に別表第2に定める入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。
- （入学者の選考）
- 第18条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。
- （入学手続及び入学許可）
- 第19条 前条の選考に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書、身元保証書その他の所定の書類を提出するとともに、別表第2に定める入学料を納付しなければならない。
- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。
- （再入学）
- 第20条 本大学院を退学した者で、本大学院に再入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。
- 2 前項の規定により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て、学長が決定する。
- （転入学及び編入学）
- 第21条 他の大学の大学院から転入学又は編入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。ただし、女子に限らないものとする。
- 2 前条第2項の規定は本条において準用する。

第8章 教育課程及び履修方法

（授業科目、単位数及び履修方法）

第22条 研究科において開設する授業科目、単位数及び履修方法は別表第1のとおりとする。

（授業の方法）

第22条の2 本学における授業の方法は、講義、演習、実習又は実技とする。

2 前項の授業は、メディアを利用して行うことがある。

（研究指導）

第23条 学生は履修する授業科目の選択及び修士論文又は修士作品（以下「修士論文等」という）あるいは博士論文の作成にあたり、担当教員による指導（以下「研究指導」という）を受けなければならない。

（単位の授与）

第24条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

（他大学院等における授業科目の履修）

第25条 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生は当該他大学院の

授業科目を履修することができる。

2 前項による修得単位については10単位を超えない範囲で認定する。

(研究指導の委託)

第25条の2 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生に他大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けさせることができる。

(既修得単位の認定)

第26条 研究科委員会が教育上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に大学院において修得した授業科目の単位を本大学院において修得したものとして、認めることができる。ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。

2 前項による修得単位については10単位を超えない範囲で認定する。

(他専攻及び学部開設科目の履修)

第27条 研究科委員会が必要を認めた場合、他の専攻の授業科目又は学部の授業科目及び単位を修得することができる。

(学習の評価)

第28条 試験等の評価は、S・A・B・C・Dをもって表わし、C以上を合格とする。

第9章 休学、転学、留学及び退学

(休学)

第29条 疾病その他特別な理由により6か月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第30条 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学の延長を認めることができる。

2 休学期間は通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は、第14条の在学期間には算入しない。

(復学)

第31条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。ただし、復学の時期は学期の始めとする。

(転学)

第32条 他の大学院等への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第33条 外国の大学院等において学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第36条の在学期間に含めることができる。ただし、その期間は1年以内とする。

3 第25条第2項の規定は、外国の大学院へ留学する場合に準用する。

4 留学に関する規則は別に定める。

(退学)

第34条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(措置による退学)

第35条 次の各号の一に該当する者は、研究科委員会の議を経て、学長が退学の措置を講ずる。

一 第14条に定める在学年限を超えた者。

二 第30条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者。

三 授業料の納付を怠り、督促をしてもなお納付しない者。

四 長期間にわたり行方不明の者。

第10章 課程の修了及び学位等

(博士前期課程の修了要件)

第36条 本大学院博士前期課程に2年(第20条、第21条各1項の規定により入学した者については、それぞれ第2項により定められた在学すべき年数、また第33条第2項による期間を含む年数)以上在学し、別

に定めるところにより、32単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等についての審査及び最終試験に合格したときは、研究科委員会の議を経て、学長が課程の修了を認定する。

(博士後期課程の修了要件)

第36条の2 博士前期課程を修了後、博士後期課程に3年(第20条、第21条各1項の規定により入学した者については、それぞれ第2項により定められた在学すべき年数、また第33条第2項による期間を含む年数)以上在学し、別に定めるところにより、10単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文についての審査及び最終試験に合格したときは、研究科委員会の議を経て、学長が課程の修了を認定する。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げた研究科委員会が認めた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

(学位の授与)

第37条 本大学院の博士前期課程を修了した者には修士(美術)の学位を、博士後期課程を修了した者には博士(美術)の学位を授与する。

2 本大学院の博士後期課程を経ない者であっても本学学位規程の定めるところにより、博士論文を提出し、その審査及び試験に合格し、かつ、本大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有すると認められた者についても第1項の博士の学位を授与することができる。

3 学位に関する規則は別に定める。

(教員免許状の取得)

第38条 高等学校及び中学校の教員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に規定する科目及び単位数を修得しなければならない。

(教員免許状の種類)

第39条 本大学院において取得することのできる教員免許状の種類は次のとおりとする。

研究科・専攻		高等学校教諭 専修免許状	中学校教諭 専修免許状
美術研究科	美術専攻	美術 工芸	美術
	デザイン専攻	美術 工芸	美術
	芸術文化専攻	美術 工芸	美術

(学芸員資格の取得)

第40条 博物館学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同法施行規則に定めるところにより、学部において開設する博物館に関する科目及び単位を修得しなければならない。

第11章 賞罰

(表彰)

第41条 学生として表彰に値する行為があった者は、研究科委員会の議を経て、学長が表彰する。

(懲戒)

第42条 本大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者。

二 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者。

三 正当な理由がなくて出席常でない者。

四 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者。

第12章 研究員、研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究員)

第43条 本大学院において、特定の専門事項について研究を希望する者があるときは、研究科委員会の議を経て研究員として受入れることがある。2 その他研究員に関する規則は別に定める。

(研究生)

第43条の2 本大学院において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、当該研究科の教育研究に支障のない場合に関し、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生を志願することのできる者は、大学院博士前期課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
- 3 研究期間は1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。
- 4 その他研究生に関する規則は別に定める。

(科目等履修生)

第44条 本大学院において特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、当該研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

- 2 科目等履修生で履修科目の試験に合格したものには単位を与えることができる。
- 3 その他科目等履修生に関する規則は別に定める。

(特別聴講学生)

第44条の2 他の大学院の学生で、本大学院の授業科目を履修することを希望する者があるときは、当該他大学院との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

- 2 その他特別聴講学生に関する規則は別に定める。

(研究員等の入学資格)

第44条の3 研究員、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生として本学大学院に入学できる者は、女子に限らないものとする。

(外国人留学生)

第45条 外国人で、大学院において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

- 2 その他外国人留学生に関する規則は別に定める。

第13章 検定料、入学料、授業料その他の費用

(検定料等の額)

第46条 検定料、入学料、授業料等の額は、別表第2に定めるとおりとする。

(授業料等の納付)

第47条 授業料、実習料、施設設備料、維持費は年額の2分の1ずつを2期に分けて納付するものとする。ただし、前期分納付時に、後期分も併せて納付することができる。

前期納期 4月10日

後期納期 10月5日

- 2 第1項以外の費用は、全額を4月10日までに納付するものとする。
- 3 特別な事情があると認められる者については延納を認めることがある。

(転学、退学等の場合の授業料)

第48条 転学、退学した者については、在籍していた期までの授業料等を徴収する。ただし、第35条第三号又は第四号により退学の措置を講じられた者については、この限りではない。

- 2 停学期間中の授業料等は徴収する。

(休学の場合の在籍料)

第49条 休学を許可され、又は命ぜられた者については、在籍料として授業料相当額の4分の1を徴収する。

- 2 在籍料の減免措置については、別に定める。

(研究生、科目等履修生の授業料等)

第50条 研究生及び科目等履修生の授業料等については別表第2に定めるとおりとする。

(納付した授業料等)

第51条 納付した検定料、入学料及び授業料等は原則として返還しない。

第14章 公開講座

(公開講座)

第52条 本大学院は社会人の生涯学習に寄与し、文化の向上に資するため、公開講座等を開設することができる。

第15章 補則

(女子美術大学学則の準用)

第53条 本学則に定めるもののほか、大学院学生等に関し必要な事項は、女子美術大学学則、学部学生に関する諸規程を準用する。

付 則

- 1 この学則は令和6年4月1日から施行する。

女子美術大学学位規程

(目 的)

第1条 この規程は女子美術大学学則（以下「大学学則」という。）第39条、女子美術大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第37条の規定に基づき、女子美術大学（以下「本学」という。）において授与する学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学位の名称及び専攻分野の名称)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 前項に規定する学位を授与するにあたり、付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

	学 位	
	和 文	英 文
芸術学部	学士（芸術）	Bachelor of Fine Arts
美術研究科	修士（美術）	Master of Fine Arts
	博士（美術）	Doctor of Philosophy in Fine Arts

(学位授与の要件)

第3条 学士の学位は大学学則第38条の規定に基づき、本学の学部を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は大学院学則第36条の規定に基づき、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は大学院学則第36条の2の規定に基づき、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

4 前項に定めるもののほか、博士の学位は大学院学則第37条第2項により、博士論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認された者にも授与することができる。

(学位論文等の提出)

第4条 修士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位申請書に修士論文又は作品（以下「修士論文等」という。）を添え研究科長に提出しなければならない。

2 博士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位申請書に博士論文を添え研究科長に提出しなければならない。

3 大学院学則第37条第2項により博士の学位の授与を受けようとする者は、所定の学位申請書に博士論文及び所定の学位論文審査手数料を添えて学長に提出しなければならない。

4 学長は前項により提出された博士論文の審査を研究科長に付託する。

5 修士論文等又は博士論文の提出の時期及び試験の期日、方法については別に定める。

(学位論文等の審査)

第5条 研究科長は修士論文等又は博士論文（以下「学位論文等」という。）の提出又は付託を受けた場合は、研究科委員会にその審査を依頼する。

2 研究科委員会は前項の依頼に基づき、学位論文等の審査を行うものとする。

3 研究科委員会は学位論文等を審査するため、学位論文等ごとに研究科委員会の教員3名以上の審査委員を選定する。

4 研究科委員会は、学位論文等審査のため必要があると認めるときは、本学の教員または教員であった者、前項の審査委員に本学以外の大学院又は研究所等の教員等を委嘱することができる。

5 審査委員は学位論文等の審査及び試験を行うものとする。

(審査結果の報告)

第6条 審査委員は審査及び試験の結果を文書をもって研究科委員会に報告しなければならない。

(課程修了及び授与資格の認定)

第7条 研究科委員会は前条の報告に基づき、学位論文等の審査及び試験の結果により、その者の課程の修了の認定について、また、第4条第3項により学位の申請のあった者については、学位授与要件の有無の認定について、審議のうえ、合格又は不合格を決定する。

(学位の授与)

第8条 学長は、大学学則第38条に基づき卒業を認定された者並びに前条により課程の修了又は授与資格の認定をされた者に学位記を授与する。また、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

2 学位記の様式は別記1から4までのとおりとする。

(学位名称の使用)

第9条 本学で学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

(文部科学大臣への報告)

第10条 学長は、博士の学位を授与したときは、博士の学位を授与した日から3ヵ月以内に学位授与報告書を文部科学大臣に報告するものとする。

(博士論文要旨の公表)

第11条 本学は、博士の学位を授与したときは、博士の学位を授与した日から3ヵ月以内に、当該論文の内容の要旨及びその審査結果の要旨を研究科委員会が定める方法でインターネット利用により公表するものとする。

(博士論文の公表)

第12条 博士の学位を授与された者は、その学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位授与に係わる論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に公表したときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由がある場合には、本学の承認を得て、当該博士の学位授与に係わる論文の内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前二項の公表は、研究科委員会が定める方法でインターネット利用により公表するものとする。

4 博士論文のほか、研究領域により研究作品が博士論文審査に加えられた場合は、研究科委員会が定める方法で研究作品を公表するものとする。

(学位の取消)

第13条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は教授会又は研究科委員会の議を経て学位を取消し、学位記を返付させ、かつ、その旨公表する。

(1) 不正の方法により学位を授与されたことが判明したとき

(2) 学位の名誉を汚す行為があったとき

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

(規程の改廃)

第15条 この規程の改廃は、教授会及び研究科委員会の議を経るものとする。

付 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別記様式1 (第八条関係)

Degree Number:[Degree Number]	第 号
Joshibi University of Art and Design	学位記
confers upon	
[Name]	[氏名]
born on []	(和暦) 年 月 日生
in recognition of the completion of the prescribed course of study for graduation	本学所定の課程を修め 本学を卒業したので 学士(芸術)の学位を授与する
the Degree of	
Bachelor of Fine Arts	
on this [] day of [],	(和暦) 年 月 日
in the year two thousand and []	
_____ [President Signature] [Printed President Name] President	女子美術大学長 [学長名] 印

別記様式2 (第八条関係)

Degree Number:[Degree Number]	第 号
Joshibi University of Art and Design	学位記
confers upon	
[Name]	[氏名]
born on []	(和暦) 年 月 日生
in recognition of the completion of the course of study prescribed by Master's Degree Program, [※1] Course, Graduate School of Art and Design	本学大学院美術研究科 [※1]専攻の博士前期課程を 修了したので修士(美術)の 学位を授与する
the Degree of	
Master of Fine Arts with concentration in [※2]	
on this [] day of [],	(和暦) 年 月 日
in the year two thousand and []	
_____ [President Signature] [Printed President Name] President	女子美術大学長 [学長名] 印

※1…修了する専攻名称の和文、英文をそれぞれ記載。

※2…修了する研究領域名称の英文を記載。

別記様式3 (第八条関係)

Degree Number:[Degree Number]	第 号
Joshibi University of Art and Design	学位記
confers upon	
[Name]	[氏名]
born on []	(和暦) 年 月 日生
in recognition of the completion of the course of study prescribed by Doctral Degree Program, Fine Arts Course, Graduate School of Art and Design	本学大学院美術研究科 美術専攻の博士後期課程を 修了したので博士(美術)の 学位を授与する
the Degree of	
Doctor of Philosophy in Fine Arts with specialization in [※3]	
on this [] day of [], in the year two thousand and []	(和暦) 年 月 日
[President Signature]	女子美術大学長
_____ [Printed President Name] President	[学長名] 印

※3…修了する研究分野の英文名称を記載。

別記様式4 (第八条関係)

Degree Number:[Degree Number]	第 号
Joshibi University of Art and Design	学位記
confers upon	
[Name]	[氏名]
born on []	(和暦) 年 月 日生
in recognition of the submitted dissertation and the successful completion of the prescribed examinations	本学に学位論文を提出し所定の 審査及び試験に合格したので 博士(美術)の学位を授与する
the Degree of	
Doctor of Philosophy in Fine Arts with specialization in [※4]	
on this [] day of [], in the year two thousand and []	(和暦) 年 月 日
[President Signature]	女子美術大学長
_____ [Printed President Name] President	[学長名] 印

※4…審査した研究分野の英文名称を記載。

学生生活

図書館の利用

図書館利用にあたって

学生証には図書館利用のためのバーコードが印刷されています。学生証は入館、図書・雑誌の貸出、接写台の利用、AVコーナー利用の際に必要になりますので、忘れずに携帯してください。

図書・学術雑誌の貸出

■ 貸出冊数・期間

・ 博士前期課程

図書	20冊：42日間	(禁帯出図書・館内図書・製本雑誌を含む)
未製本雑誌	20冊：21日間	

・ 博士後期課程

図書	20冊：63日間	(禁帯出図書・館内図書・製本雑誌を含む)
未製本雑誌	20冊：28日間	

■ 貸出制限

- 参考図書 : オーバーナイト貸出のみ可能です(原則として4時限終了後に貸出、翌日の1時限終了までに返却してください)
- 視聴覚資料 : 館外貸出はできません
- 貴重書 : 館外貸出はできません
- 雑誌最新号 : 館外貸出はできません

以上の他に保存上の理由等により、貸出に応じられない場合もあります。

<注意>

- ・ 図書・雑誌の返却が遅れると督促します。※必ず返却期限までにご返却ください。
 - ・ 返却期限日を過ぎると、新規の貸出・期限延長ができません。
 - ・ 20日間以上返却が遅れた場合は、30日間の「貸出停止」になります。
- ※来館できない時は図書館へご連絡ください。

館内での利用

館内では自由に図書を探ることができます。

■ 検索

- ・ 図書・学術雑誌は、図書館ホームページの検索画面で検索できます。各階に蔵書検索用コンピュータ(OPAC)を設置しています。

■ 入庫

- ・ 閉架書庫に入庫して、直接禁帯出図書を探し、借りることができます(院生、教職員のみ)
- ・ 入庫を希望する際は、カウンターで学生証を提示してお申し込みください。許可を示す「バッジ」をつけていただきます。
- ・ 貴重書の閲覧は、指導教員の随伴が必要です。

■ 大学院閲覧室

- ・ 相模原図書館には、大学院生専用の閲覧室が3階にあります。

他キャンパスからの図書取り寄せ

本学図書館ホームページ「マイライブラリ」画面上から申し込みができます。

URL <https://library.joshi.ac.jp/>

申し込みは、1度に5冊まで カウンターでの取置期限は14日間です。

レファレンス・サービス

利用に関すること、文献に関するご質問などは、レファレンスカウンターで受け付けます。

他大学図書館への文献複写、現物貸借依頼

本学図書館が所蔵していない資料は、ホームページ「マイライブラリ」画面上から、文献複写・現物貸借の申し込みができます。

文献複写・現物貸借は、図書館カウンターで現金と引き換えでお渡しします。

他大学図書館への閲覧依頼

直接、他大学の図書館に申し込むことはできません。本学図書館が仲介し紹介状を発行いたします。「資料名」「所在」「資料ID」と「閲覧を希望する日時（第1～3希望日くらいまで）」を特定のうえカウンターにご相談ください。なお相手館の都合がありますので「紹介状」の即日発行は受付できません。1週間程度、時間に余裕をみてご相談ください。

撮影・複写

館内またはスライド作成のための撮影はカウンターへお申し込みください。接写台を用意してあります。カメラ等の撮影機材は貸出しておりませんので、各自ご用意ください。

<注意>

貴重な図書は撮影・複写をお断りする場合があります。なお利用に際しては、著作権法の遵守をお願いします。

紀 要

大学院美術研究科の学生については、論文の執筆申し込みができます。募集については、図書館ホームページ、掲示板等でお知らせいたします。担当教授の推薦書が必要です。

本学紀要は、図書館事務室にて無料配布しています。必要な方はお声がけください。

お問い合わせ先

女子美術大学相模原図書館（相模原キャンパス3号館・3階）

TEL 042-778-6616

メールアドレス salib-etm@venus.joshihi.jp

女子美術大学杉並図書館（杉並キャンパス2号館・地下1階）

TEL 03-5340-4514

メールアドレス salib-etm@venus.joshihi.jp



メールアドレスの付与

大学院生全員にメールアドレスを付与しています。アカウント通知書は教育支援センターから配付されます。受け取れなかった場合は、教育支援センター窓口に出してください。アカウント通知書を無くしてしまった場合は、図書美術館グループ情報システム担当（図書館事務室）まで申し出てください。メールアドレスは在学期間のみ利用可能です。

※アカウント通知書は個人情報です。大事に保管・取り扱ってください。

お問い合わせ先

杉並キャンパス情報システム担当 TEL 03-5340-4592

相模原キャンパス情報システム担当 TEL 042-778-6628

情報システム担当メールアドレス i-sys@venus.joshihi.jp



大学院生の実技教室使用

大学院生の教室使用については、研究活動を支援する上で必要と認めた場合、学部学生とは別に取り扱います。

使用にあたっては、指導教員の許可を得て、授業に支障のないよう注意して使用することを原則とします。なお、以下の時間帯・期間に使用を希望する場合は、「特別使用届」の提出が必要です。

「特別使用届」を提出することにより使用可能となる時間帯

	授業期間	長期休業期間 (一斉休暇期間・年末年始は使用不可)	日曜日・祝日 (夏期休業期間中は土曜日も含む)
相模原	7:30~9:20・20:00~22:00	9:20~20:00	9:20~19:00
杉 並	7:30~9:20・20:00~22:00	9:20~20:00	9:20~19:00

【注】

1. 使用する工房、機材（危険を伴う工房、施錠開錠を研究室が行なっている教室・工房、学部学生と共有する工房等）によっては、必要に応じて教員（助手を含む）が出校することを原則とします。
2. 施錠を必要とする教室の鍵は責任を持ち守衛所で受け渡しを行うこと。
3. 一斉休暇期間・年末年始および入試にかかわる入構禁止日は、一切使用不可。
4. 長期休業期間中は設備点検により使用できない場合があります。
5. 下校時刻が遅い場合は防犯上できる限りタクシーを利用すること。

作品及び荷物の搬出入についての取り扱い

やむを得ず運搬のために車両を構内に乗り入れる場合は、事前に研究室等の承認を得た上で前日迄に許可願を提出すること。なお、原則として構内は車両乗入不可のため、通路や一時駐車が可能な場所については警備員の指示に従うこと。

1. 日曜・祝日・入学試験実施期間の学生の作品および荷物の搬出入は原則として認めません。平日に行ってください。
2. 夏期・冬期・春期休業中の作品および荷物の搬出入は研究室の指示に従うこと。ただし、下記の期間は日曜・祝日以外でも作品および荷物の搬出入はできません。
夏期休業中の土曜日および事務取扱を行っていない期間／冬期休業中のうち年末年始の事務取扱を行っていない期間
3. 修了制作作品の搬出入については、各研究室の定めた期間に各研究室の指示に従うこと。
4. 作品および荷物の管理責任は学生本人が負うものとします。従って破損・紛失等については大学は一切の責任を負いません。

本学ポータルサイト「Active Academy」

Web履修登録の手順

Webレポート提出の手順について

Web出欠登録の手順について

本学ポータルサイト「Active Academy」Web履修登録の手順について

■ポータルサイト基本事項

○ログインページ <https://aa.joshihi.net/>

* 「http」でなく「https」ですのでご注意ください。

○ユーザーID：学籍コード

○パスワード：別紙にて配付

* 上記パスワードで女子美Gmail、マイライブラリー（図書館ポータル）へログインができます。

○稼働時間 毎日7：30～翌2：00

○停止期間 毎日2：00～7：30はメンテナンスのため稼働しません

■履修登録

2024年度履修登録スケジュール		7:30	9:30	10:30	13:00	14:00	17:00	翌2:00
4月 8日 (月)	履修登録開始9:30～							
4月 9日 (火)	↑							
4月 10日 (水)								
4月 11日 (木)	履修登録期間 抽選科目登録締切～10:00 ↑ 停止期間 ↓ 履修登録							
4月 12日 (金)	↓ 抽選結果発表10:30～							
4月 13日 (土)	履修登録締切～13:00							
4月 15日 (月)	前期授業開始							
?								
4月 22日 (月)	↑ 履修訂正開始9:30～							
4月 23日 (火)	↓ 期間							
4月 24日 (水)	↓ 修正							
4月 25日 (木)	↓ 訂正内容確認・最終訂正締切～17:00							

※網掛け部分はWEB履修稼働時間

* 接続の制限時間は30分です。30分以上検索や登録等がないと接続が終了されます。

履修登録中は制限時間間近になったら、検索・登録ボタンを押すなどしてください。

* ポータルサイトの利用を終了する時は、必ず「ログアウト」を押してください。

本学ポータルサイト「Active Academy」のログイン方法

①ポータルサイトのログインページの表示

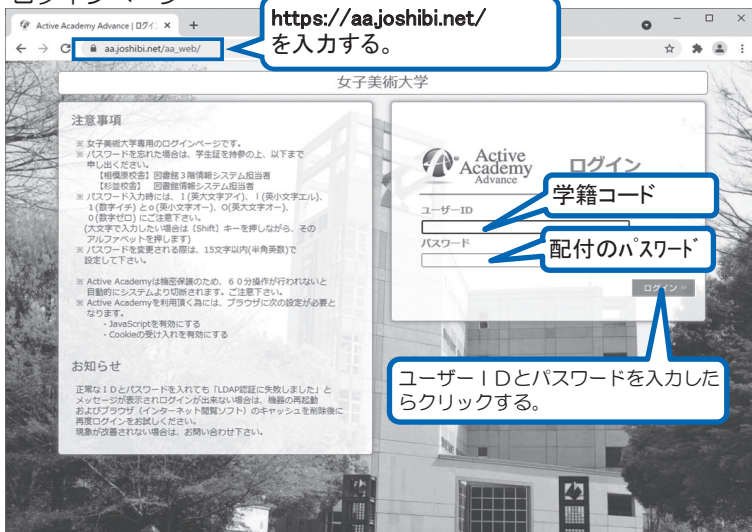
Microsoft Edge、Chrome、Firefox、Safari等のブラウザを起動し、上記アドレスを入力し本学ポータルサイト「Active Academy」のログインページを表示してください。

②ログイン

ログインページが表示されましたら、注意事項とお知らせを確認してください。

ユーザーID及びパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

ログインページ



※Webシステムの制限事項

(1) 以下のブラウザの最新バージョンについて動作確認を行っています。

- Microsoft Edge
- Firefox
- Safari
- Google Chrome

(2) ブラウザの設定で以下の設定を有効にしてください。

(ブラウザごとに設定が異なります。各ブラウザのヘルプ等をご参照ください。)

- Cookie
- JavaScript

ポータルトップ画面とメニュー・機能一覧

ログインすると以下の画面が表示されます。

ここが自分の名前になっていることを確認してください。

【My Scheduleの機能】
履修している授業、学校のスケジュール、登録した予定等が表示されます。日・週・月単位に表示を変更することができます。
（授業教室変更の場合は掲示板でお知らせします。）

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。
（通常の授業日にスケジュールが表示されています。）**集中補講日の時間割については、必ず別途掲示を確認してください。**

【お知らせ・連絡事項の機能】
本学からあなた宛に配信された連絡が表示されます。メール配信が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【休補講情報の機能】
あなたが履修登録した科目で休講連絡があったものが表示されます。メール送付が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【レポート提出情報の機能】
あなたが履修登録している科目のうち、教員がポータル上でレポート提出の設定をした科目の情報が表示されます。

【メニューの機能】

■掲示板

学年暦
個人へのお知らせ
連絡事項
休補講情報
リンク登録

主な行事を確認できます。
お知らせが閲覧できます。
連絡事項が閲覧できます。
休講情報が確認できます。
各自でリンク先を登録できます。

■授業支援

履修登録
通年授業履修取消申請
抽選授業希望登録
授業抽選結果
レポート提出
シラバス

履修する授業を登録できます。
通年授業科目の履修中止ができます。（後期履修訂正期間）
抽選科目の希望登録ができます。
抽選結果が確認できます。
教員がポータル上で設定したレポートの提出及び提出状況の確認ができます。
シラバスを参照できます。

■就職活動支援

企業検索

企業を検索できます。（随時更新予定）

■MyInformation

プロフィール変更
パスワード変更
学修ポートフォリオ
女子美Gmail

プロフィールの参照、メールアドレスの設定及び変更ができます。
（メインのメールアドレスに休講情報等が転送されます）
パスワードを変更できます。
「登録されている個人情報」「成績表」「履修情報」「出欠情報」「就職情報」「GPA」（※2016年度以降の入学生）を確認することができます。
女子美Gmailのログイン画面が別に開きます。

■アクセス終了

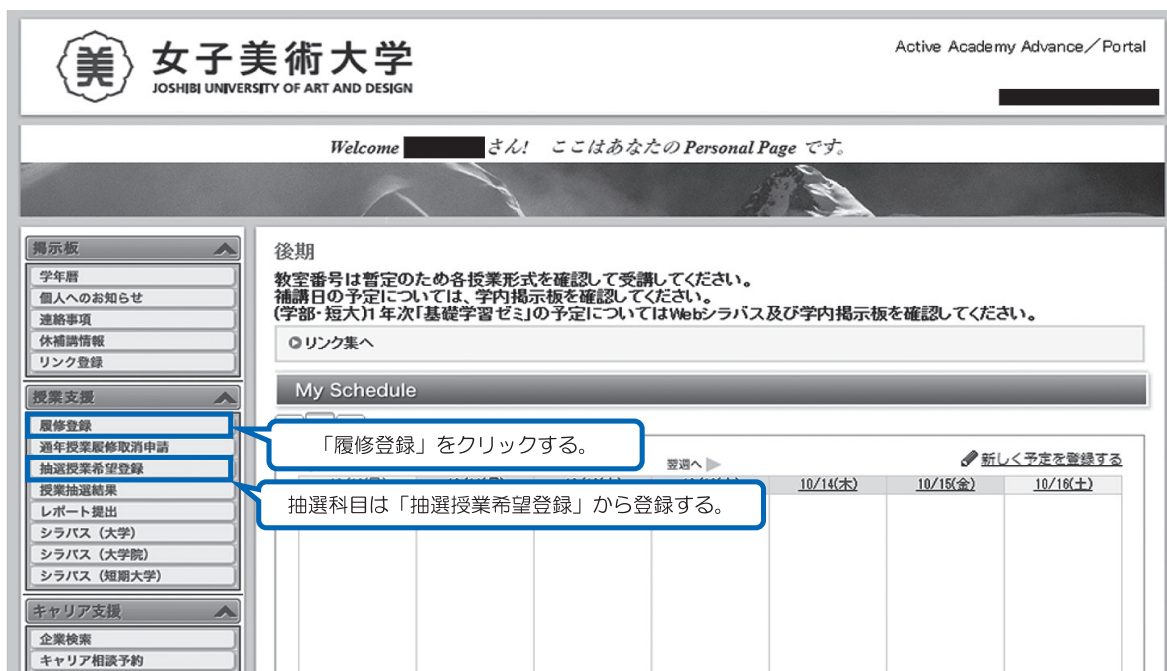
ログアウト

ポータルサイトの利用を終了する時は必ず画面の「ログアウト」を押してください。

* 学生生活に必要な情報や授業に関する事柄を連絡していきます。
毎日必ず自分のポータル画面をご覧ください。

■授業支援システム 《履修登録》

1、ポータル画面より、履修登録を起動します。



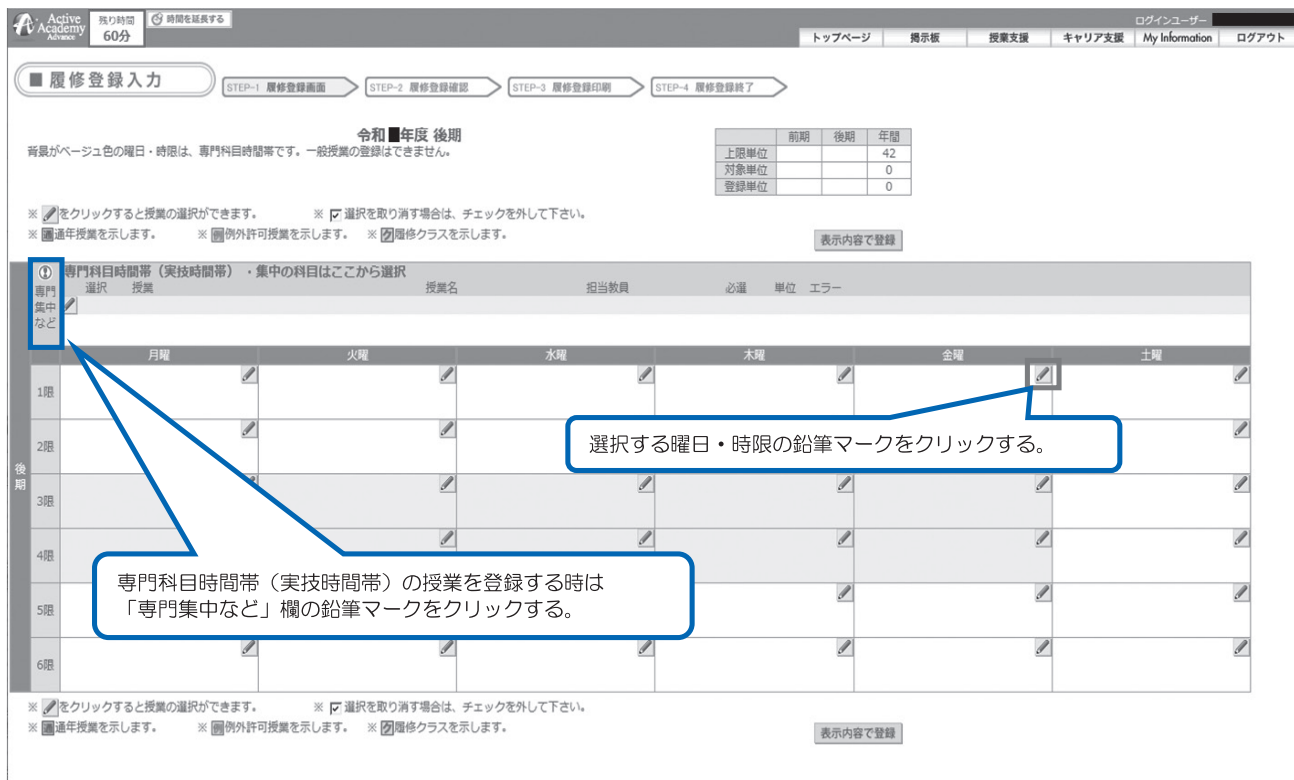
2、履修する授業を選択します。

履修登録している授業が一覧表示されます。

曜日・時限表は「前期」「後期」の2つあり、前期科目は「前期」、後期科目は「後期」、通年科目は両方で選択できます。今年度に履修登録する全授業科目（後期科目も含む）を登録します。（短大造形学科1年は後期科目のみ7月に登録します）

抽選科目は「抽選授業希望登録」から登録になります。抽選科目の希望登録する方は、抽選結果が履修に影響するため、抽選結果公表後に抽選科目以外の履修登録をしてください。授業を選択する曜日・時限にある鉛筆マークをクリックします。専門科目時間帯（実技時間帯）の授業の選択は、「専門集中など」の鉛筆マークをクリックします。網掛けの時間帯は専門科目時間帯（実技時間帯）です。講義系科目は原則履修登録できません。（大学院は除く）

画面1 履修登録入力



■授業支援システム 《履修登録》

「曜日・時限」「専門集中など」をクリックすると、自分の所属と学年が履修できる授業の一覧が表示されます。この中から履修する授業を選択してチェックを付けます。

他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。

「曜日・時限」欄では重複履修できないため原則選択は1科目ですが、「専門集中など」欄は複数選択が可能です。授業名で下線のあるものをクリックすることで、その授業のシラバスを表示することができます。

「登録して戻る」をクリックすることで、チェックを付けた授業が登録されます。

授業を登録せずに入力画面に戻るときは、「破棄して戻る」をクリックします。

画面2 授業一覧からの選択

他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。

違う条件の授業を検索する（条件を入力して検索ボタンを押して下さい）

学期 後期 曜日 水曜 時限 1限 学部学科 10 美術学科洋画専攻 学年 年 表示する授業 全ての授業

※他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、希望の「学部学科」を選択してください

再検索する

<検索結果> 4件の授業が該当しました。

登録して戻る 破棄して戻る

曜日	時限	選択	授業	授業名	期間	担当教員	必選	単位	定員	申請人数	状態
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2130C	日本画画法	後期		選択	2	-	27	
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2321A	心身医学	後期		選択	2	-	60	
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2466D	図学A	後期		選択	2	45	45	既に定員に達しています
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2548A	キャリア形成A	後期		選択	2	-	53	

↑ここをチェック

※ 選択する場合は、チェックを付けて下さい。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

登録して戻る 破棄して戻る

履修する授業をチェックする。チェック出来ない科目は抽選科目です。「抽選授業希望登録」から申込してください。

授業名をクリックするとその授業のシラバスが表示されます。

■ 授業支援システム 《履修登録》

「登録して戻る」をクリックすると、選択した授業が履修登録入力画面に反映されます。

画面1 履修登録入力

令和 ■年度 後期

背景がベージュ色の曜日・時間は、専門科目時間帯です。一般授業の登録はできません。

※ をクリックすると授業の選択ができます。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。
 ※ 通年授業を示します。 ※ 例外許可授業を示します。 ※ 履修クラスを示します。

	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			37
登録単位			37

表示内容で登録

①	選択	授業	授業名	担当教員	必修	単位	エラー
専門集中	<input checked="" type="checkbox"/>	2AAXA	美術選択授業A(彫塑)		選択	2	
など	<input checked="" type="checkbox"/>	2B03A	絵画I A		必修	6	
	<input checked="" type="checkbox"/>	2B06A	絵画I B		必修	5	
	<input checked="" type="checkbox"/>	2B09A	デッサンI		必修	2	

月曜 火曜 水曜 木曜 金曜 土曜

1限 2ABDA 美術選択授業A(彫/植) 選択 2 2103A 哲学 選択 2

2限 2ABDA 美術選択授業A(彫/植) 選択 2 2412A 日本美術全史 必修 4 2B12A 基礎構成演習 必修 2 2257E コンピュータ入門A 選択 2

3限

4限

5限 2403A 西洋美術全史 必修 4

一度選択した授業を取り消す場合は、授業名称左のチェックを外します。

別の授業に変更する場合は、鉛筆マークをクリックして、選択済みの授業のチェックを外し、別の授業を選択します。

3、選択した授業を登録します。

今年度に履修登録する全授業科目（抽選科目・後期科目も含む）の選択を終えたら「表示内容で登録」をクリックします。クリック後、エラーチェックが行われ、履修登録の内容により、3-①[エラー無し]、3-② [エラー]、3-③ [警告] の3種類の結果が表示されます。

画面1 履修登録入力

令和 ■年度 後期

背景がベージュ色の曜日・時間は、専門科目時間帯です。一般授業の登録はできません。

※ をクリックすると授業の選択ができます。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。
 ※ 通年授業を示します。 ※ 例外許可授業を示します。 ※ 履修クラスを示します。

表示内容で登録

	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			37
登録単位			37

表示内容で登録

①	選択	授業	授業名	担当教員	必修	単位	エラー
専門集中	<input checked="" type="checkbox"/>	2AAXA	美術選択授業A(彫塑)		選択	2	
など	<input checked="" type="checkbox"/>	2B03A	絵画I A		必修	6	
	<input checked="" type="checkbox"/>	2B06A	絵画I B		必修	5	
	<input checked="" type="checkbox"/>	2B09A	デッサンI		必修	2	

月曜 火曜 水曜 木曜 金曜 土曜

1限 2ABDA 美術選択授業A(彫/植) 選択 2 2103A 哲学 選択 2

2限 2ABDA 美術選択授業A(彫/植) 選択 2 2412A 日本美術全史 必修 4 2B12A 基礎構成演習 必修 2 2257E コンピュータ入門A 選択 2

3限

4限

5限 2403A 西洋美術全史 必修 4

3-① エラー無しの場合（履修登録の確定）

登録にエラーはありませんでした。表示された内容を確認し、間違いがなければ「登録確定」をクリックします。ここで、「登録確定」を押さなければ登録内容は反映されないので注意してください。→「4. 登録を終了します」へ授業を変更するときは、「登録変更」をクリックして履修登録入力画面に戻り、再度授業を選択し直します。履修登録を取りやめるときは「登録中止」をクリックします。

画面4 履修登録確定

間違ったくない時、登録確定をクリックする。ここで「登録確定」を押さなければ登録内容は反映されないので注意。→「4. 登録を終了します」へ

変更が必要な時、登録変更をクリックする。

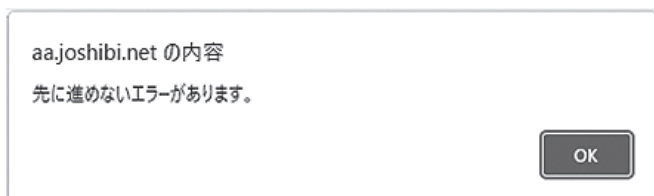
登録を中止する時、登録中止をクリックする。

授業	授業名	担当教員	必修	単位	エラー
2AAXA	美術選択授業A(彫塑)		選択	2	
2B03A	絵画I A		必修	6	
2B06A	絵画I B				
2B09A	デッサンI				

	月曜	火曜	水曜	木曜	土曜	日曜
1限	2ABDA 美術選択授業A(美/描) 選択 2	2103A 哲学 選択 2				
2限	2ABDA 美術選択授業A(美/描) 選択 2		2412A 日本美術全史 必修 4		2B12A 基礎構成演習 必修 2	2257E コンピュータ入門A 選択 2
3限						
4限						
5限					2403A 西洋美術全史 必修 4	
6限						

3-② エラーがある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、エラーがある場合は、次のメッセージウィンドウが表示されて履修登録入力画面に戻ります。



履修登録入力画面では、履修エラーが発生した部分に、エラーマークと、エラー内容が表示されています。エラー内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。エラーの詳細を確認し、エラーが発生した部分の履修を修正してください。

すべてのエラーが無くなると、「表示内容で登録」をクリックしたときに、画面4 履修登録確定が表示されるようになります。エラーが無くならないと、登録が確定できません。

■授業支援システム 《履修登録》

画面1 履修登録入力

■履修登録入力

STEP-1 履修登録画面 STEP-2 履修登録確認 STEP-3 履修登録印刷 STEP-4 履修登録終了

令和 年度 前期

			GPAなし
	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			20
登録単位			20

※特別に許可された授業を選択する場合はこちらから → 例外許可授業を選択する

- ※ をクリックすると授業の選択/変更が可能です。変更の際は、チェックを外して下さい。
- ※ 通年授業を示します。

クリックすると、エラーの詳細が別ウィンドウで表示される。エラー表示が無くなるよう修正する。エラーを無くさないで履修登録を確定できません。

表示内容で登録

エラーが無くなったら、「表示内容で登録」をクリックする。

必修	単位	エラー
必修	2	
必修	2	
必修	2	
必修	2	

月曜 火曜 水曜 木曜 金曜

1限

21031 哲学 21121 音楽

24541 色彩学

23181 精神保健 24061 西洋美術史特論A

Active Academy | エラー詳細画面 - Windows Internet Explorer

http://172.16.4.37/aa_web/rihshuuTouroku/rt0220.aspx#err04

03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同一科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

ページが表示されました

エラーの詳細を表示します。

3-③ 警告がある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、警告がある場合は、画面4 履修登録確定に進みます。警告が発生した部分に、警告マークと、警告内容が表示されています。警告内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。警告があっても、間違いではない場合、履修の修正をせずに履修登録確定はできますが、必ず詳細を確認してください。

画面4 履修登録確定

令和 年度 前期

変更が必要な時、登録変更をクリックする。

間違いがない時、登録確定をクリックする。

登録確定 登録変更 登録中止

登録を中止する時、登録中止をクリックする。

授業に関わらないエラー
卒業単位不足:0単位

クリックすると、警告内容が別ウィンドウで表示される。警告表示が無くなるよう修正する。修正の必要が無い時はそのまま登録が確定できる。

エラーの詳細説明

エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

警告の詳細を表示します。

4、登録を終了します。

履修のエラーが無くなり、画面4 履修登録確定で「登録確定」をクリックすると、画面5 履修登録印刷に移動します。

画面5 履修登録印刷画面

履修登録が完了しました。

「確認表を印刷」をクリックし、必ず登録内容を印刷する。

「登録終了」で履修登録を終了します。

確認表を印刷 登録終了

期間	曜日	時限	授業	授業名	担当教員	必修	単位	注意
連年	-	-	2AAXA	美術選択実技A(彫塑)		選択	2	
連年	-	-	2B03A	絵画I A		必修	6	
連年	-	-	2B06A	絵画I B		必修	5	
連年	-	-	2B09A	デッサンI		必修	2	
連年	月曜	2限	2B12A	基礎構成演習		必修	2	
連年	水曜	2限	2412A	日本美術史		必修	4	
連年	金曜	2限	2B12A	基礎構成演習		必修	2	
連年	金曜	5限	2403A	西洋美術史		必修	4	
後期	月曜	1限	2ABDA	美術選択演習A(美/指)		選択	2	
後期	月曜	2限	2ABDA	美術選択演習A(美/指)		選択	2	
後期	火曜	1限	2103A	哲学		選択	2	
後期	土曜	2限	2257E	コンピュータ入門A		選択	2	

履修登録の確認のために当画面の「確認表を印刷」ボタンを押して、PDF出力を行ってください。終了ボタンを押して下さい。終了画面へ進みます。

登録終了

■授業支援システム 《履修登録》

「確認表を印刷」をクリックすると、履修登録内容をPDF形式で表示します。
ここで必ず確認表を印刷しておいてください。

特に履修訂正の際、その印刷がない場合、履修登録内容が自分の履修計画と異なっても、再訂正は一切認められません。

令和 ■年度 履修登録確認表 (後期)

学 生 所 属	学 籍 番 号	学 生 氏 名
専攻		

前 期	後 期
上限単位	
上限科目数	

曜日	時限	期 間	授業コード	授業科目名	担当教員名	必 選	単 位	教室名	抽 選	備 考	エ ー ー 内 容
月	1	後期	2ABDA	美術選択演習A(画/書)		選択	2	ドローイング			
	2	後期	2ABDA	美術選択演習A(画/書)		選択	2				
	3										
	4										
	5										
	6										
火	1	後期	2103A	哲学		選択	2	S133			
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										
水	1										
	2	通年	2412A	日本美術全史		必修	4	S224			
	3										
	4										
	5										
	6										
木	1										
	2										
	3										
	4										
	5										
	6										
金	1										
	2	通年	2B12A	基礎構成演習		必修	2				
	3										
	4										
	5	通年	2403A	西洋美術全史		必修	4	S224			
	6										
土	1										
	2	後期	Z257E	コンピュータ入門A		選択	2	S1317			
	3										
	4										
	5										
	6										

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

画面6 履修登録完了

Active Academy Advance

残り時間 60分 時間を延長する

ログインユーザー My Information ログアウト

トップページ 掲示板 授業支援 キャリア支援

■ 履修登録完了

STEP-1 履修登録画面 STEP-2 履修登録確認 STEP-3 履修登録印刷 STEP-4 履修登録完了

履修登録が完了しました。
おつかれさまでした。

TOP画面へ戻る場合はこちらへ → [トップページ](#)

ログアウトする場合はこちらへ → [ログアウト](#)

資料「エラー詳細画面」

全てのエラーをなくしないと、履修登録は完了できません。

ただし、エラー詳細で【警告】となっている項目は、修正を行わなくても履修登録を確定することが可能です。

画面7 エラー詳細画面

Active Academy

■ エラー詳細説明画面

エラーの詳細説明

エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。
15	分割科目未履修	【警告】分割科目が未履修です。新カリキュラムの科目は、全ての分割科目を履修しないと単位として認められませんので、注意して下さい。
17	履修上限超過	履修登録した授業の単位数が上限値に達しています。履修上限値と現在の登録単位数は画面右上で確認して下さい。（上限単位：履修登録できる上限単位数、対象単位：上限チェック対象科目の合計単位数、登録単位：上限チェック対象科目以外も含む全科目の合計単位数）
63	重複再履修申請不可	重複再履修として申請できません。再履修者以外は申請できません。
65	同一曜限の授業がない	重複再履修として履修登録する場合は、同じ曜日・時限に別の授業の履修登録されていない必要があります。
66	集中講義期間が重複	指定した集中講義の期間が重複しています。
67	必修科目不足	必修科目の履修登録が不足しています。
68	卒業科目不足	【警告】卒業科目が不足しています。注意して下さい。
69	重複履修上限超過	重複履修の上限回数を越えているため、履修できません。
81	卒業要件マスタ未登録	【警告】卒業要件マスタが未登録です。教務課に問い合わせをお願いします。
112	履修登録できないエラー	この授業の履修登録はできません。詳細は教務課まで問い合わせをお願いします。

閉じる

■授業支援システム 《シラバス閲覧》

1、ポータル画面より、シラバス閲覧を起動します。

女子美術大学
JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

Welcome [ユーザー名] さん! ここはあなたの Personal Page です。

TOP
このページです
掲示板
学年暦
個人へのお知らせ
連絡事項
休補講情報
リンク登録
授業支援
履修登録
適年授業履修中止申請
抽選授業希望登録
授業抽選結果
教員情報照会
レポート提出
シラバス (大学)
シラバス (短期大学)
シラバス (大学院)
就職活動支援

検索したい「シラバス」をクリックします。
シラバスは「大学」「短期大学」「大学院」に分かれています。

2、シラバス検索条件を入力します。

シラバスを閲覧する科目の検索条件を入力して、「この条件で検索する」をクリックします。
カリキュラムは必須入力項目となります。

画面1 シラバス検索

シラバス検索

STEP-1 シラバス検索TOP

シラバスの年度を変更できます。

University 大学

年度指定 平成23年度 (別の年度の情報を閲覧したい場合は、左の年度指定を閲覧したい年度に変更して下さい)

以下の条件で指定した年度のシラバスを検索します

※ 検索条件を入力後 「この条件で検索する」をクリックして下さい。
※ 何も指定しない場合は、選択した年度の全てのシラバスが検索対象となります。
※ 複数条件を指定した場合は、AND条件で検索します。

検索条件

カリキュラム (必須) ▼カリキュラムを選択

校地 ▼校地を選択

授業科目名 (部分一致検索)

教員名 (部分一致検索)

キーワード and and

カリキュラムを選択します。(必須)

検索条件を設定します。

この条件で検索する 検索条件リセット

設定した検索条件で検索します。検索条件設定が無い場合、選択したカリキュラムのシラバスが全件表示されます。

【検索条件】

項目名	必/任	説明
カリキュラム	必須	カリキュラムを選択します。
校地	任意	校地を選択します。
授業科目名	任意	授業科目名を入力します。部分一致検索となります。
教員名	任意	教員名を入力します。部分一致検索となります。
キーワード	任意	シラバスの、授業科目名、開講期間、配当年、単位数、授業形態、担当教員名、授業内容、授業計画の中に入力された単語を検索するための、キーワードを入力します。

3、シラバスを表示します。

検索結果一覧が表示されるので、閲覧するシラバスの授業科目名をクリックします。
科目区分で絞り込み検索をする場合は、閲覧したい区分を選択し、「科目区分で検索」をクリックします。

画面2 検索結果一覧

Active Academy SYLLABUS検索システム

シラバス検索 検索結果一覧 STEP-1 シラバス検索TOP

検索された授業科目一覧です

現在の検索条件 授業科目名: / 教員名: / キーワード: /

絞り込み再検索

科目区分 E群 科目区分で検索

検索結果 8件が該当しました。

授業科目名	開講期間	配当年	単位数	授業形態	担当教員	校地
英語学習ゼミ	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
ジェンダー論	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
国際留学プログラム	通年	1年次	2単位	演習		杉並校地
サービスマーケティング	通年	1年次	2単位	演習		杉並校地
サービスマーケティング*	*	1年次	2単位	演習		杉並校地
キャリア形成(前期)	前期	1年次	2単位	講義		杉並校地
キャリア形成(後期)	後期	1年次	2単位	講義		杉並校地
インターンシップA~D	通年	1年次	1~4単位	実技		杉並校地

授業科目名をクリックするとシラバスが表示されます。

科目区分で絞り込み検索をする場合は、閲覧したい区分を選択し、「科目区分で検索」をクリックします。

画面3 授業内容

「シラバス検索TOPに戻る」で、画面1 シラバス検索に戻ります。
「検索結果一覧に戻る」で、画面2 検索結果一覧に戻ります。
「ページの先頭に戻る」で、画面3 授業内容画面の先頭に戻ります。

Active Academy SYLLABUS検索システム

シラバス検索 授業内容 STEP-1 シラバス検索TOP STEP-2 検索結果一覧 STEP-3 授業内容

University 大学

平成 年度

選択した授業科目の内容です

授業科目名: 国際留学プログラム 授業コード: 25091 2509A
英文科目名: *

開講期間	配当年	単位数	授業形態
通年	1~4年次	2単位	演習

担当教員

杉並校地 2010~年度入学生対象 E群

科目キーワード 海外大学における研修または留学を通じて異文化の中で芸術表現や研究活動を展開し、国際感覚を涵養する。

授業内容1 (1)本学が企画する海外大学における研修で、現地での授業時間数が60~90時間(授業の方法を問わず30~45時間の授業をもって1単位とする)のカリキュラムを履修する。
(2)本学の学術交流協定大学において協定海外留学生として、夏期休業期間中又は春期休業期間中に延べ60~90時間(授業の方法を問わず30~45時間の授業をもって1単位とする)の現地授業科目を履修する。

授業内容2

授業計画 カリキュラムまたは現地授業科目により異なる。詳細は募集説明会や出国前オリエンテーション等で解説する。

到達目標 異文化の中で芸術表現や研究活動を展開すること。言語運用能力を高め、音楽によるコミュニケーションの重要性を認識すること。将来、長期の海外留学を希望する者は、留学生活における基本行動様式を身につけること。

授業以外の学習方法(予習・授業準備・復習等) 出国前から研修先または留学先言語の運用能力を向上させる学習を欠かさないこと。現地の芸術、文化、伝統、人の思考方法や生活様式に関心をもち理解を深めることで、より充実した学習期間を過ごすことができる。

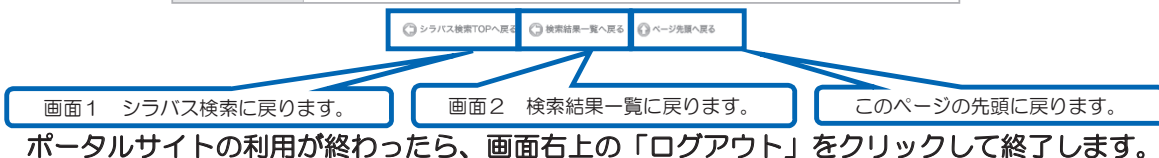
履修者への注意事項 ※履修について
○研修プログラムや留学プログラムが実施される場合は、掲示板を通じて通知する。
○研修プログラムや留学プログラムは人数制限があるため、抽選または選抜試験を行うことがある。
○単位取得を希望する場合は、研修または留学の終了後に履修登録を申請すること。
外国で学習するために最も必要なのは、身体と精神の健康を保つことである。健康管理に努め、自分なりのストレス解消法を身につけておくことが望ましい。また、日本と社会環境が違う外国での生活では、トラブルや各種危機の管理に配慮することは極めて重要であり、「自分の身は自分で守る」という大原則を常に意識してほしい。

評価方法 (1)研修先または留学先の教員の学習評価書75%、提出レポート25%
(2)上記(1)による成績評価が困難な場合は、「海外芸術プログラム」としての単位のみを認定する。

テキスト 研修先または留学先でテキストが指定され、また、プリント類が配布されることがある。

参考文献・参考作品 特になし。募集説明会や出国前オリエンテーション等で紹介することがある。

参考リンク



■授業支援システム 《Web レポート提出の手順について》

一部の科目において、Web上でレポート提出を行います。Active Academyから提出及び提出状況確認ができます。

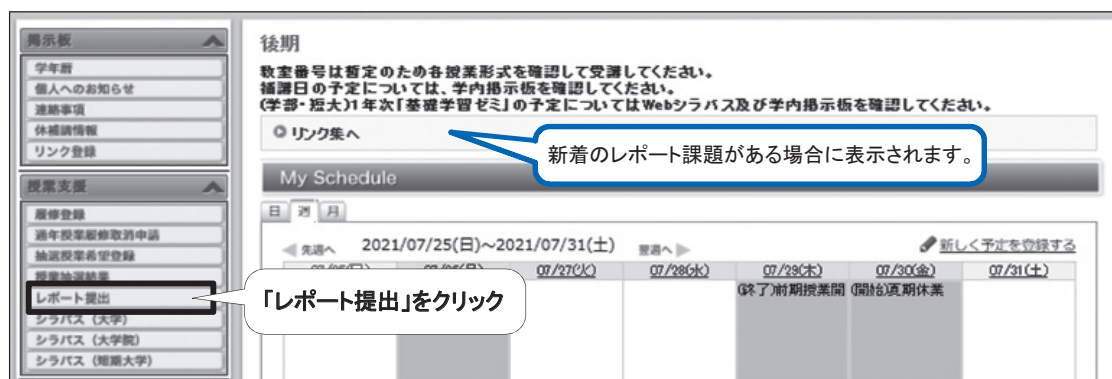
【Webレポート提出時の注意事項】

- ・ 毎日(AM)2:00~7:30はシステムメンテナンスのため停止しており、Active Academyへの接続は出来ません。
- ・ 指定されたレポート提出期限当日(特に締切直前の時間帯)は回線が混雑し、期限までに間に合わない恐れもありますので、余裕をもって提出するようにしてください。
- ・ あらかじめブラウザのポップアップブロック機能を解除した上で操作をしてください。
- ・ ファイル形式、ファイル名、ファイルサイズには制限があります。

※回線の混雑や操作ミス等、理由に関わらず教育支援センターでは提出を受け付けません。

●Webレポート提出操作の流れ

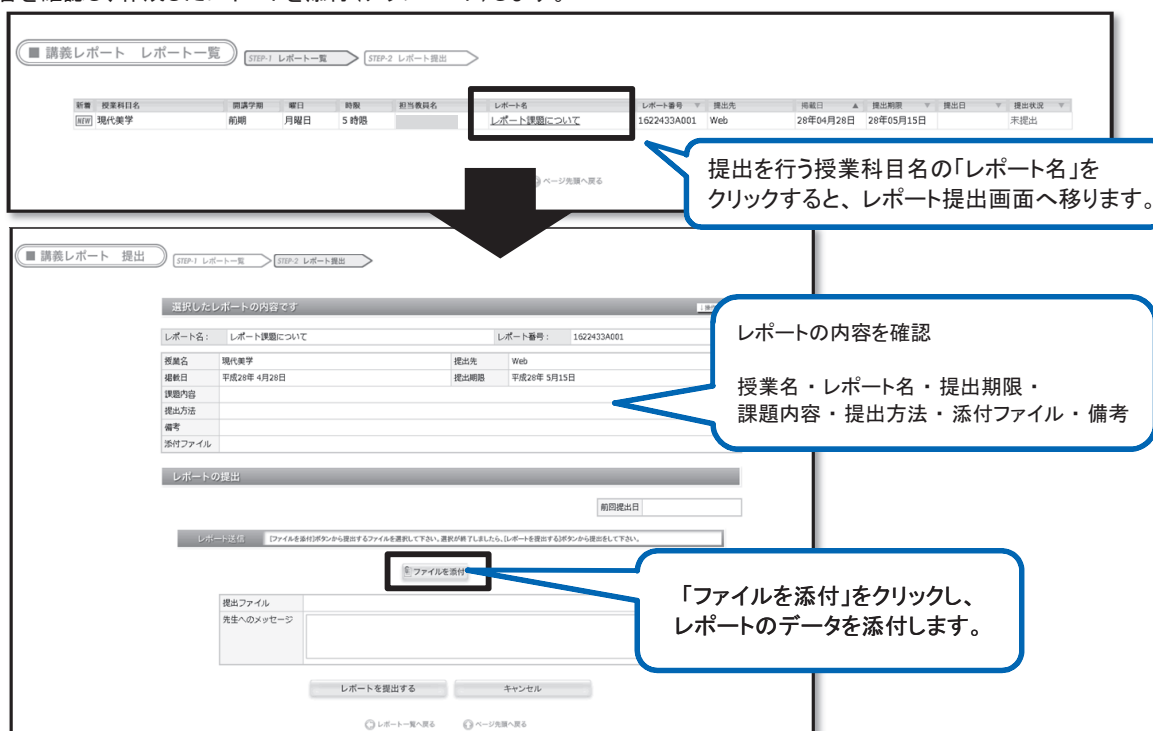
1. ポータルサイト「Active Academy」TOPページより、「レポート提出」をクリックし、情報を確認します。



2. レポート提出する授業を選択します。

履修している授業のうち、教員がWeb上でのレポート提出を設定した授業科目の一覧が表示されます。

(授業科目名、開講学期、曜日時限、担当教員名、レポート名、レポート番号、提出先、掲載日、提出期限、提出日、提出状況)内容を確認し、作成したレポートを添付(アップロード)します。



3. アップロード(添付)するレポートのデータを選択します。

「ファイルを添付」ボタンをクリックすると、「ファイルのアップロード」画面が別に表示されます。

【注意】ファイル添付(アップロード)上の注意

- ・ 1ファイル5MBまでのファイルを最大3ファイルまで。同一ファイルの複数アップロード不可。
- ・ 容量が大きいファイルを指定すると「ページを表示できません。」画面が表示される可能性があります。表示された場合はウィンドウを閉じてやり直して下さい。
- ・ PDF(pdf)、Word(doc、docx)ファイルのアップロードが可能です。ファイル名は全角27文字(半角55文字)以下にしてください。

【備考】ファイルアップロード画面が表示されない場合

各自で利用しているブラウザ(chrome、safari、Fire fox等)の設定からポップアップブロック機能を解除してください。

① 「ファイルを選択」をクリックし、作成したレポートのデータを選択

② レポートのデータを選択したら、「アップロード」ボタンをクリック

③ 「アップロードをしました」とメッセージが表示されます。
【注意】この時点ではまだレポート提出は完了していません

④ 添付が完了した場合→「閉じる」ボタン
他にも添付する場合 →「続けてアップロード」ボタンをクリック

4. 添付したレポートのデータを提出します。

レポートファイルの添付が全て完了したら、レポートを提出します。

「レポートを提出する」をクリック

「レポート提出を完了しました」と表示されたら提出完了です

5. レポートが提出されていることを確認します。

ポータルサイトTOPページより、「レポート提出」をクリックし、提出状況が「提出済」となっているかを確認します。

「提出済」と表示されているか必ず確認

新着	授業科目名	開講学期	曜日	時間	担当教員名	レポート名	レポート番号	提出先	掲載日	提出期限	提出日	提出状況
NEW	現代美学	前期	月曜日	5 時限		レポート課題について	1622433A001	Web	28年04月28日	28年05月15日	28年04月28日	提出済

※レポートを再提出したい場合

レポートの再提出は、教員が設定した提出期限内であれば提出可能です。(提出方法は初回提出時と同じです。)

【注意】再提出した場合は前回提出したレポートのデータは全て破棄されますので、注意してください。

例:最初に複数のレポートデータを提出し、その後提出した内の1つのレポートだけを再提出する場合、再提出するレポートと一緒に、必ず前回提出した他のレポートも同時に提出してください。

こんな時は・・・



Q1. ファイルアップロード画面で「ファイル選択」ボタンを押しても画面が開かない。

A1. ①新たに別のタブが開いていないか確認してください。ブラウザをフルスクリーンの状態にしているとタブとして開く場合があります。

②インターネットブラウザのポップアップブロックを解除してください。

解除方法はブラウザやPCのOSまたはそれらのバージョンによって異なります。以下の方法でできなければ、インターネットで「ポップアップブロック解除 Safari(←使用しているブラウザ名やPCのOSを入力)」で調べてください。

(Safari)

1. トップメニューから「Safari」をクリックして「環境設定」を選択します。
2. 「Webサイト」タブをクリックします。
3. 左側の「一般」下にある「ポップアップウィンドウ」を選択します。
4. 右下にある「これ以外でのWebサイトでのデフォルト設定」のドロップダウンをクリックします。
5. 「許可」を選択します。

(Mozilla Firefox)

1. ブラウザ右上にある「ツール」メニュー(三本線)を開きます。
 2. 「オプション」をクリックします。
 3. 「コンテンツ」タブをクリックします。
 4. 「ポップアップウィンドウをブロックする」のチェックを外します。
- 2,3が表示されない場合は、「コンテンツブロック」をクリックして、「許可設定」のメニューに移動します。

(Google Chrome)

1. パソコンで Chrome を開きます。
2. 右上のその他アイコン: > [設定] をクリックします。
3. 下の [詳細設定] をクリックします。
4. [プライバシーとセキュリティ] の [サイトの設定] をクリックします。
5. [ポップアップとリダイレクト] をクリックします。
6. 上部の設定を [許可] に切り替えます。

(Internet Explorer)

1. Internet Explorerの画面右上にある歯車アイコンをクリック。
2. 「インターネットオプション」をクリック。
3. 「プライバシー」タブをクリックし、「ポップアップブロックを有効にする」のチェックを外します。

(Microsoft Edge)

1. Microsoft Edge [詳細] アイコン ... をタップします。
2. 「詳細」一覧が表示されます。[設定] をタップします。
3. 「設定」一覧が表示されます。「詳細設定」欄の [詳細設定を表示] をタップします。
4. [ポップアップをブロックする] 欄のつまみをタップし、オフに切り替えます。

Q2. アップロード時点で、「このファイルは文字化けする可能性があるのでファイル名を変更してください」のエラーメッセージが出る。

A2. ①インターネットブラウザをSafariに変えて試してください。Mozilla FirefoxやGoogleChromeの場合、上記のメッセージが出てしまう現象が見受けられます。

②①でも解消されない場合、可能であれば(レポートファイル名に指定された条件が特でない場合)ファイル名を変更してください。

濁音(ガザダバ行の音)や半濁音(バ行音)が含まれているとエラーが出てしまう可能性があります。

①②でもアップロードできない場合は教育支援センターまでご連絡ください。

Q3. アップロードしようすると、「ページを表示できません。」画面が表示される

A3. ファイルの容量が1ファイル5MBを超えていませんか？1ファイル5MBまでのファイルを最大3ファイルまでしかアップロードできません。

ファイルが複数ページにわたる場合は、3つのファイルに分割してそれぞれアップロードし、提出画面の「先生へのメッセージ」にその旨を記載してください。

Q4. 「レポートを提出する」ボタンをクリックしても次の画面に進めません。

A4. ファイル名を全角27文字(半角55文字)以下にしてください。

Web 出欠登録の手順について

●はじめに ～Web出欠登録について～

【スマートフォン出欠登録専用サイトについて】

- ・女子美術大学では、講義系授業科目における出席の届け出について「Web出欠管理システム」を導入しています。
- ・各自で出欠登録専用サイトへログイン&出欠登録を行うことで、授業科目毎の出欠情報がActive Academyの「出席簿」へ自動で登録されるため、出欠状況をリアルタイムに確認・把握する事が可能となります。

出欠登録専用サイト
QRコード



【ログインページについて】

(出欠登録専用サイトのURL) <https://aa.joshibi.net/attend/>

- ・スマートフォン・タブレット端末・PCからアクセス可能です。 ※QRコードでの接続も可能です。
- ☞上記URLをブックマーク(お気に入り登録)しておく、次回より登録作業がスムーズになります。

【ユーザーIDとパスワードについて】

Active Academyにログインする際に使用するユーザーID、パスワードと同じです。

ユーザーIDとパスワードを忘れてしまった場合は、下記「図書美術館グループ」までお問合わせください。

- ・杉並キャンパス2号館B1階
- ・相模原キャンパス3号館(図書館)3階

【出欠登録時における注意事項について】

- ・出欠登録の際、毎回特定のパスワードを入力する必要があります。
- ☞パスワードは授業開始前に担当教員より告知されるので、よく注意して確認してください。
- ・出欠登録は制限時間内に行う必要があります。
- ☞出欠登録時間外は「遅刻」または「登録時間外」となりますので、パスワードを確認次第、早急に登録してください。



●出欠登録作業の流れについて

1. スマートフォン専用の出欠登録専用サイトに接続します。

(例：iPhoneを使用する場合)

- ①インターネットに接続したら、ブラウザアプリ(Safari等)で、出欠登録専用サイトにアクセスしてください。
<https://aa.joshibi.net/attend/> (※URLの打込み間違いに注意!) ※QRコードでの接続も可能です。
- ②ログイン画面が表示されたら、ユーザーIDとパスワードを入力してください。(図2)

出欠登録専用サイト
QRコード



図.2 ログイン画面

正常にログインすると
出欠登録画面が表示されます。
(図.3)

Active Academyにログインする際に使用
するユーザーID、パスワードと同じです。

正常にログインが出来なかった場合・・・(図.4)

図.4 エラー画面

図.3 出欠登録画面

自身の学籍番号・氏名で
表示されているか確認してください。

- ・各自で履修登録している、1週間分の授業情報(講義科目)のみ一覧で表示されます。
- ・週の表示は日曜始まりとし、日曜になると翌週の表示に変わります。
- ・ここで表示される内容は下記の通りとなります。
①学籍コード ②氏名 ③日付 ④曜日 ⑤教室名[] ⑥担当教員

【エラー原因について】

- ・インターネットに正しく接続されているか確認をしてください。
- ・接続が混雑している可能性がありますので、少し時間を空けて再度ログインを試みてください。

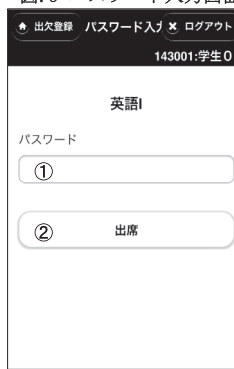
3. 出席する授業のパスワードを入力し、登録を完了します。

図.3 出欠登録画面



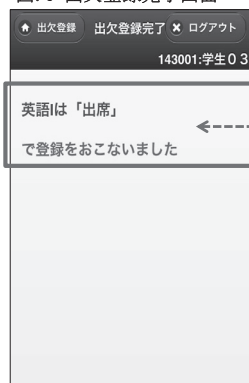
出欠登録画面(図.3)で、出席する授業名を選択するとパスワード入力画面に遷移します。(図.5)

図.5 パスワード入力画面



正しいパスワードを入力した場合、「〇〇(科目名)は「出席」で登録をおこないました」と表示されます。(図.6)

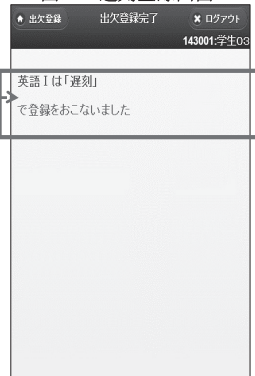
図.6 出欠登録完了画面



①「パスワード」入力欄に担当教員から事前に告知された指定のパスワードを入力します。(図.5)
②「出席」ボタンを押してください。

出欠登録時間外に登録した場合・・・

図.7 遅刻登録画面



出欠登録時間外に登録した場合、「〇〇(科目名)は「遅刻」で登録をおこないました」と表示されます。(図.7)

図.8 出欠登録画面



出欠登録画面に戻ると、出欠登録した授業の時限の横に登録状態(出席・遅刻・欠席)が表示されます。(図.8)

※無線接続時の混雑回避の為、作業終了後は必ずログアウトし、当該サイトの接続を終了するよう、ご協力ください。

以上でスマートフォン専用サイトによる出欠登録作業は終了です。各自、Active AcademyのMyInformation-個人情報-「出欠情報」にて出席状況を確認してください。

Web 出欠登録について

- Q.** 自分のユーザー IDとパスワードが分からないor忘れてしまった場合…
- A.** 「図書美術館グループ」の情報システム担当(図書館事務室)までお問い合わせください。
- Q.** 学内Wi-Fiに接続出来たが、出欠登録専用サイトにアクセスできない場合…
- A.** 出欠登録専用サイトのURLを打ち込む際に、下記誤入力をしている場合が考えられますので、よく確認をしながらURLを打ち込んでください。
⇒よくある誤入力…【URLの最初、httpsの「s」が抜けている】、【「.」が抜けている】、【URLの最後に「/」を入れ忘れている】等
- Q.** 出欠登録完了後、出欠登録画面に【出席】と表示されたのに、後日Active AcademyのMyInformationー学修ポートフォリオー「出欠情報」で確認すると、出席になっていなかった場合
- A.** このような場合は、至急教育支援センターの窓口へ来てください。
【重要】出欠登録後、該当科目に【出席】が表示されたら、なるべくその場でActive Academyの出欠情報に反映されているか確認しておいてください。(※念のため、登録完了が表示された画面をスクリーンショット等で保存しておく、窓口で事情が説明しやすいかと思います。)
- Q.** Google meetまたはclassroom等に接続できない(授業に参加できない)
- A.** デバイスや回線の不具合によるものが多く、大学側・教員側ではサポートすることが出来ない場合が散見されます。学生の皆さんはこれまでの経験を活かし、以下のように受講する体制を整えてください。
- ・出欠登録画面は時間に余裕を持って画面を開いておく
 - ・主に使用するPCの他に、予備としてスマートフォンやタブレットにmeetやclassroomアプリケーションをインストールしておき、PCが不安定の際は他のデバイスからも接続できる状態にする
 - ・主に使用するWi-Fi回線の他に、携帯電話の通信(4G等)回線を利用する(スマートフォンにも出欠登録画面をブックマークしておく)
 - ・可能であれば、テザリングサービス(スマートフォンをWi-Fiルーターの代わりとする)を使用できるようにしておく
- Q.** 授業に出席しているにも関わらず、ActiveAcademyの出欠登録を忘れてしまった場合
- A.** 担当教員または教育支援センターに申し出があっても、自身の不注意や通信環境による出欠の未登録(欠席)、登録遅れ(遅刻)については一切対応致しませんので、そのようなことがないよう、くれぐれも出席登録を忘れないようにしてください。
- Q.** classroomのクラスコードが分からない場合…
- A.** 作成・運用は授業担当教員が行っているため、教育支援センターではクラスコードを把握していません。授業担当教員に確認してください。
- Q.** 課題や資料の配信は何を使用しているか。
- A.** Google classroom、Google forms、ActiveAcademy等の使用が考えられます。授業科目ごとに運用が異なりますので、課題の提出方法は、必ず担当教員の指示に従ってください。

※ポータルサイトにリンクしている「履修に関するQ&A」も参考にしてください。
https://www.joshibi.net/aa/risyu_QA.pdf

2024 履修登録用時間割 下書き表

前 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

後 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

集中 など					

「集中など」の欄には
「集中授業」「教育実習」「博物館実習」等を記入してください。